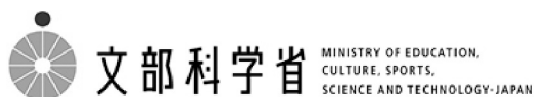


平成 28 年度 文部科学省委託事業

「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業

社会人等学び直しのための 環境・エネルギー分野における 中核的専門人材養成事業

成果報告書



平成28年度 文部科学省委託事業

「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業

社会人等学び直しのための 環境・エネルギー分野における 中核的専門人材養成事業

学校法人 小山学園 専門学校 東京テクニカルカレッジ

目 次

はじめに.....	iii
第1章 全体概要	1
1. 事業の趣旨と概要	3
2. 必要な背景	3
3. 目指す人材像	4
4. 組織と体制	4
① 構成機関と構成員	5
5. 会議実績	12
第2章 実証講座の実施概要	17
1. 経緯と背景	19
2. 活動概要	20
3-1 「住環境エネルギー講座」シラバス	23
3-2 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス	23
4. 実証講座実施先	24
第3章 実証講座実施結果	29
住環境エネルギー講座	31
住環境エネルギー講座【岡山地域】	33
住環境エネルギー講座【福岡地域】	45
住環境エネルギー講座【高知地域】	57
住環境エネルギー講座 全地域合計【受講者アンケート比較】	69
新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	81
新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【高知地域】	83
新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【福岡地域】	95

新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座 全地域合計【受講者アンケート比較】	109
第4章 本事業の評価と検証	119
1. 企画推進委員会における本事業の検証	121
2. 第三者からの評価	124
第5章 まとめ	127
1. 第三者評価・検証からの結論	129
2. 実施意義	130
参 考 資 料	131
サブテキスト表紙、目次	133
議事録	135

はじめに

この事業は、文部科学省委託事業として専修学校や大学等の高等教育機関が、企業や業界団体、その他関係機関が協働し、地域や産業界の人材ニーズに対応した、社会人等が学びやすい教育プログラムの開発・実証を行い、成長分野等における中核的専門人材や高度人材の養成を図る「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業である。

事業は平成23年度から始まり、当時は7件の委託事業、87百万円の予算でスタートしたが、平成28年度には76件、1,533百万円の予算がつくまでに拡大し、中核的人材の要請が高まっていることがうかがえる。

本成果報告書は、その成長分野のひとつである「環境・エネルギー分野」における社会人等が学びやすい教育プログラムの開発・実証を行った成果である。

この「環境・エネルギー分野」は直近では、来たる2020年東京オリンピックの会場および施設はすべて、建築物の環境性能を評価し、格付けする日本の手法である、エネルギー効率建築物認証基準CASBEE（建築環境総合性能評価システム）に適合するよう建築や改築を行う予定である。さらに政府が「水素社会」の国際見本市にしようとする本腰を入れる予定で、例えば選手村の電気は水素を使うとか交通システムも水素自動車を自動運転で走らせる…等々、「環境・エネルギー分野」の話題は枚挙にいとまがない。

このように「環境・エネルギー分野」は今後我が国の産業を支える成長分野であり、あらゆる産業に関連するとともに、求められる人材は、技術の発展とともに需要が高まっていく。

それには、それを支える人材の養成を、学校教育の段階から「環境・エネルギー分野」に関わる知識及び技術等を習得する教育プログラムの開発を行い、既存の産業分野で働く社会人にとっても学び直しができるように教育プログラムを用意していかなければならない。

そのために、本事業で開発した2講座「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は、建築士会CPD認定講座として日本建築士会連合会の承認を得られていることにより、この開発した教育プログラムを使用すれば、どの教育機関・団体でも全国どの地域においてCPD認定講座として社会人の学び直しの事業ができる（CPD講座のプロバイダー契約は日本建築士会連合会と必要）プログラムとした。

つまり、社会的に評価・承認が得られている社会人学び直し講座として、全国各地域の専修学校や教育機関、団体から有資格者や建築分野従事者に向けて、啓蒙活動の一助となると考えられる。

平成29年2月

「社会人等の学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業」

代表機関：学校法人小山学園 東京テクニカルカレッジ

事業責任者：佐々木 章

第1章 全体概要

第1章 全体概要

1. 事業の趣旨と概要

既存の産業分野と異なり、「環境・エネルギー分野」は全く新しい産業分野である。そのため人材の育成は、既存の学校教育の中にも存在しない(〇〇学部や〇〇学科が無い)。

しかし、環境問題や代替エネルギー問題は世界的な規制と新たな産業を生み出してきている(再生可能エネルギー開発とインフラ等)。

現在、日本の基幹産業である自動車や建築等においては、技術開発が進み、省エネ技術、代替エネルギーとしてEV・FCVやHEMS・エネファーム等が普及し始めている。

それらの新しい技術に対応するための知識や技能の習得は一部の企業や社会人による独力に頼っているのが現状である。

ここで開発する教育プログラムは、各産業分野の中で特段必要となる創エネ・畜エネ・省エネの新しい知識や技術を社会人が学び直せるよう教育プログラムを開発する。今回は特に日本の基幹産業であり環境・エネルギー分野の関連性の高い建築関連産業に特化した教育プログラム「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」を開発する。これによって、2020年省エネ基準の義務化やインフラ整備等のGDPや雇用規模の拡大に対応する社会人の就業、キャリアアップ、キャリア転換につながることを成果とする。

2. 必要な背景

我が国の動向として、日本再興戦略における「日本産業再興プラン」うち、「戦略市場創造プラン」の一つである「クリーン・経済的なエネルギー需給の実現」は、

- ① クリーンで経済的なエネルギーが供給される社会
- ② 競争を通じてエネルギーの効率的な流通が実現する社会
- ③ エネルギーを賢く消費する社会

の3つの社会を実現したエネルギー最先進国を目指す戦略である。

そして、その市場や雇用等は、再生可能エネルギー、高効率火力発電、蓄電池、次世代デバイス・部素材、エネルギーマネジメントシステム、燃料電池、省エネ技術関連製品・サービス、次世代自動車・インフラ整備等を戦略分野として、2020年に以下のような市場と雇用の規模創出を目指している。

【市場規模】… 2013年⇒2020年(国内)4兆円⇒10兆円、(国外) 4兆円⇒16兆円、
(計)8兆円⇒26兆円

【雇用規模】… 2013年:55万人⇒ 2020年:168万人

このように、「環境・エネルギー」分野は今後我が国の産業を支える成長分野の一つとして考えられており、既存のあらゆる産業に関連し、技術の裾野も広いという産業横断的・学際的な側面を持ち、更には地域や企業によって求める技術が異なるという特徴を有していることから、既存の産業分野における人材に対するニーズも多岐に渡っている。

環境・エネルギー分野においては、CO₂の削減目標の再定義や東日本大震災後の復興状況における電力の需給のバランス、再生可能エネルギー技術の高度化、固定買取制度の見直し、電力事業の自由化、ベースロード電源構想等により、エネルギー政策も含めて経年的に社会的な環境変化、さまざまな産業構造の変化を続けている。

エネルギー政策の経年変化を辿ると…

一例として以下のような内容が挙げられる。

2030年に「ベースロード電源」の比率を東日本大震災前に戻すこととし、安定的な電力の発電を行う計画をしている。

2012年(平成24年)には再生可能エネルギー固定買取制度がスタートし、太陽光発電事業を後押しがあったが、その後、需給バランスが崩れ買取価格が下落してしまった。

2016年(平成28年)には電力の小売り全面自由化(個人向け開始)、2017年(平成29年)には、ガスの自由化、2020年(平成32年)には「発送電分離」を決定されており、既に従来の電力会社も発電会社と送電会社を立ち上げ準備に入っている。

さらに、建設物・住宅における「省エネ基準適合義務化」(みずほ銀行試算 雇用29.6万人 GDP5.2兆円)、2022年(平成34年)には、ガスの「導管分離」の別会社を法律化しようとしている。…等々 政策面からの環境・エネルギーに対する民間事業への施策が目白押しとなっている。

エネルギー基本政策(2030年)も含めた創エネ(エネルギーベストミクス)、畜エネ(燃料電池等)、省エネ(スマートコントロール等)の分野として、さらなる技術開発と他産業(職域)との融合が期待され、その人材養成に必要な教育分野の体系的な確率が急がれる。

また、地方地域特性と付加価値創造の人材供給として、現在、地方創生事業(環境モデル都市全国23自治体等)の含め、地域環境を活かした再生可能エネルギー開発とエネルギーのスマートコミュニティ化等、地方創生の事業化として太陽光、風力、地熱、水力、バイオマス等々その地域資源を活かしたエネルギー開発の事業化や他産業との連携(ジオパークや観光)、雇用創出等が行われている。

その地域特性における資源の環境・エネルギー事業化や地域産業との連携を図る人材、及びそれを可能とする基礎的な専門知識を有する人材が地域地元では求められている。

具体的には、前述の2020年に義務化される「エネルギー使用の合理化に関する建築主事等及び特定建築物の所有者の判断基準(通称:省エネ基準)には、建築物の適合化にむけて経済成長と雇用が見込まれ、建築従事者に新省エネ法順守、省エネ基準義務化に向けた地域特性の省エネ策技術が求められる。

このように、本事業においては既存の産業分野にイノベーションを起こす「環境・エネルギー分野」に関わる知識及び技術等を習得する教育プログラムの開発は必須であり、既存の各産業分野で働く社会人の学び直しができるように教育プログラムを各産業分野において開発・用意していかなければならない。

3. 目指す人材像

既存の産業分野のうち、建築関連産業に従事する社会人が新しい環境・エネルギー分野の知識や技術を学び直しすることによって、キャリアアップを図り、業務の高付加価値を生み新しい建築分野の事業規模拡大に資する人材を育成する(住環境エネルギー人材)。

4. 組織と体制(役割と連携機関)

<企画推進委員会:各WGの進捗状況運営管理・検証・質保証等を行う。>

清水建設(株)、(株)ジオリズム、(株)マスターリンク、インテリアプランナー協会、東京商工会議所検定センター、NPO法人生活福祉・環境21、NPO法人環境カウンセラー全国連合会、筑波大学、福島大学、首都大学東京大学院、武蔵野大学、神戸電子専門学校、中国デザイン専門学校、高知情報ビジネス&フード専門学校

<地域版テキスト開発WG:これまでの取組みの地域版社会人学び直し教育プログラム開発の見直し、新規講座などを業界の動向を見定めながら精査・作成を行う。>

清水建設(株)、(株)楓設計室、(株)マスターリンク、東京商工会議所検定センター、NPO法人生活福祉・

環境21、NPO法人環境カウンセラー全国連合会、エコピープル支援協議会、首都大学東京大学院、近畿大学

<実証実験中国・四国WG:地域版テキスト開発WGで開発されたものを基に、岡山・高知地域での実証実験の実施・検証を行う。>

中国デザイン専門学校、高知情報ビジネス&フード専門学校、(株)楓設計室、NPO法人環境カウンセラー全国連合会、岡山県建築士会、高知県建築士会、土佐経済同友会

<実証実験九州WG:地域版テキスト開発WGで開発されたものを基に、福岡地域での実証実験の実施・検証を行う。>

麻生建築&デザイン専門学校、(株)楓設計室、近畿大学、NPO法人環境カウンセラー全国連合会、福岡県建築士会

教育機関数 10機関/企業数 4機関 | 業界団体数 4機関/その他 5機関 | 合計 23機関

① 構成機関と構成員

(1)構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ	事業代表校	東京
2	学校法人麻生塾 麻生建築&デザイン専門学校	教育機関連携校・実証	福岡
3	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校	教育機関連携校・質保証・評価	兵庫
4	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス&フード専門学校	教育機関連携校・実証	高知
5	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校	教育機関連携校・実証	岡山
6	筑波大学 大学研究センター	質保証・評価	東京
7	福島大学 地域創造支援センター	質保証・評価	福島
8	首都大学東京大学院 都市環境学部 建築都市コース 都市環境科学研究科 建築学域	質保証・評価	東京
9	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
10	清水建設株式会社	質保証・評価	東京
11	株式会社楓設計室	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
12	株式会社ジオリゾーム	質保証・評価	大阪
13	株式会社マスターリンク	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
14	一般社団法人日本インテリアプランナー協会	団体ユニット・質保証・評価	東京
15	東京商工会議所 検定センター	団体ユニット・質保証・評価	東京
16	東京商工会議所 中野支部	団体ユニット・質保証・評価	東京
17	特定非営利活動法人生活・福祉環境づくり21	団体ユニット・質保証・評価	東京
18	エコピープル支援協議会	企業ユニット・質保証・評価	東京
19	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会	カリキュラム開発・質保証・実証	東京

(2) - 1 構成員(委員)の氏名(上記(1)の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等)

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐々木 章	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2	今泉清太	学校法人麻生塾 麻生建築&デザイン専門学校 教務部長	教育機関連携校・実証	福岡
3	福岡壯治	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校 校長	教育機関連携校・質保証・ 評価	兵庫
4	佐竹新市	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス&フード専門 学校 理事長	教育機関連携校・実証	高知
5	田口一子	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 校長	教育機関連携校・実証	岡山
6	上岡直司	学校法人龍馬学園 本部 課長	教育機関連携校・実証	高知
7	石元 優	学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ 教務部 課長	教育機関連携校・実証	高知
8	中山裕志	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 教員	教育機関連携校・実証	岡山
9	稲永由紀	筑波大学 大学研究センター 講師	質保証・評価	東京
10	小沢喜仁	福島大学 地域創造支援センター長	質保証・評価	福島
11	依田浩敏	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授	カリキュラム開発・質保証・ 実証	福岡
12	小泉雅生	首都大学東京大学院 都市環境学部 建築都市コース 都市環境科学研究科 建築学域 教授	質保証・評価	東京
13	伊藤泰彦	武蔵野大学 工学部建築デザイン学科 教授	質保証・評価	東京
14	霜野 隆	一般社団法人日本インテリアプランナー協会 会長	質保証・評価	東京
15	加藤陽介	株式会社楓設計室 代表取締役	カリキュラム開発・質保証・ 実証	東京
16	中村健二	清水建設株式会社 技術センター所長	カリキュラム開発・質保証	東京
17	井上利一	株式会社ジオリズム 代表取締役	質保証・評価	大阪
18	西山正晃	土佐経済同友会 幹事 高知トヨペット株式会社 代表取締役	企業ユニット・実証	高知
19	吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・ 実証	東京
20	川瀬健介	特定非営利活動法人生活・福祉環境づくり21 参与	団体ユニット・質保証・評価	東京
21	澤登信子	エコピープル支援協議会	企業ユニット・質保証・評価	東京
22	佐藤幸太郎	東京商工会議所 検定センター 所長	団体ユニット・質保証・評価	東京
23	菊池圭二	東京商工会議所 中野支部 事務局長	団体ユニット・質保証・評価	東京
24	佐々木進市	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 理事長	カリキュラム開発・質保証	東京

25	今井秀雄	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長	カリキュラム開発・質保証	東京
26	佐藤孝史	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(群馬県) 副理事長	カリキュラム開発・質保証・実証	群馬
27	鬼頭正克	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(愛知県) 常務理事	カリキュラム開発・質保証	愛知
28	藤本晴男	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(岡山県) 副理事長	カリキュラム開発・質保証・実証	岡山
29	高瀬恵悟	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京
30	山口奈津	学校法人小小学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京

(2) - 2 企画推進委員会の構成員(委員)(上記(2)の者うち本委員会構成員))

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 佐々木 章	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2 福岡壯治	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校 校長	教育機関連携校・質保証・評価	兵庫
3 佐竹新市	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス&フード専門学校 理事長	教育機関連携校・実証	高知
4 田口一子	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 校長	教育機関連携校・実証	岡山
5 稲永由紀	筑波大学 大学研究センター 講師	質保証・評価	東京
6 小沢喜仁	福島大学 地域創造支援センター長	質保証・評価	福島
7 霜野 隆	一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 会長	質保証・評価	東京
8 小泉雅生	首都大学東京大学院 都市環境学部 建築都市コース 都市環境科学研究科 建築学域 教授	質保証・評価	東京
9 伊藤泰彦	武蔵野大学 工学部建築デザイン学科 教授	質保証・評価	東京
10 中村健二	清水建設株式会社 技術センター所長	質保証・評価	東京
11 井上利一	株式会社ジオリゾーム 代表取締役	質保証・評価	大阪
12 吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
13 川瀬健介	特定非営利活動法人生活・福祉環境づくり21 参与	団体ユニット・質保証・評価	東京
14 佐藤幸太郎	東京商工会議所 検定センター 所長	団体ユニット・質保証・評価	東京
15 佐々木進市	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 理事長	カリキュラム開発・質保証	東京
16 高瀬恵悟	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京
17 山口奈津	学校法人小小学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京

(3) -1 企画推進委員会における下部組織(地域版テキスト開発WG)の構成員(委員)

(設置は任意)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 佐々木 章	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2 中村健二	清水建設株式会社 技術センター所長	カリキュラム開発質保証	東京
3 吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
4 加藤陽介	株式会社楓設計室 代表取締役	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
5 依田浩敏	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授	カリキュラム開発・質保証・実証	福岡
6 小泉雅生	首都大学東京大学院 都市環境学部 建築都市コース 都市環境科学研究科 建築学域 教授	カリキュラム開発・質保証・評価	東京
7 佐藤幸太郎	東京商工会議所 検定センター 所長	団体ユニット・質保証・評価	東京
8 川瀬健介	特定非営利活動法人生活・福祉環境づくり21 参与	団体ユニット・質保証・評価	東京
9 澤登信子	エコピープル支援協議会	企業ユニット・質保証・評価	東京
10 佐々木進市	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 理事長	カリキュラム開発・質保証	東京
11 今井秀雄	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長	カリキュラム開発・質保証	東京
12 佐藤孝史	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(群馬県) 副理事長	カリキュラム開発・質保証	群馬
13 藤本晴男	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(岡山県) 副理事長	カリキュラム開発・質保証	岡山
14 高瀬恵悟	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京
15 山口奈津	学校法人小山学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京

(3) -2 企画推進委員会における下部組織(実証実験中国・四国WG【岡山】)の構成員(委員)

(設置は任意)

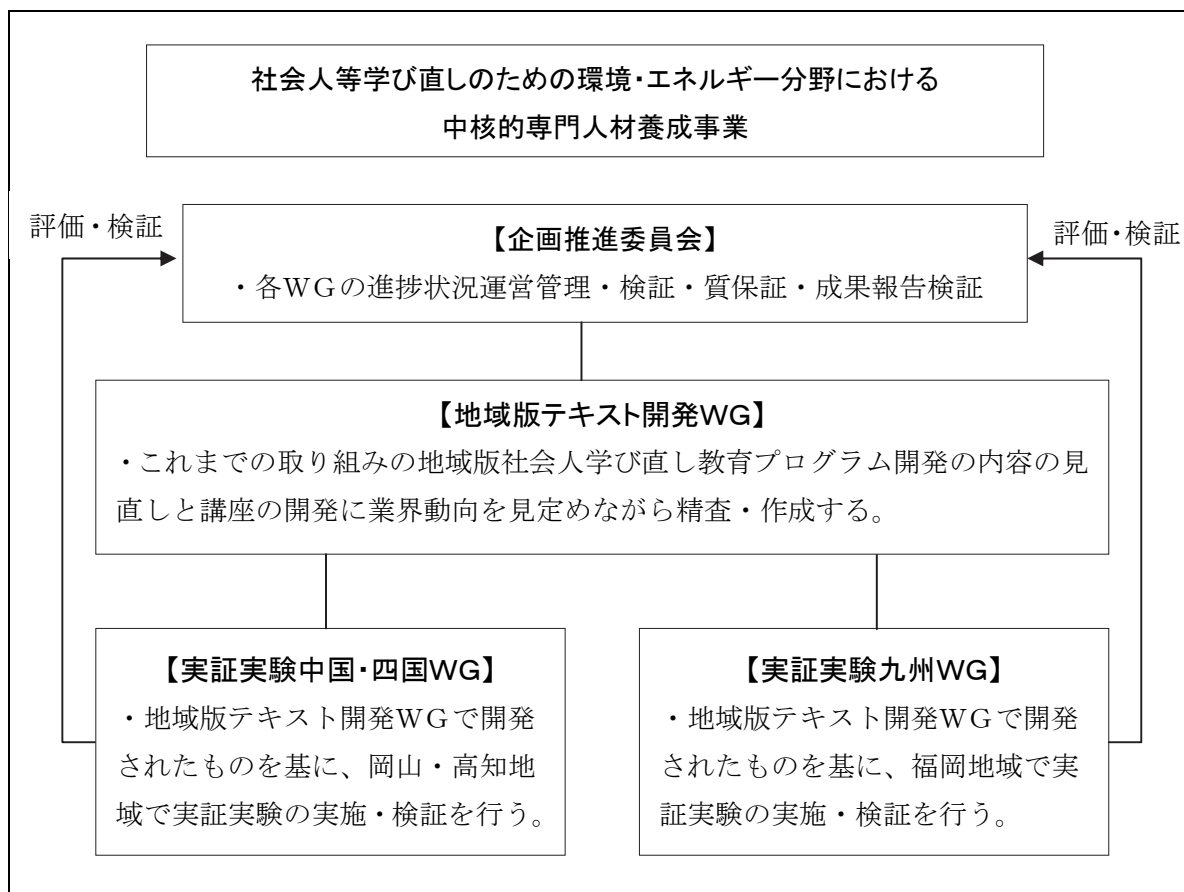
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 佐々木 章	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2 田口一子	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 校長	教育機関連携校・実証	岡山
3 中山裕志	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 教員	教育機関連携校・実証	岡山
4 吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
5 藤本晴男	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(岡山県) 副理事長	カリキュラム開発・質保証・実証	岡山
6 高瀬恵悟	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京
7 山口奈津	学校法人小山学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京

(3) - 3 企画推進委員会における下部組織(実証実験中国・四国WG【高知】)の構成員(委員)
(設置は任意)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 佐々木 章	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2 佐竹新市	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス&フード専門学校 理事長	教育機関連携校・実証	高知
3 上岡直司	学校法人龍馬学園 本部 課長	教育機関連携校・実証	高知
4 石元 優	学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ 教務部 課長	教育機関連携校・実証	高知
5 西山正晃	土佐経済同友会 幹事 高知トヨペット株式会社 代表取締役	企業ユニット・実証	高知
6 吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
7 依田浩敏	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授	カリキュラム開発・質保証・実証	福岡
8 今井秀雄	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長	カリキュラム開発・質保証	東京
9 山口奈津	学校法人小山学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京

(3)-④ 企画推進委員会における下部組織(実証実験九州WG)の構成員(委員)
(設置は任意)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 佐々木 章	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 理事	事業責任者	東京
2 今泉清太	学校法人麻生塾 麻生建築&デザイン専門学校 教務部長	教育機関連携校・質保証・評価	福岡
3 依田浩敏	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授	カリキュラム開発・質保証・実証	福岡
4 吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	カリキュラム開発・質保証・実証	東京
5 山口奈津	学校法人小山学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ	産学官連携・事務局・質保証・評価	東京



(2)会議概要

会議名①	企画推進委員会		
目的	本事業の取り組みにおいて、各WGの進捗状況運営管理と評価・検証・質保証・成果報告に至るまでの会議		
検討の 具体的内容	実証講座の開発プログラムの精査、実施日決定から終了までの進捗管理と実証講座の内容の質保証と検証・評価、成果報告の検証。		
委員数	17人	開催頻度	7～12月間で4回

会議名②	地域版テキスト開発WG		
目的	建築関連産業に特化した「住環境エネルギー講座」と省エネ基準の地域特性手法を取り入れた「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の実証講座に向けた、CPD認定講座の教育プログラム開発を行う。		
検討の 具体的内容	「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」のプログラム開発(カリキュラム・シラバス・コマシラバス・授業シート・カルテ・履修判定試験)と建築士会CPD認定講座の内容を作成する。 岡山・高知・福岡の地域における実証講座の開催		
委員数	15人	開催頻度	7～10月間で3回

会議名③	実証実験中国・四国WG(岡山)		
目的	建築関連産業に特化した「住環境エネルギー講座」と省エネ基準の地域特性手法を取り入れた「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の実証講座実施。		
検討の 具体的内容	岡山地域において、実証講座を実施する。 開催日に向けた受講生募集、地域版テキスト開発WGで開発された教育プログラム内容の確認等。		
委員数	7人	開催頻度	8～10月間で計3回

会議名④	実証実験中国・四国WG(高知)		
目的	建築関連産業に特化した「住環境エネルギー講座」と省エネ基準の地域特性手法を取り入れた「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の実証講座実施。		
検討の 具体的内容	高知地域において、実証講座を実施する。 開催日に向けた受講生募集、地域版テキスト開発WGで開発された教育プログラム内容の確認等。		
委員数	9人	開催頻度	8～10月間で計3回

会議名⑤	実証実験九州WG		
目的	建築関連産業に特化した「住環境エネルギー講座」と省エネ基準の地域特性手法を取り入れた「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の実証講座実施。		
検討の 具体的内容	福岡地域においての実証講座の実施。 開催日に向けた受講生募集、地域版テキスト開発WGで開発された教育プログラム内容の確認等。		
委員数	5人	開催頻度	8～10月間で計3回

5. 会議実績

<企画推進委員会会議>

① 第一回 企画推進委員会会議

日 時：平成 28 年 7 月 21 日(木) 15:30～17:30

参加者：9名

議 題：(1) 平成 28 年度文部科学省委託事業説明

- ① 事業内容(趣旨、求められる成果等)、② 実施体制(企画推進委員会の役割等)
- (2) 年間スケジュールの説明:会議・実証講座等のタスクスケジュール
- (3) 成果報告書のまとめ案(目次案)
- (4) その他(事務局より連絡事項等)

② 第二回 企画推進委員会会議

日 時：平成 28 年 8 月 25 日(木) 15:30～17:30

参加者：11名

議 題：(1) 日本建築士会連合会CPD認定講座申請進捗状況の説明

- (2) 各WGの状況(タスクスケジュール等)説明
- (3) 「住環境エネルギー講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
実証講座日時の連絡等
- (4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
実証講座日時の連絡等
- (5) その他(事務局より連絡事項等)

③ 第三回 企画推進委員会会議

日 時：平成 28 年 10 月 18 日(火) 15:30～17:30

参加者：11名

議 題：(1) 第三者評価方法・評価シートの様式(案)・第三者評価委員の選定(企業、大学、
団体)、受講者アンケート(案)等

- (2) 各WGの会議進捗状況・報告 等
- (3) 「住環境エネルギー講座」:シラバス・テキスト・募集要項等の最終確認、
各WGの実証講座募集状況の報告 等
- (4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・テキスト、
① 募集要項等の最終確認、② 各WGの実証講座募集状況の報告 等
- (5) その他(事務局より連絡事項等)

④ 第四回 企画推進委員会会議

日 時：平成 28 年 12 月 8 日(木) 15:30～17:30

参加者：9名

議 題：(1) 実証講座の終了報告(受講者数・受講者アンケート途中経過)

- ① 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:
高知版 10 月 25 日(火) 龍馬学園高知情報ビジネス&フード専門学校、
福岡版 11 月 5 日(土) 麻生塾麻生建築&デザイン専門学校
- ② 「住環境エネルギー講座」:
岡山版 11 月 19 日(土) 第一平田学園中国デザイン専門学校、
福岡版 11 月 26 日(土) 麻生塾麻生建築&デザイン専門学校、
高知版 12 月 3 日(土) 龍馬学園高知情報ビジネス&フード専門学校
- (2) 第三者評価実施要領について(評価様式の見直し)
- (3) 今後のスケジュール 他

(4)その他(事務局より連絡事項等)

<地域版テキスト開発WG会議>

⑤ 第一回 地域版テキスト開発WG会議

日 時：平成28年7月26日(火) 15:30～17:30

参加者：10名

議 題：(1)地域版テキスト開発WGの取り組み内容等について
(2)年間スケジュールの説明:会議、実証講座等のタスクスケジュールの確認
(3)「住環境エネルギー講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(4)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(5)その他(事務局より連絡事項等)

⑥ 第二回 地域版テキスト開発WG会議

日 時：平成28年9月6日(火) 15:30～17:30

参加者：11名

議 題：(1)CPD認定講座申請状況、テキスト開発スケジュールの説明等
(2)「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認等
(3)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認等
(4)講座案内の確認等
(5)その他(事務局より連絡事項等)

⑦ 第三回 地域版テキスト開発WG会議

日 時：平成28年10月11日(火) 15:30～17:30

参加者：9名

議 題：(1)CPD認定講座の申請状況
(2)「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の最終確認、②テキスト案の最終確認等
(3)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の最終確認、②テキスト案の最終確認等
(4)実証講座募集要項の最終確認等
(5)その他(事務局より連絡事項等)

<中国・四国実証実験WG【岡山】会議>

⑧ 第一回 実証実験中国・四国WG【岡山】会議

日 時：平成28年8月19日(水) 15:30～17:30

参加者：6名

議 題：(1)実証実験中国・四国WGの取り組み内容等について
(2)年間スケジュールの説明:会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認
(3)「住環境エネルギー講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(4)その他(事務局より連絡事項等)

⑨ 第二回 実証実験中国・四国WG【岡山】会議

日 時：平成28年9月15日(水) 15:30～17:30

参加者：5名

議 題：(1)実証講座実施日時の確認

- (2) CPD認定講座申請状況 等
- (3) 「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認 等
- (4) 講座案内の確認 等
- (5) その他(事務局より連絡事項等)

⑩ 第三回 実証実験中国・四国WG【岡山】会議

日 時 : 平成 28 年 10 月 13 日 (木) 15:30~17:30

参加者 : 5名

- 議 題 : (1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認
(2) 実証講座の募集方法と状況の確認
(3) 「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認 等
(4) その他(事務局より連絡事項等)

<中国・四国実証実験WG【高知】会議>

⑪ 第一回 実証実験中国・四国WG【高知】会議

日 時 : 平成 28 年8月3日(水) 15:00~17:00

参加者 : 7名

- 議 題 : (1) 実証実験中国・四国WGの取り組み内容等について
(2) 年間スケジュールの説明:会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認
(3) 「住環境エネルギー講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(5) その他(事務局より連絡事項等)

⑫ 第二回 実証実験中国・四国WG【高知】会議

日 時 : 平成 28 年9月9日(金) 15:00~17:00

参加者 : 5名

- 議 題 : (1)実証講座実施日時の確認
(2)CPD認定講座申請状況 等
(3)「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認 等、
(3)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
①シラバス・コマシラバス内容の確認、②テキスト原案の確認 等、
(4) 講座案内の確認 等、
(5)その他(事務局より連絡事項等)

⑬ 第三回 実証実験中国・四国WG【高知】会議

日 時 : 平成 28 年 10 月 6 日 (木) 15:00~17:00

参加者 : 6名

- 議 題 : (1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認
(2) 実証講座の募集方法と状況の確認
(3) 「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等
(4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等

(5) その他(事務局より連絡事項等)

<実証実験九州G会議>

⑭ 第一回 実証実験九州WG会議

日 時：平成 28 年8月5日(金) 15:30～17:30

参加者：4名

議 題：(1) 実証実験九州WGの取り組み内容等について、
(2) 年間スケジュールの説明:会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認
(3) 「住環境エネルギー講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認
(5) その他(事務局より連絡事項等)

⑮ 第二回 実証実験九州WG会議

日 時：平成 28 年9月 13 日(火) 15:30～17:30

参加者：4名

議 題：(1)実証講座実施日時の確認
(2)CPD認定講座申請状況 等
(3)「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等
(4)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等
(5)講座案内の確認 等
(6)その他(事務局より連絡事項等)

⑯ 第三回 実証実験九州WG会議

日 時：平成 28 年 10 月 12 日(水) 15:30～17:30

参加者：4名

議 題：(1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認
(2) 実証講座の募集方法と状況の確認
(3) 「住環境エネルギー講座」:進捗状況、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等
(4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」:シラバス・コマシラバス等の確認、
① シラバス・コマシラバス内容の確認、② テキスト原案の確認 等
(5) その他(事務局より連絡事項等)

<成果報告会>

⑰ 成果報告会

日 時：平成 29 年2月3日(金) 16:00～18:00

参加者：23名

議 題：(1) 事業代表者挨拶
(2) 文部科学省生涯学習政策局より事業説明
(3) 基調講演「教育・研究・社会的活動を通した『環境に配慮したまちづくり』実践」
(4) 平成 28 年度文部科学省委託事業 成果報告「社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業」

第2章 実証講座の実施概要

第2章 実証講座の実施概要

1. 経緯と背景

<住環境エネルギー講座>

環境・エネルギー分野を担う人材は、未だに体系化された教育分野が確立されていないのが現状である。

また、教育分野においては、環境・エネルギー分野が既存の学部や学科のカリキュラムの一部の教育であっても、その教育成果を問うアウトカムが可視化されていない。

住宅・建築分野はわが国のエネルギー消費の約3割を占め、核家族化による世帯数の増加、世帯床面積の増加、家電の充実、ライフスタイルの変化で、エネルギー消費は増えている。

そこで、国としても「低炭素社会に向けた住まいと住まい方」の推進方策の中間報告では2020年までに新築住宅の省エネルギー基準への100%の適合化を目指している。

このような社会背景の元、建築業界にとって住環境エネルギー化として、建築物の計画手法、施工計画、効果、施工上の留意点まで幅広く学ぶことにより、その手法や施工技術の向上は必要不可欠なスキルであることから建築分野に絞り実証講座を実施した。

□ 注目すべき点:

- ① 建築士会CPDの承認を得た認定講座
- ② スコア制導入による知識レベルの可視化 等

<新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座>

省エネ基準義務化等今後の取組方向として、「日本再興戦略」改訂2015(平成27年6月30日閣議決定)の個別の社会像と実現に向けた取組み、エネルギーを賢く消費する社会の解決の方向性と戦略分野(市場・産業)及び当面の主要施策が次の通りである。

近年エネルギー消費量が著しく増大(石油危機以降2.5倍)している家庭・業務部門を中心とした省エネの最大限の推進を図る。

そのため、燃料電池の導入や住宅・ビルの省エネ基準の段階的適合義務化、既存住宅・ビルの省エネ改修の促進、トップランナー制度の適用拡充、ネット・ゼロ・エネルギー化等を図る。

また、生活の質を向上させつつエネルギー消費量を削減するライフスタイルの普及を進める。

○住宅・建築物の省エネ基準の段階的適合義務化

規制の必要性や程度、バランス等を十分に勘案しながら、2020年までに新築住宅・建築物について段階的に省エネ基準への適合を義務化する。これに向けて、中小工務店・大工の施工技術向上や伝統的木造住宅の位置付け等に十分配慮しつつ、円滑な実施のための環境整備に取り組む。

具体的には、省エネルギー対策の一層の普及や住宅・建築物や建材・機器等の省エネルギー化に資する新技術・新サービス・工法の開発支援等を実施する。

日本再興戦略の中で国土交通省の「低炭素社会に向けた住まいと住まい方」の推進方策についての中間とりまとめでは、2020年までに全ての新築住宅・建築物について最新の省エネ基準への適合義務化を目標として取組んでいる。

2020年に義務化される「エネルギー使用の合理化に関する建築主事等及び特定建築物の所有者の判断基準(通称:省エネ基準)」には、建築物の適合化にむけて新たな環境基準としての建築物の需要と供給が始まり、その経済成長と雇用(社会人の学び直しと就業前教育のカリキュラム改編)が見込まれることから、実証講座を実施した

□ 注目すべき点:

- 建築士会CPDの承認を得た認定講座 等

2. 活動概要

＜地域版カリキュラム検討と実証講座＞

□ 住環境エネルギー講座:CPD5単位認定講座

【3地域3講座実施】

	講座名	対象者・地域	受講者数	実施先・実施日
1	住環境エネルギー講座 【岡山版】	建築分野関係者 岡山	7名	中国デザイン専門学校 平成28年11月19日(土)
2	住環境エネルギー講座 【高知版】	建築分野関係者 高知	5名	高知情報ビジネス&フード専門学校 平成28年12月3日(土)
3	住環境エネルギー講座 【福岡版】	建築分野関係者 福岡	8名	麻生建築&デザイン専門学校 平成28年11月26日(土)

【募集方法】

- ・ 建築士会CPD認定講座として建築士会連合会HPにて広告
- ・ 協力校からの主な受講者募集協力活動内容

＜岡山地域:中国デザイン専門学校の協力＞

岡山県建築士会、建築士事務所協会、日本建築家協会 中国支部 岡山地域会、岡山建築設計クラブ 等

＜高知地域:高知情報ビジネス&フード専門学校＞

高知県建築士会、建築士事務所協会、中小建築業協会 等

＜福岡地域:麻生建築&デザイン専門学校＞

福岡県建築士会、建築士事務所協会、卒業生 等

【コマシラバスの作成】

- ・ どの地域でも活用できるコマシラバスを作成した(テキストによる地域特性の差別化)。

【授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説の作成】

- ・ どの地域でも活用できるものを作成した(テキストによる地域特性の差別化の指摘部分のみ変更できるよう配慮)。

【履修判定試験の開発】

- ・ スコア制による履修判定試験をどの地域でも活用できるよう開発を行った。
- 問題開発(ストック問題開発)を含め、容易に活用できるように作成した。

【受講アンケートの実施】

- ・ 受講者に講座内容についてのアンケートを実施した。

□ 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座:CPD4単位認定講座

【2地域2講座実施】

	講座名	対象者・地域	受講者数	実施先・実施日
4	新省エネ基準・ 住宅省エネルギー技術者講座 【高知版】	建築分野関係者 高知	7名	高知情報ビジネス&フード専門学校 平成28年10月25日(火)
5	新省エネ基準・ 住宅省エネルギー技術者講座 【福岡版】	建築分野関係者 福岡	16名	麻生建築&デザイン専門学校 平成28年11月5日(土)

【募集方法】

- ・建築士会CPD認定講座として建築士会連合会HPにて広告

- ・協力校からの主な受講者募集協力活動内容

<岡山地域:中国デザイン専門学校の協力>

岡山県建築士会、建築士事務所協会、日本建築家協会 中国支部 岡山地域会、岡山建築設計クラブ 等

<高知地域:高知情報ビジネス&フード専門学校>

高知県建築士会、建築士事務所協会、中小建築業協会 等

<福岡地域:麻生建築&デザイン専門学校>

福岡県建築士会、建築士事務所協会、卒業生 等

【コマシラバスの作成】

- ・どの地域でも活用できるコマシラバスを作成した(テキストによる地域特性の差別化)。

【授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説の作成】

- ・どの地域でも活用できるものを作成した(テキストによる地域特性の差別化の指摘部分のみ変更できるよう配慮)。

【履修判定試験の開発】

- ・ワークショップにおいての条件付き課題の作成をした。

【受講アンケートの実施】

- ・受講者に講座内容についてのアンケートを実施した。

<実証講座の結論と概要>

本事業計画時から課題として挙げられていた建築士会CPD認定講座の開発を実施することにおいて、「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」ともに、日本建築士連合会からCPD承認を得ることができた。

- ・地域の気候特性と省エネ法の手法を加えたことで、地域毎の受講者の理解が得られた。

全国版スタンダードとしてベースを作り、地域特性はテキストで変更する部分を特定したことにより、どの地域でもその部分を変更すれば、地域版として活用できるものとした。

シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説においても同様である。

「住環境エネルギー講座」

講義と履修判定試験のスタイルで実施した。

特異とする点は、履修判定試験に「スコア制」を導入したことである。

これまでの〇〇点以上取得すれば合格という手法ではなく、理解度確認とした手法「〇〇点を取得したら〇〇ができる知識を持っている。」という知識レベルの見える化を目的とした試験を実施したことである。

理解度確認テストは、建築分野における環境・エネルギーの知識をどの程度持っているのかを確認するため範囲も広くなる。よって、受講講座内外から出題されることが特徴である。

また、「スコア制」という手法は、常に試験内容が広範囲となるため、数多くの問題を開発(ストック)しておく必要があり、その中からランダムに選び、履修判定試験(=理解度確認テスト)を実施するものである。

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」

講義とワークショップのスタイルで実施した。

特徴としては、国土交通省が掲げている2020年に「エネルギー使用の合理化に関する建築主事等及び特定建築物の所有者の判断基準(通称:省エネ基準)」の完全義務化に向けた取組みと連動して実施したことにある。

全国版をベースとして、地域の気候特性(地域毎の風の向きによる窓の配置等)を講座に取入れ、省エネ設計手法の違いを加えることで地域での理解を得ることができた。

全国版スタンダードカリキュラムをベースとし、地域毎のカリキュラムの作成・変更の組み立てが実証できた。

4時間の実証スタイルは、平成 27 年度まで当校で実施していた「建築・土木・設備職域プロジェクト」を継承したものである。

<本年度の活動を踏まえた次年度以降の活動>

本年度事業の取組みは、開発した講座(「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」)が日本建築士会連合会の承認を得た建築士会CPD認定講座として展開できるかということが最も重要な鍵となっていた。

結果、2講座とも建築士会CPD認定講座として開講できたことは、評価に値することと思える。

しかしながら、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」が、2020 年の省エネ基準完全義務化に向けた実務に直結した内容ということで、受講者からは高い評価が得られたものの、「住環境エネルギー講座」においては、実務に直結する内容が含まれているものがあるが、環境・エネルギー分野という広範囲なこともあって知識習得に偏り過ぎた点が受講者からの評価として表れた。

また、2講座ともに受講者数の集客において課題が残る結果となった。

<次年度に向けて……>

本年度開発した講座を社会人の学び直し講座としての完成に向けた取組みとして、より受講し易い講座の開発としっかりとした実証講座の検証を実施する。

1. 本年度開発した「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の2講座をカスタマイズ展開

特に「住環境エネルギー講座」においては、「①総論・ライフスタイル、②計画、③設備、④施工、⑤評価」と学ぶに至っては広範囲過ぎると考える。知識を深めることができるとともに実務に活用できる(=アウトカムの設定)カスタマイズした①～⑤の独立した受講し易い講座開発の実施(建築士会CPD認定講座の開発)。

2. しっかりとした実証講座の検証の実施。

本年度の受講者数では、評価・検証するには十分な受講者数とは言えない。

そこで、実証講座の検証をする上で十分な受講者数の獲得をするために、大都市圏に向けて講座展開をする。

3-1 「住環境エネルギー講座」シラバス

系		シラバス(概要)
科		<p>現在、住環境に配慮した建築物への関心が高まっています。 しかし、住宅・建築分野はわが国のエネルギー消費の約3割を占め、核家族化による世帯数の増加、世帯床面積の増加、家電の充実、ライフスタイルの変化で、エネルギー消費は増えています。 国としても「低炭素社会に向けた住まいと住まい方」の推進方策の中間報告では、平成 32 年までに新築住宅の省エネルギー基準への 100%適合化をめざしています。 そのような社会背景の元、建築業界にとって住環境エネルギー化の手法や施工技術の向上は必要不可欠なスキルです。 本講座では、住環境エネルギーにまつわる社会背景から建築物の計画手法、施工計画、効果、施工上の留意点まで幅広く学び、社会や、建築業界から必要とされる人材育成を目的としています。</p>
年度	平成 28 年度	
学年		
期		
教科名	地域版社会人学び直し講座	
科目名	住環境エネルギー講座	
単位		
履修時間	12h	
回数	1	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態	講義	評価方法
作成者		<p>スコア制(点数)として、社会人の属性(職種・勤続年数・年齢・有資格等)との関連性を相対評価し、アウトカム(到達点)の透明性を評価する。</p>
教科書	オリジナルテキスト	

3-2 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス

系	-	シラバス(概要)
科	-	<p>2020年に義務化される「エネルギー使用の合理化に関する建築主事等及び特定建築物の所有者の判断基準(通称:省エネ基準)」には、建築物の適合化にむけて新たな環境基準としての建築物の需要と供給が始まり、その経済成長と雇用(社会人の学び直しと就業前教育のカリキュラム改編)が見込まれる。平成 28年度は、建築従事者に対して「新省エネ法順守」、「省エネ基準義務化に向けた地域特性の省エネ策技術」が修得できる講座のプログラムを開発して実証する。 さらに、それを担保とするために「建築士会CPD講座」としての認定を受け、社会人のキャリアアップの見える化(第三者機関の質的保証)を行う。 日本再興戦略の中で国土交通省の「低炭素社会に向けた住まいと住まい方」の推進方策についての中間とりまとめでは、2020年までに全ての新築住宅・建築物について最新の省エネ基準への適合義務化を目標として取り組んでいます。 本講座では、最新の省エネ設計手法・施工技術を習得し、4年後の省エネ基準適合義務化へ向け、建築従事者がこれからの社会や建設業界で役に立つ知識の習得をし(=社会人の学び直し)、建築分野における環境・エネルギー分野の中核的専門人材を養成することを目指します。</p>
年度	平成 28 年度	
学年	-	
期	-	
教科名	地域版 学び直し講座	
科目名	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	
単位	4	
履修時間	4時間	
回数	-	
必修・選択	-	
省庁分類	-	
授業形態	講義+実習	評価方法
作成者		<p>演習課題及び、ワークショップでの省エネ化手法の発表内容にて講座内容の理解度を評価する</p>
教科書	オリジナルテキスト	

4. 実証講座実施先

【講座実施一覧表】

	講座名	対象者・地域	受講者数	実施先・実施日
1	住環境エネルギー講座 【岡山版】	建築分野関係者 岡山	7名	中国デザイン専門学校 平成28年11月19日(土)
2	住環境エネルギー講座 【高知版】	建築分野関係者 高知	5名	高知情報ビジネス&フード専門学校 平成28年12月3日(土)
3	住環境エネルギー講座 【福岡版】	建築分野関係者 福岡	8名	麻生建築&デザイン専門学校 平成28年11月26日(土)
4	新省エネ基準・ 住宅省エネルギー技術者講座 【高知版】	建築分野関係者 高知	7名	高知情報ビジネス&フード専門学校 平成28年10月25日(火)
5	新省エネ基準・ 住宅省エネルギー技術者講座 【福岡版】	建築分野関係者 福岡	16名	麻生建築&デザイン専門学校 平成28年11月5日(土)

■住環境エネルギー講座

<建築士会CPD承認連絡～講座告知>

【岡山】

件名: 建築士会 CPD情報システム 申請プログラム情報承認のお知らせ

CPD情報システムプログラム申請が承認されました。

以下の通りCPD情報システムへ申請されたプログラム情報が更新されました。

認可年月日:2016年11月1日

プロバイダーID:20001824

プロバイダー名称:学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

プログラムID:00179960

プログラム名称:住環境エネルギー講座

処理状態:承認

【福岡】

件名: 建築士会 CPD情報システム 申請プログラム情報承認のお知らせ

CPD情報システムプログラム申請が承認されました。

以下の通りCPD情報システムへ申請されたプログラム情報が更新されました。

認可年月日:2016年11月1日

プロバイダーID:20001824

プロバイダー名称:学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

プログラムID:00179962

プログラム名称:住環境エネルギー講座

処理状態:承認

【高知】

件名: 建築士会 CPD情報システム 申請プログラム情報承認のお知らせ

CPD情報システムプログラム申請が承認されました。

以下の通りCPD情報システムへ申請されたプログラム情報が更新されました。

認可年月日:2016年10月20日

プロバイダーID:20001824

プロバイダー名称:学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

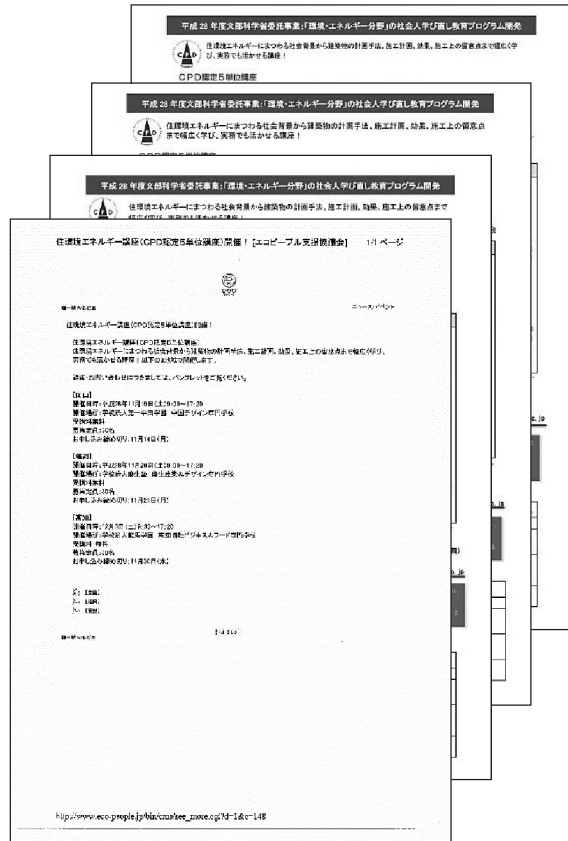
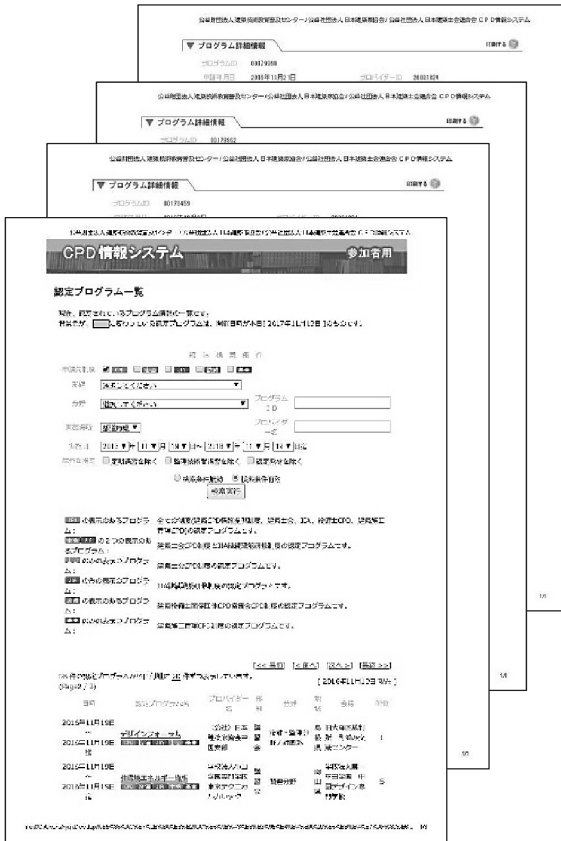
プログラムID:00173459

プログラム名称:住環境エネルギー講座

処理状態:承認

日本建築士連合会HP

その他:エコピープル支援協議会HP



■新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

<建築士会CPD承認連絡～講座告知>

【高知】

件名: 建築士会 CPD情報システム 申請プログラム情報承認のお知らせ

CPD情報システムプログラム申請が承認されました。

以下の通りCPD情報システムへ申請されたプログラム情報が更新されました。

認可年月日:2016年10月20日

プロバイダーID:20001824

プロバイダー名称:学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

プログラムID:00173462

プログラム名称:新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

処理状態:承認

【福岡】

件名: 建築士会 CPD情報システム 申請プログラム情報承認のお知らせ

CPD情報システムプログラム申請が承認されました。

以下の通りCPD情報システムへ申請されたプログラム情報が更新されました。

認可年月日:2016年11月1日

プロバイダーID:20001824

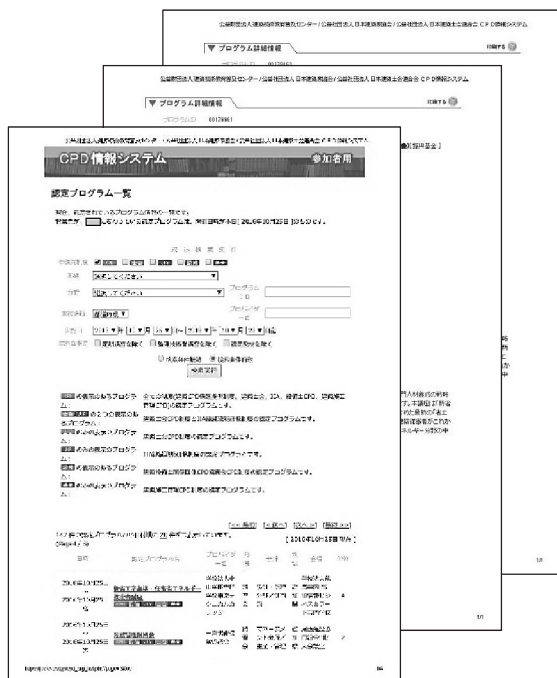
プロバイダー名称:学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

プログラムID:00179961

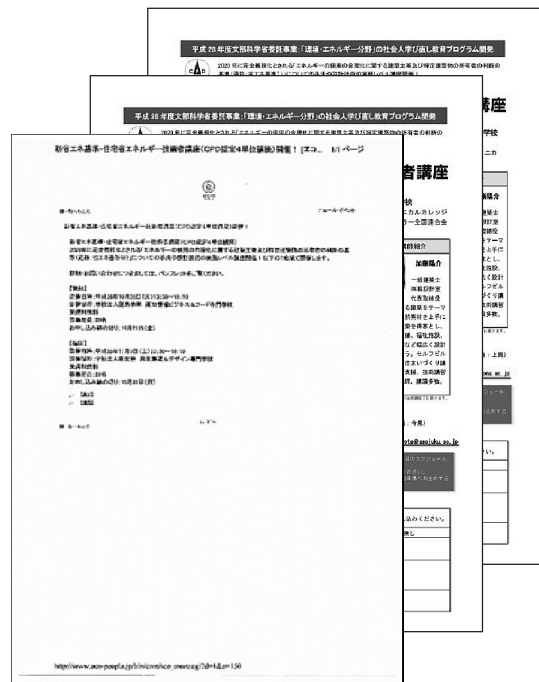
プログラム名称:新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

処理状態:承認

日本建築士連合会HP



その他:エコピープル支援協議会HP



第3章 実証講座実施結果

住環境エネルギー講座

住環境エネルギー講座

【岡山地域】

■ 講師プロフィール

藤本 晴男

- ◆ 所属 エネルギー調査機関 アセス株式会社 会長
NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長
- ◆ その他 COP21 パリ会議出席



佐藤 孝史

- ◆ 資格等 技術士、一級建築士
- ◆ 所属 NPO 法人環境カウ ンカウンセラー
全国連合会 副理事長



< 講 座 風 景 >



■ 当日の講座スケジュール

9:00	受付開始
9:30	講座開始時間
9:30~10:30	【総論・ライフスタイル】エネルギー消費実態と環境問題の概観等
10:30~10:40	休 憩
10:40~11:40	【計画】建築環境工学分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
11:40~11:50	休 憩
11:50~12:50	【設備】建築分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
12:50~13:50	お 昼 休 憩
13:50~14:50	【施工】具体的な建築設計・施工手法の基本事項を学ぶ等
14:50~15:00	休 憩
15:00~16:00	【評価】省エネルギー住宅を普及させるための制度等
16:00~16:10	休 憩
16:10~17:10	履修判定試験
17:10~17:20	アンケートのご協力・終了(終了された方から退出)

■ アンケート調査と集計・分析

「受講アンケート」質問票

「住環境エネルギー講座【岡山版】」受講アンケート

この度は、平成 28 年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業
社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業の取り組みである地域版本実証講座を
受講頂きまして、誠にありがとうございます。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いいたします。

■あなたのお仕事状況についてお聞かせください。

1. 該当する現在の(主な)業種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 建築業(戸建て) (イ) 建設業(ビル・施設) (ウ) 設計 (エ) 設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)
(オ) 土木関連 (カ) 不動産業 (キ) コンサル (ク) その他()
2. 該当する現在の(主な)職種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 管理職 (イ) 営業職 (ウ) 事務職 (エ) 設計職 (オ) 現場監督職
(カ) 技術・研究開発職 (キ) その他()
3. 勤務先の全従業員数についてお聞きします。下記の該当する人数に1つ○をつけてください。
(ア) 29 人以下 (イ) 30~99 人 (ウ) 100~299 人 (エ) 300~999 人 (オ) 1,000 人以上
4. あなたの年齢はおいくつでしょうか。該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 20 代未満 (イ) 20 代 (ウ) 30 代 (エ) 40 代 (オ) 50 代 (カ) 60 代以上
5. 何か資格をお持ちでしょうか。
(ア) 持っている(資格名称をお願いします))
(イ) 持っていない

■本講座の内容についてお聞かせください。

6. 本講座をどのようにして知りましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 建築士会関係から (イ) 学校から (ウ) 自社から (エ) 他社から (オ) 知人から
(カ) その他()
7. 受講された理由をお聞かせください。(複数回答可)
(ア) 興味・関心があったから (イ) 現在業務で必要だから (ウ) 将来必要と思ったから
(エ) CPDの単位取得ができるから (オ) なんとなく (カ) その他()
8. 講座内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく満足した (イ) 満足した (ウ) 普通 (エ) 少しもの足りなかった (オ) もの足りなかった
→ (エ)と(オ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
9. 講座の内容は理解できましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく理解できた (イ) 理解できた (ウ) 少し理解できた (エ) 全く理解できなかった
→ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
10. 講師の教え方はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他()

裏面に続く

11. テキストの内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ〇をつけてください。
 (ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
 (オ) 分かりにくかった (カ) その他()
12. 履修判定試験の時間はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ〇をつけてください。
 (ア) 非常に時間が足りなかった (イ) 時間が足りなかった (ウ) 適当だった (エ) 時間が余った (オ) 非常に時間が余った
13. 履修判定試験の出題傾向(当講座内容の範囲・範囲外からの出題等)、出題形式、問題数、難易度等は適切でしたか。
 ご自由にお書きください。

■本講座の開催時期と所要時間についてお聞かせください。

14. 開催日時は適切でしたか。以下の A. B. それぞれについて1つだけ〇をつけてください。
 A. 時期 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの時期がよかったですか。()
 B. 曜日 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの曜日がよかったですか。()
15. 本講座は6時間程の講座でしたが、時間数はちょうどよかったですか。
 以下に該当するところに1つ〇をつけてください。
 (ア) 長かった (イ) ちょうど良かった (ウ) 短かった (エ) よくわからない
- (ア)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に〇をつけてください。
 (ア)5時間 (イ)4時間 (ウ)3時間 (エ)2時間以下
- (エ)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に〇をつけてください。
 (ア)2日(12時間程度) (イ)1日(8時間程度) (ウ)7時間程度

16. 本講座の会場は適切でしたか。以下に該当するところに1つ〇をつけてください。
 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → その理由をご記入ください。()

■社会人学び直しとした本講座についてお聞かせください。

17. 本講座は社会人の学び直し講座として開講しましたが、このような講座は必要と思われますか。
 以下に該当するところに1つ〇をつけてください。
 (ア) すごく必要と思う (イ) 必要と思う (ウ) あまり必要と思わない (エ) わからない
18. 本講座は、今後のあなたのお仕事やキャリアに活かせると思いませんか。
 以下の㉠㉡それぞれについて1つだけ〇をつけてください。
 ㉠仕事面 (ア) 仕事に活かせる (イ) 多分仕事に活かせる (ウ) 仕事に活かせない (エ) わからない
 ㉡キャリア面 (ア) キャリアに活かせる (イ) 多分キャリアに活かせる (ウ) キャリアに活かせない (エ) わからない
- (ウ)と(エ)の方、どのような内容であれば適切だと思いますか。ご自由にお聞かせください。

19. 今後このような講座があれば参加しますか。
 (ア) 是非参加する (イ) 都合が合えば参加する (ウ) わからない (エ) 参加しない

20. 最後に何かございましたら、ご意見を願います。

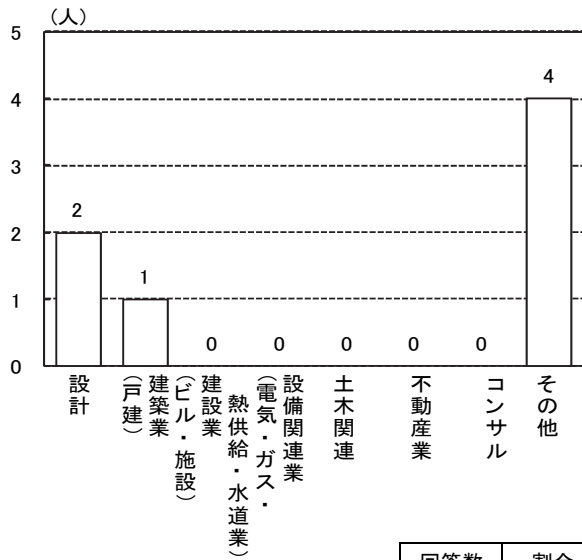
21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

企業・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本日はご協力ありがとうございました。

「受講アンケート」集計・分析

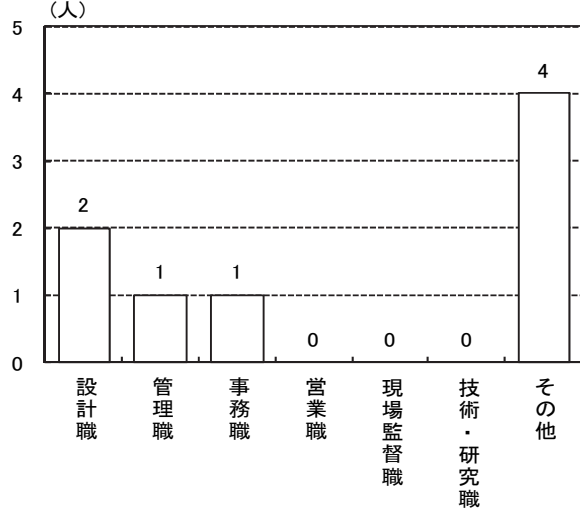
1. 業種



	回答数	割合
建築業(戸建て)	1	14.3%
建築業(ビル・施設)	0	0.0%
設計	2	28.6%
設備関連業 (電気・ガス・熱供給・水道業)	0	0.0%
土木関連	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	4	57.1%

◇ その他:就活中、教育機関、学生

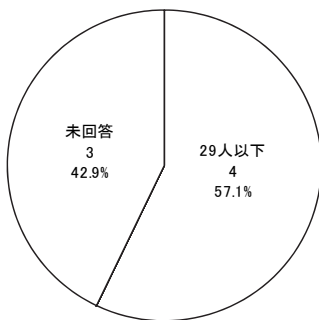
2. 職種



	回答数	割合
管理職	1	14.3%
営業職	0	0.0%
事務職	1	14.3%
設計職	2	28.6%
現場監督職	0	0.0%
技術・研究職	0	0.0%
その他	4	57.1%

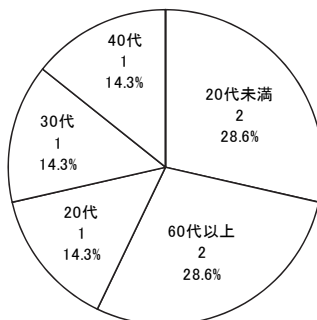
◇ その他:就活中、講師、学生

3. 従業員数



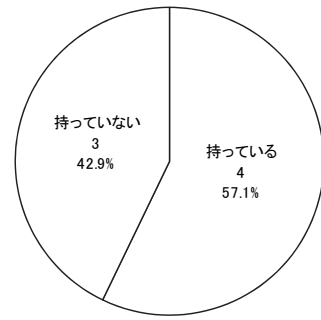
項目	回答数	割合
29人以下	4	57.1%
30~99人	0	0.0%
100~299人	0	0.0%
300~999人	0	0.0%
1,000人以上	0	0.0%
未回答	3	42.9%

4. 年齢



項目	回答数	割合
20代未満	2	28.6%
20代	1	14.3%
30代	1	14.3%
40代	1	14.3%
50代	0	0.0%
60代以上	2	28.6%

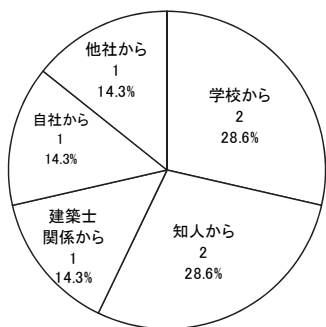
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	4	57.1%
持っていない	3	42.9%

◇ 持っている:一級建築士 3
省エネマイスター 1

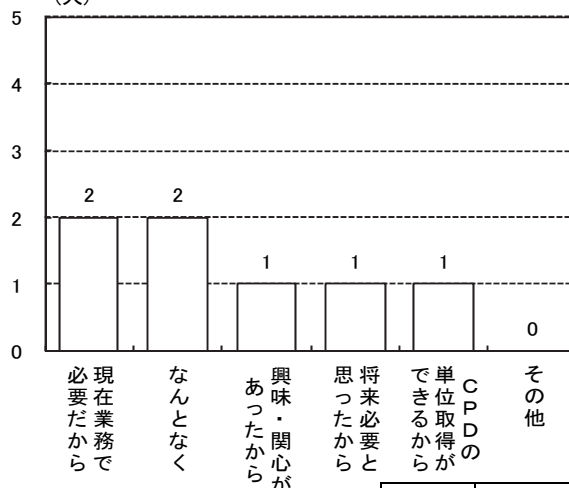
6. 本講座をどのようにして知ったか



項目	回答数	割合
建築士関係から	1	14.3%
学校から	2	28.6%
自社から	1	14.3%
他社から	1	14.3%
知人から	2	28.6%
その他	0	0.0%

7. 受講理由

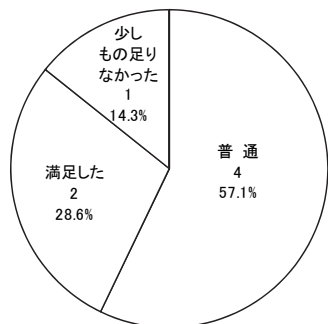
(人)



理由	回答数	割合
興味・関心があったから	1	14.3%
現在業務で必要だから	2	28.6%
将来必要と思ったから	1	14.3%
CPDの単位取得ができるから	1	14.3%
なんとなく	2	28.6%
その他	0	0.0%

◇ 「なんとなく」の内容:ボケ防止等

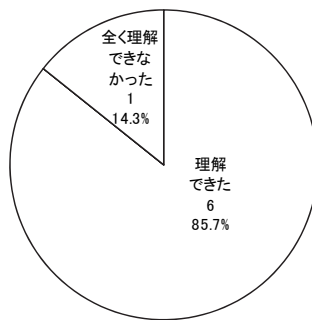
8. 講座内容について



項目	回答数	割合
すごく満足した	0	0.0%
満足した	2	28.6%
普通	4	57.1%
少しもの足りなかった	1	14.3%
もの足りなかった	0	0.0%

◇ 少しもの足りない理由:
もっと突っ込んだ計算があると思っていた。

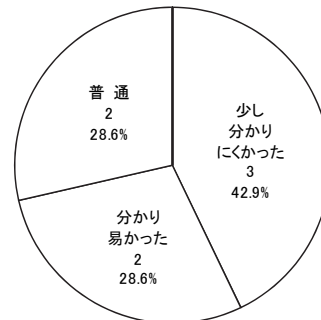
9. 講座の理解度



項目	回答数	割合
すごく理解できた	0	0.0%
理解できた	6	85.7%
少し理解できた	0	0.0%
全く理解できなかった	1	14.3%

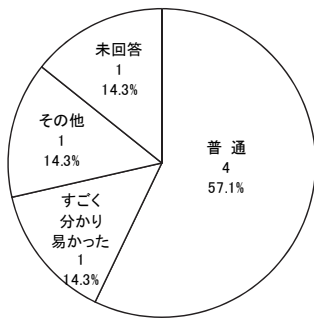
◇ 全く理解できなかった理由:
聞き取れなかった。

10. 講師の教え方



項目	回答数	割合
すごく分り易かった	0	0.0%
分り易かった	2	28.6%
普通	3	42.9%
少し分りにくかった	2	28.6%
分りにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

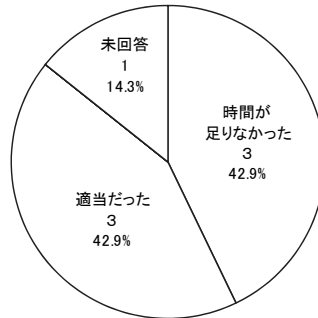
11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	1	14.3%
分かり易かった	0	0.0%
普通	4	57.1%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	1	14.3%
未回答	1	14.3%

◇ その他:字が小さかった

12. 履修判定試験の時間



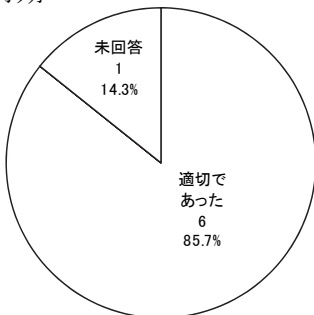
項目	回答数	割合
非常に時間が足りなかった	0	0.0%
時間が足りなかった	3	42.9%
適当だった	3	42.9%
時間が余った	0	0.0%
非常に時間が余った	0	0.0%
未回答	1	14.3%

13. 履修判定試験の出題傾向、出題形式、問題数、難易度等

講習内容と比較して難しい
難しかった
適切

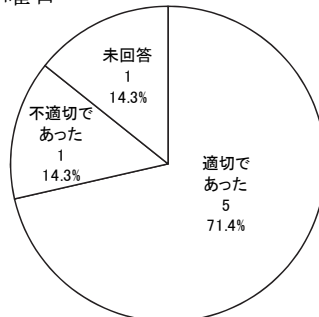
14. 開催日時について

A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	6	85.7%
不適切であった	0	0.0%
未回答	1	14.3%

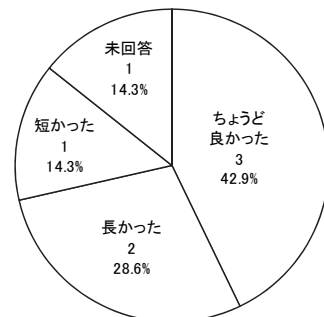
B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	5	71.4%
不適切であった	1	14.3%
未回答	1	14.3%

◇その他:水曜日が適切

15. 講座の時間数

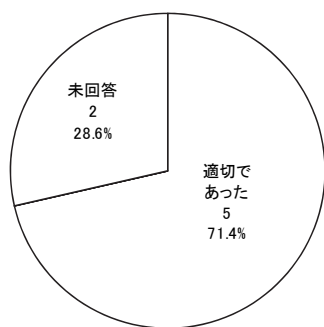


項目	回答数	割合
長かった	2	28.6%
ちょうど良かった	3	42.9%
短かった	1	14.3%
よくわからない	0	0.0%
未回答	1	14.3%

◇ 適切な時間数:4時間 1

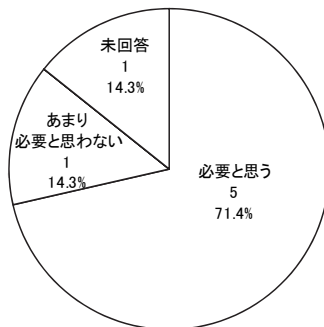
3時間以下 1

16. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	5	71.4%
不適切であった	0	0.0%
未回答	2	28.6%

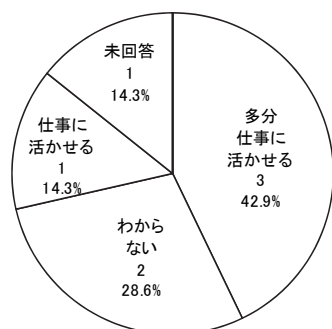
17. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	0	0.0%
必要と思う	5	71.4%
あまり必要と思わない	1	14.3%
わからない	0	0.0%
未回答	1	14.3%

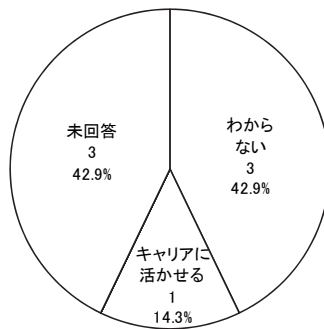
18. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



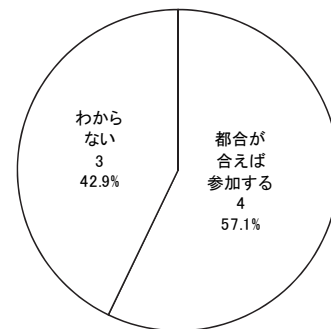
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	1	14.3%
多分仕事に活かせる	3	42.9%
仕事に活かさない	0	0.0%
わからない	2	28.6%
未回答	1	14.3%

②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	1	14.3%
多分キャリアに活かせる	0	0.0%
キャリアに活かさない	0	0.0%
わからない	3	42.9%
未回答	3	42.9%

19. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	0	0.0%
都合が合えば参加する	4	57.1%
わからない	3	42.9%
参加しない	0	0.0%

20. ご意見をお願いいたします。

なし

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

「住環境エネルギー講座【岡山】」アンケートまとめ

※大学生・無職(就活中)の反映がない回答箇所があります。

1. 業種と職種

＜業種＞設計 28.6%、建築(戸建て)14.3%、その他(教員)14.3%であった。

＜職種＞設計職 28.6%、管理職 14.3%であった。

建築士会関係からの案内のため、設計が目立った。

2. 会社規模

29人以下が 57.1%であった。

3. 年令層

20代～40代各 14.3%であった。

4. 資格の有無

57.1%が有資格者であり、その中内訳としては、一級建築士 42.9%、省エネマイスター14.3%であった。

5. 講座情報取得先

講座情報としては、学校から 28.6%、建築士関係から・自社から・他社からがそれぞれ 14.3%と取得していた。

建築士関係と協力校の尽力が大きかった。

6. 受講理由

現在業務で必要 28.6%、興味・関心があった・将来必要と思った・CPD 単位取得がそれぞれ 14.3%であった。

現在の業務に活かせる内容が、講座参加の大きな要因である。

7. CPD の意識

CPD の意識は思ったほど高くない結果であるが、CPD の承認を得ているということから、敢えて講座レベルの評価はあると思われる。

8. 講座内容

普通 57.1%、満足した 28.6%、少しもの足りなかった 14.3%であった。

講師との打ち合わせがあまりできていない点がこのような結果となったと思われる。

9. 理解度

理解できた 85.7%、全く理解できなかった 14.3%であった。

概ね理解を得られたが、全く理解できなかった受講者が一人でも居たことについては、今後の課題として挙げられる。

10. 講師の教え方

少し分かりにくかった 42.9%、分かり易かった・普通がそれぞれ 28.6%であった。

講師との打ち合わせがあまりできていない点がこのような結果となったと思われる。

11. テキスト内容

普通 57.1%、すごく分かり易かった・その他(文字が小さかった)がそれぞれ 14.3%であった。

本来、2日間で実施する内容を1日に圧縮して講座を進めたためと思われる。

12. 履修判定試験の時間

適切だった・時間が足りなかったがそれぞれ 42.9%であった。

その他の意見として、「講習内容と比較して難しかった」、「難しかった」とあった。

13. 開催時期

適切であった 85.7%であった。

14. 開催曜日

適切であった 71.4% (水曜日を希望 14.3%) であった。

15. 講座時間

ちょうど良かった 42.9%、長かった 28.6% (4時間 14.3%、3時間以下 14.3%を希望)、短かった 14.3% であった。

4時間程度の時間が望ましいようである。

16. 講座会場

適切であった 71.4% であった。

17. 社会人の学び直しの取組み

必要と思う 71.4%、あまり思わない 14.3% であった。

現在、働いている人々にとっては、知識の習得できる勉強の場は必要と感じている。

18. <仕事面>・<キャリア面>の活用

<仕事面>: 多分仕事に活かせる 42.9%、仕事に活かせる 14.3%、わからない 28.6%

<キャリア面>: わからない 42.9%、キャリアに活かせる 14.3%

仕事にはある程度活かせるとの判断となるが、キャリアに活かせるという点においては脆弱である。明確なものを示すことができる内容が必要である。

19. 今後の参加

都合が合えば参加する 57.1%、わからない 42.9% であった。

< まとめ >

建築士会 CPD 認定講座として発信し、協力校や建築士会等の協力があつたものの、参加者数が伸びなかった。講座タイトルから現在の実務にすぐに役立つ講座内容ということでもないということもあるため、その分、受講者数が伸びないという面も否めないと思われると同時に、岡山地域での CPD 認定講座は、行政との絡みで建設系が主であることも原因の一つとして考えられる。

講座については、テキストの作成者と講師が別であったこともあり、講座の進行において、講師が考えるものとテキストとのズレが少なからずあつた。

講師との打ち合わせが十分にできていなかった点が課題として挙げられる。

しかしながら、環境・エネルギー分野の知識習得においては、今後、実務をする上では必要なものとしての認識が高まってきている中、本講座が CPD の承認を受け、認定講座となったことにより、日本建築士連合会とプロバイダー契約し、本講座のプログラム ID を用いれば誰でも、どの地域でも使用可能な講座が開発できた。

このような誰でも使用できる CPD 認定講座の教育プログラムを開発できたことは普及の面において成功と考える。

■ 実証講座結果(履修判定試験及びカルテ点数(コマ毎の小テスト点数))

科目名	住環境エネルギー講座【岡山】
講師	佐藤孝史・藤本晴男
講座実施日	2016年11月19日
講座実施時間	6時間
講座実施形態	講義
出席人数	7名

授業結果											履修判定試験	
	カルテ点数										平均	点数 (165点満点)
	第一回		第二回		第三回		第四回		第五回			
出席者氏名	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号		
1 ○○○○	90	6	90	9	90	3	70	1,4,6	80	3,9	84	107
2 ○○○○	70	2,6,10	80	3,6	80	6,8	100		70	1,8,9	80	105
3 ○○○○	60	7,8,9,10	60	1,2,3,9	70	1,9,10	100		50	1,3,4,7,10	68	119
4 ○○○○	80	6,9	90	3	90	6	100		80	2,3	88	132
5 ○○○○	70	6,7,9	70	1,3,6	100		100		70	2,3,9	82	140
6 ○○○○	30	1,2,5,6,7,8,9	70	2,3,4	70	1,2,6	90	1	90	9	70	105
7 ○○○○	100		100		100		100		90	9	98	102

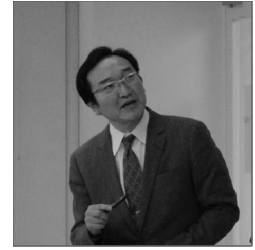
住環境エネルギー講座

【福岡地域】

■ 講師プロフィール

依田 浩敏

- ◆ 資格等 一級建築士
- ◆ 所属 近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授
NPO 法人環境カウン カウンセラー全国連合会 副理事長



藤本 晴男

- ◆ 所属 エネルギー調査機関 アセス株式会社 会長
NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長
- ◆ その他 COP21 パリ会議出席



< 講座風景 >



■ 当日の講座スケジュール

9:00	受付開始
9:30	講座開始時間
9:30~10:30	【総論・ライフスタイル】エネルギー消費実態と環境問題の概観等
10:30~10:40	休憩
10:40~11:40	【計画】建築環境工学分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
11:40~11:50	休憩
11:50~12:50	【設備】建築分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
12:50~13:50	お昼休憩
13:50~14:50	【施工】具体的な建築設計・施工手法の基本事項を学ぶ等
14:50~15:00	休憩
15:00~16:00	【評価】省エネルギー住宅を普及させるための制度等
16:00~16:10	休憩
16:10~17:10	履修判定試験
17:10~17:20	アンケートのご協力・終了(終了された方から退出)

■ アンケート調査と集計・分析

「受講アンケート」質問票

「住環境エネルギー講座【福岡版】」受講アンケート

この度は、平成 28 年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業
社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業の取り組みである地域版本実証講座を
受講頂きまして、誠にありがとうございます。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いいたします。

■あなたのお仕事状況についてお聞かせください。

1. 該当する現在の(主な)業種に○をつけてください。(複数回答可)

- (ア)建築業(戸建て) (イ)建設業(ビル・施設) (ウ)設計 (エ)設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)
(オ)土木関連 (カ)不動産業 (キ)コンサル (ク)その他()

2. 該当する現在の(主な)職種に○をつけてください。(複数回答可)

- (ア)管理職 (イ)営業職 (ウ)事務職 (エ)設計職 (オ)現場監督職
(カ)技術・研究開発職 (キ)その他()

3. 勤務先の全従業員数についてお聞きします。下記の該当する人数に1つ○をつけてください。

- (ア) 29 人以下 (イ) 30～99 人 (ウ) 100～299 人 (エ) 300～999 人 (オ) 1,000 人以上

4. あなたの年齢はおいくつでしょうか。該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 20 代未満 (イ) 20 代 (ウ) 30 代 (エ) 40 代 (オ) 50 代 (カ) 60 代以上

5. 何か資格をお持ちでしょうか。

- (ア)持っている(資格名称をお願いいたします))
(イ)持っていない

■本講座の内容についてお聞かせください。

6. 本講座をどのようにして知りましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア)建築士会関係から (イ)学校から (ウ)自社から (エ)他社から (オ)知人から
(カ)その他()

7. 受講された理由をお聞かせください。(複数回答可)

- (ア)興味・関心があったから (イ)現在業務で必要だから (ウ)将来必要と思ったから
(エ)CPDの単位取得ができるから (オ)なんとなく (カ)その他()

8. 講座内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア)すごく満足した (イ)満足した (ウ)普通 (エ)少しものの足りなかった (オ)もの足りなかった

▶ (エ)と(オ)の方、どのようなところかお聞かせください。()

9. 講座の内容は理解できましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア)すごく理解できた (イ)理解できた (ウ)少し理解できた (エ)全く理解できなかった

▶ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()

10. 講師の教え方はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア)すごく分かり易かった (イ)分かり易かった (ウ)普通 (エ)少し分かりにくかった
(オ)分かりにくかった (カ)その他()

裏面に続く

11. テキストの内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

(ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他()

12. 履修判定試験の時間はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

(ア) 非常に時間が足りなかった (イ) 時間が足りなかった (ウ) 適当だった (エ) 時間が余った (オ) 非常に時間が余った

13. 履修判定試験の出題傾向(当講座内容の範囲・範囲外からの出題等)、出題形式、問題数、難易度等は適切でしたか。ご自由にお書きください。

--

■本講座の開催時期と所要時間についてお聞かせください。

14. 開催日時は適切でしたか。以下の A. B. それぞれについて1つだけ○をつけてください。

A. 時期 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの時期がよかったですか。()

B. 曜日 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの曜日がよかったですか。()

15. 本講座は6時間程の講座でしたが、時間数はちょうどよかったですか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

(ア) 長かった (イ) ちょうど良かった (ウ) 短かった (エ) よくわからない

→ (ア)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に○をつけてください。

(ア)5時間 (イ)4時間 (ウ)3時間 (エ)2時間以下

→ (エ)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に○をつけてください。

(ア)2日(12時間程度) (イ)1日(8時間程度) (ウ)7時間程度

16. 本講座の会場は適切でしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

(ア) 適切であった (イ) 不適切であった → その理由をご記入ください。()

■社会人学び直しとした本講座についてお聞かせください。

17. 本講座は社会人の学び直し講座として開講しましたが、このような講座は必要と思われますか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

(ア) すごく必要と思う (イ) 必要と思う (ウ) あまり必要と思わない (エ) わからない

18. 本講座は、今後のあなたのお仕事やキャリアに活かせると思いませんか。

以下の①②それぞれについて1つだけ○をつけてください。

①仕事面 (ア) 仕事に活かせる (イ) 多分仕事に活かせる (ウ) 仕事に活かせない (エ) わからない

②キャリア面 (ア) キャリアに活かせる (イ) 多分キャリアに活かせる (ウ) キャリアに活かせない (エ) わからない

→ (ウ)と(エ)の方、どのような内容であれば適切だと思いますか。ご自由にお聞かせください。

--

19. 今後このような講座があれば参加しますか。

(ア) 是非参加する (イ) 都合が合えば参加する (ウ) わからない (エ) 参加しない

20. 最後に何かございましたら、ご意見をお願いいたします。

--

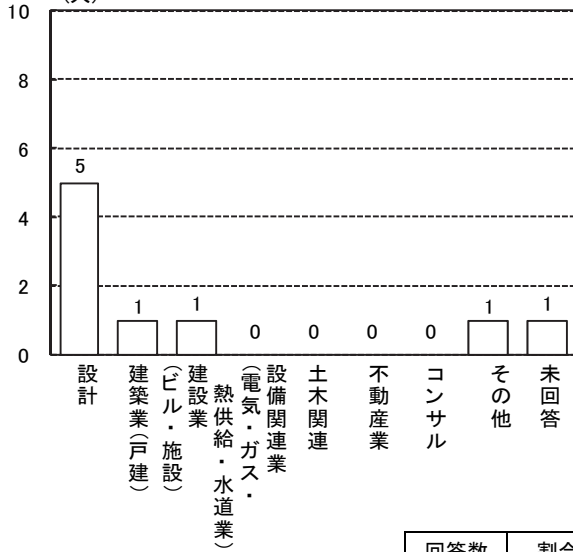
21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

企業・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本日はご協力ありがとうございました。

「受講アンケート」集計・分析

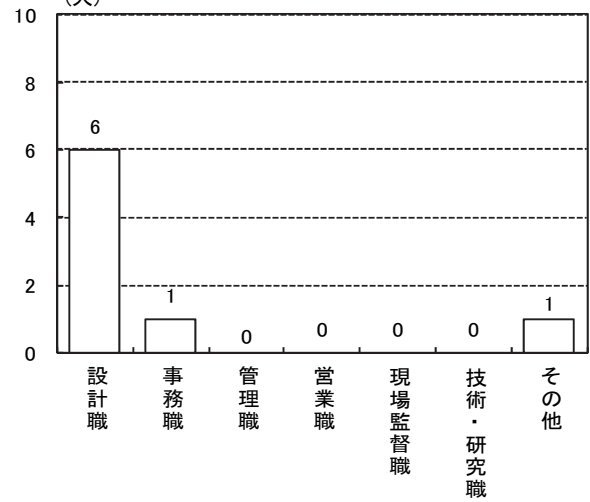
1. 業種
(人)



	回答数	割合
建築業(戸建)	1	12.5%
建築業(ビル・施設)	1	12.5%
設計	5	62.5%
設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)	0	0.0%
土木関連	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	1	12.5%
未回答	1	12.5%

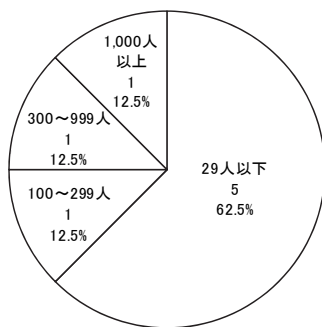
◇ その他:官公庁

2. 職種
(人)



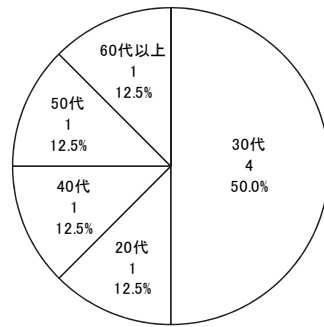
	回答数	割合
管理職	0	0.0%
営業職	0	0.0%
事務職	1	12.5%
設計職	6	75.0%
現場監督職	0	0.0%
技術・研究職	0	0.0%
その他	1	12.5%

3. 従業員数



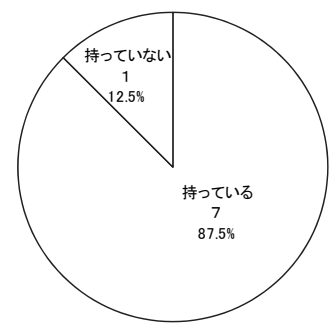
項目	回答数	割合
29人以下	5	62.5%
30~99人	0	0.0%
100~299人	1	12.5%
300~999人	1	12.5%
1,000人以上	1	12.5%

4. 年齢



項目	回答数	割合
20代未満	0	0.0%
20代	1	12.5%
30代	4	50.0%
40代	1	12.5%
50代	1	12.5%
60代以上	1	12.5%

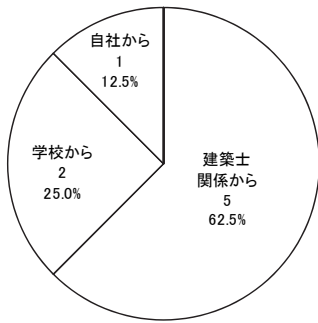
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	7	87.5%
持っていない	1	12.5%

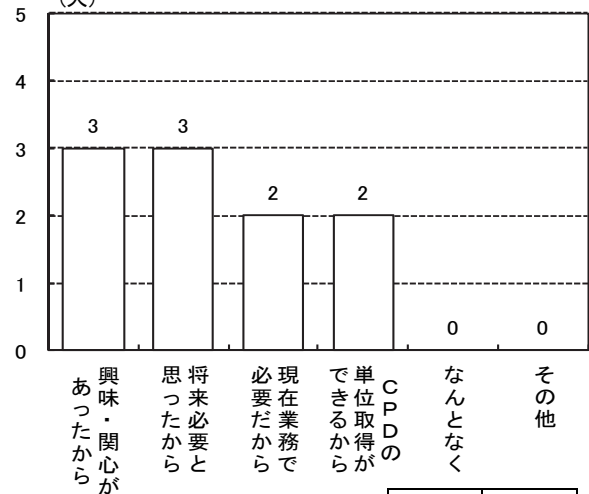
◇ 持っている:一級建築士 4
二級建築士 3
施工管理 1
設備一級建築士 1
インテリアプランナー 1
CASBEE 1
建築設備士 1
キッチンスペシャリスト 1

6. 本講座をどのようにして知ったか



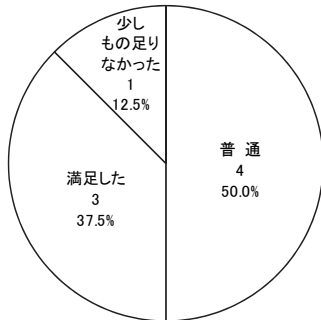
項目	回答数	割合
建築士関係から	5	62.5%
学校から	2	25.0%
自社から	1	12.5%
他社から	0	0.0%
知人から	0	0.0%
その他	0	0.0%

7. 受講理由 (人)



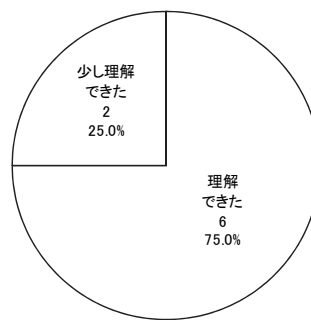
理由	回答数	割合
興味・関心があったから	3	37.5%
現在業務で必要だから	2	25.0%
将来必要と思ったから	3	37.5%
CPDの単位取得ができるから	2	25.0%
なんとなく	0	0.0%
その他	0	0.0%

8. 講座内容について



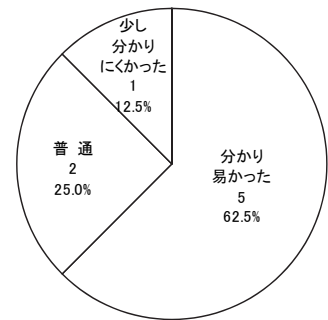
項目	回答数	割合
すごく満足した	0	0.0%
満足した	3	37.5%
普通	4	50.0%
少しもの足りなかった	1	12.5%
もの足りなかった	0	0.0%

9. 講座の理解度



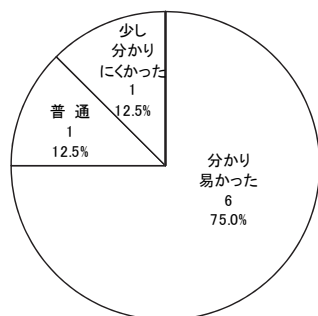
項目	回答数	割合
すごく理解できた	0	0.0%
理解できた	6	75.0%
少し理解できた	2	25.0%
全く理解できなかった	0	0.0%

10. 講師の教え方

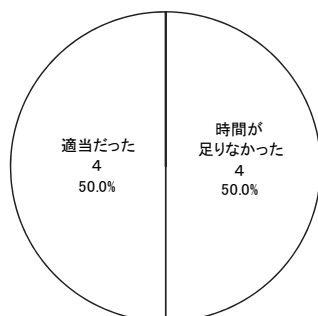


項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	0	0.0%
分かり易かった	5	62.5%
普通	2	25.0%
少し分かりにくかった	1	12.5%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

11. テキストの内容



12. 履修判定試験の時間



13. 履修判定試験の出題傾向、出題形式、問題数、難易度等

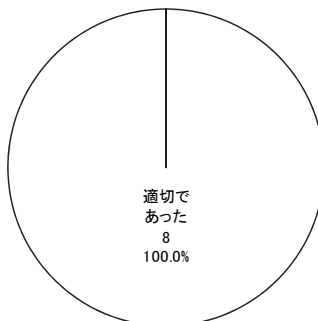
難しかった。
かなり難しかった。
出題数が多い分、理解度が深まるので、良いと思った。

項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	0	0.0%
分かり易かった	6	75.0%
普通	1	12.5%
少し分かりにくかった	1	12.5%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

項目	回答数	割合
非常に時間が足りなかった	0	0.0%
時間が足りなかった	4	50.0%
適当だった	4	50.0%
時間が余った	0	0.0%
非常に時間が余った	0	0.0%

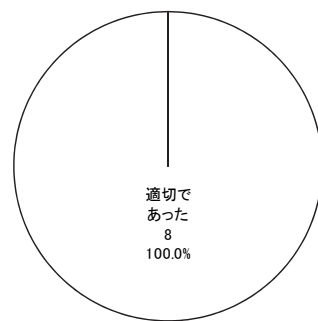
14. 開催日時について

A. 時期



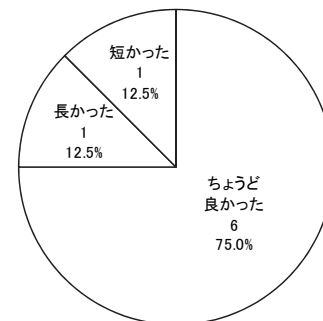
項目	回答数	割合
適切であった	8	100.0%
不適切であった	0	0.0%

B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	8	100.0%
不適切であった	0	0.0%

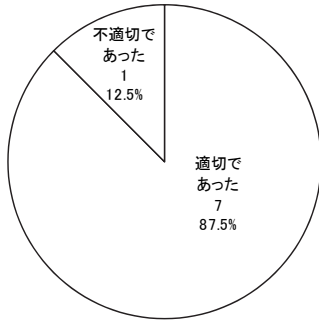
15. 講座の時間数



項目	回答数	割合
長かった	1	12.5%
ちょうど良かった	6	75.0%
短かった	1	12.5%
よくわからない	0	0.0%

◇ 適切な時間数: 4時間(椅子が硬い)
2日(12時間程度)

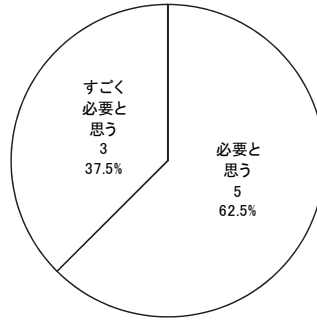
16. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	7	87.5%
不適切であった	1	12.5%

◇ 適切な会場:天神付近が良かった

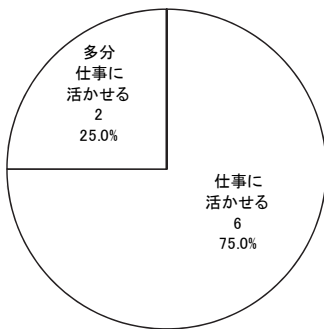
17. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	3	37.5%
必要と思う	5	62.5%
あまり必要と思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

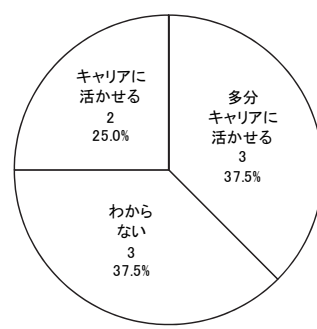
18. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



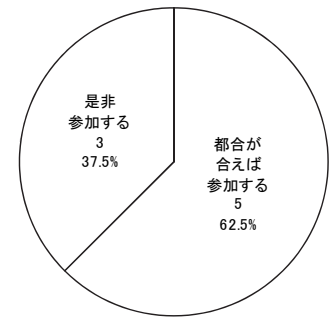
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	6	75.0%
多分仕事に活かせる	2	25.0%
仕事に活かせない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	2	25.0%
多分キャリアに活かせる	3	37.5%
キャリアに活かせない	0	0.0%
わからない	3	37.5%

19. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	3	37.5%
都合が合えば参加する	5	62.5%
わからない	0	0.0%
参加しない	0	0.0%

20. ご意見をお願いいたします。

椅子が硬くて本講座のような長時間は辛いです。
また機会があれば参加したいです。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

「住環境エネルギー講座【福岡】」アンケートまとめ

1. 業種と職種

<業種>設計 62.5%、建築(戸建て)・建設業(ビル・施設)・その他(官公庁)がそれぞれ 12.5%であった。

<職種>設計職 75.0%、事務職 12.5%であった。

建築士会関係からの案内のため、設計が大きく目立った。

2. 会社規模

29人以下が 62.5%、100~299人・300~999人・1,000人以上がそれぞれ 12.5%であった。

3. 年令層

30代 50.0%、20代・40代・50代・60代以上がそれぞれ 12.5%であった。

4. 資格の有無

87.5%が有資格者であり、その中内訳としては、一級建築士 50.0%、二級建築士 37.5%、施工管理・設備一級建築士・インテリアプランナー・CASBEE・建築設備士・キッチンスペシャリスト省がそれぞれ 12.5%であった。

5. 講座情報取得先

講座情報としては、建築士関係から 62.5%、学校から 25.0%、・自社から 12.5%と取得していた。

建築士関係と協力校の尽力が大きかった。

6. 受講理由

興味・関心があった・将来必要と思ったがそれぞれ 37.5%、現在業務で必要・CPD 単位取得がそれぞれ 25.0%であった。

現在の業務に活かせる内容が、講座参加の大きな要因である。

7. CPD の意識

CPD の意識は思ったほど高くない結果であるが、岡山と高知地域と比較すると意識は高い。CPD の承認を得ているということから、講座レベルの評価はあると思われる。

8. 講座内容

普通 50.0%、満足した 37.5%、少しもの足りなかった 12.5%であった。

必要知識を習得という意識のためか、基礎的な部分に偏った点がこのような回答として表れていると思われる。

9. 理解度

理解できた 75.0%、少し理解できた 25.0%であった。

概ね理解を得られた。

10. 講師の教え方

分かり易かった 62.5%、普通 25.0%、少し分かりにくかった 12.5%であった。

2日分を1日に圧縮したことの原因と考えられる。

11. テキスト内容

分かり易かった 75.0%、普通・少し分かりにくかったがそれぞれ 12.5%であった。

概ね理解を得られたが、2日分を1日に圧縮して進めたこともあり、その影響が原因と考えられる。

12. 履修判定試験の時間

適切だった・時間が足りなかったがそれぞれ 50.0%であった。

その他の意見として、「難しかった」、「出題数が多い分、理解が深まるので良いと思った」とあった。

13. 開催時期

適切であった 100%であった。

14. 開催曜日

適切であった 100%であった。

15. 講座時間

ちょうど良かった 75.0%、長かった・短かったがそれぞれ 12.5% (4時間 12.5%、2日間(12 時間程度)12.5%を希望)であった。

4時間程度、もしくは本来予定の2日間の時間が望ましいようである。

16. 講座会場

適切であった 87.5%であった。

17. 社会人の学び直しの取組み

必要と思う 62.5%、すごく必要と思う 37.5%であった。

現在、働いている人々にとっては、知識の習得できる勉強の場は必要と感じている。

18. <仕事面>・<キャリア面>の活用

<仕事面>:仕事に活かせる 75.0%、多分仕事に活かせる 25.0%

<キャリア面>:多分キャリアに活かせる・わからないがそれぞれ 37.5%、キャリアに活かせる 25.0%

仕事面においては全員が活かせると回答したが、キャリア面においては活かせるという点においては脆弱である。明確なものを示すことができる内容が必要である。

19. 今後の参加

都合が合えば参加する 62.5%、わからない 37.5%であった。

< まとめ >

建築士会 CPD 認定講座として発信し、協力校や建築士会等の協力があつたものの、参加者数が伸びなかった(申込者数は 16 名であったが、当日半数ほど欠席となった)。

講座タイトルから現在の実務にすぐに役立つ講座内容ということでもないということもあるため、その分、受講者数が伸びないという面も否めないと考えられる。

講座については、2日間の内容を1日に圧縮した形で行ったため、無理が生じる部分が出てしまった。

しかしながら、環境・エネルギー分野の知識習得においては、今後、実務をする上では必要なものとしての認識が高まってきている中、本講座が CPD の承認を受け、認定講座となったことにより、日本建築士連合会とプロバイダー契約し、本講座のプログラム ID を用いれば誰でも、どの地域でも使用可能な講座が開発できた。

このような誰でも使用できる CPD 認定講座の教育プログラムを開発できたことは普及の面において成功と考える。

■ 実証講座結果(履修判定試験及びカルテ点数(コマ毎の小テスト点数))

科目名	住環境エネルギー講座【福岡】
講師	藤本晴男・依田浩敏
講座実施日	2016年11月26日
講座実施時間	6時間
講座実施形態	講義
出席人数	8名

授業結果											履修判定試験	
	カルテ点数										平均	点数 (165点満点)
	第一回		第二回		第三回		第四回		第五回			
出席者氏名	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号		
1 ○○○○	70	6,7,10	80	3,6	90	1	100		90	1	86	132
2 ○○○○	100		90	3	80	1,6	100		90	1	92	122
3 ○○○○	80	9,10	70	1,3,6	60	1,2,6,10	80	2,3	70	1,3,8	72	142
4 ○○○○	80	9,10	90	3	80	6,10	100		90	8	88	134
5 ○○○○	90	8	100		80	6,9	100		80	1,8	90	140
6 ○○○○		所用により欠席		所用により欠席		所用により欠席	90	7	60	1,3,5,8	75	64
7 ○○○○	90	9	80	3,8	60	2,6,9,10	90	8		所用により途中退出	80	
8 ○○○○	50	1,5,6,7,10	60	1,2,6,7	80	9,10	100			所用により途中退出	72.5	

住環境エネルギー講座

【高知地域】

■ 講師プロフィール

藤本 晴男

- ◆ 所属 エネルギー調査機関 アセス株式会社 会長
NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 副理事長
- ◆ その他 COP21 パリ会議出席



佐藤 孝史

- ◆ 資格等 技術士、一級建築士
- ◆ 所属 NPO 法人環境カウ ンカウンセラー
全国連合会 副理事長



< 講座風景 >



■ 当日の講座スケジュール

9:00	受付開始
9:30	講座開始時間
9:30~10:30	【総論・ライフスタイル】エネルギー消費実態と環境問題の概観等
10:30~10:40	休憩
10:40~11:40	【計画】建築環境工学分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
11:40~11:50	休憩
11:50~12:50	【設備】建築分野の観点から、室内環境の快適な状態を追求する等
12:50~13:50	お昼休憩
13:50~14:50	【施工】具体的な建築設計・施工手法の基本事項を学ぶ等
14:50~15:00	休憩
15:00~16:00	【評価】省エネルギー住宅を普及させるための制度等
16:00~16:10	休憩
16:10~17:10	履修判定試験
17:10~17:20	アンケートのご協力・終了(終了された方から退出)

■ アンケート調査と集計・分析

「受講アンケート」質問票

「住環境エネルギー講座【高知版】」受講アンケート

この度は、平成28年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業
社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業の取り組みである地域版本実証講座を
受講頂きまして、誠にありがとうございます。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いいたします。

■あなたのお仕事状況についてお聞かせください。

1. 該当する現在の(主な)業種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア)建築業(戸建て) (イ)建設業(ビル・施設) (ウ)設計 (エ)設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)
(オ)土木関連 (カ)不動産業 (キ)コンサル (ク)その他()
2. 該当する現在の(主な)職種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア)管理職 (イ)営業職 (ウ)事務職 (エ)設計職 (オ)現場監督職
(カ)技術・研究開発職 (キ)その他()
3. 勤務先の全従業員数についてお聞きします。下記の該当する人数に1つ○をつけてください。
(ア)29人以下 (イ)30~99人 (ウ)100~299人 (エ)300~999人 (オ)1,000人以上
4. あなたの年齢はおいくつでしょうか。該当するところに1つ○をつけてください。
(ア)20代未満 (イ)20代 (ウ)30代 (エ)40代 (オ)50代 (カ)60代以上
5. 何か資格をお持ちでしょうか。
(ア)持っている(資格名称をお願いいたします))
(イ)持っていない

■本講座の内容についてお聞かせください。

6. 本講座をどのようにして知りましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア)建築士会関係から (イ)学校から (ウ)会社から (エ)土佐経済同友会から (オ)知人から
(カ)その他()
7. 受講された理由をお聞かせください。(複数回答可)
(ア)興味・関心があったから (イ)現在業務で必要だから (ウ)将来必要と思ったから
(エ)CPDの単位取得ができるから (オ)なんとなく (カ)その他()
8. 講座内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア)すごく満足した (イ)満足した (ウ)普通 (エ)少しもの足りなかった (オ)もの足りなかった
→ (エ)と(オ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
9. 講座の内容は理解できましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア)すごく理解できた (イ)理解できた (ウ)少し理解できた (エ)全く理解できなかった
→ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
10. 講師の教え方はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア)すごく分かり易かった (イ)分かり易かった (ウ)普通 (エ)少し分かりにくかった
(オ)分かりにくかった (カ)その他()

裏面に続く

11. テキストの内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他()

12. 履修判定試験の時間はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 非常に時間が足りなかった (イ) 時間が足りなかった (ウ) 適当だった (エ) 時間が余った (オ) 非常に時間が余った

13. 履修判定試験の出題傾向(当講座内容の範囲・範囲外からの出題等)、出題形式、問題数、難易度等は適切でしたか。ご自由にお書きください。

--

■本講座の開催時期と所要時間についてお聞かせください。

14. 開催日時は適切でしたか。以下の A. B. それぞれについて1つだけ○をつけてください。

- A. 時期 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの時期がよかったですか。()
B. 曜日 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの曜日がよかったですか。()

15. 本講座は6時間程の講座でしたが、時間数はちょうどよかったですか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 長かった (イ) ちょうど良かった (ウ) 短かった (エ) よくわからない

→ (ア)の方、どのくらいのお時間がよかったですか。以下に○をつけてください。

- (ア) 5時間 (イ) 4時間 (ウ) 3時間 (エ) 2時間以下

→ (エ)の方、どのくらいのお時間がよかったですか。以下に○をつけてください。

- (ア) 2日(12時間程度) (イ) 1日(8時間程度) (ウ) 7時間程度

16. 本講座の会場は適切でしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → その理由をご記入ください。()

■社会人学び直しとした本講座についてお聞かせください。

17. 本講座は社会人の学び直し講座として開講しましたが、このような講座は必要と思われますか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) すごく必要と思う (イ) 必要と思う (ウ) あまり必要と思わない (エ) わからない

18. 本講座は、今後のあなたのお仕事やキャリアに活かせると思いませんか。

以下の①②それぞれについて1つだけ○をつけてください。

- ①仕事面 (ア) 仕事に活かせる (イ) 多分仕事に活かせる (ウ) 仕事に活かせない (エ) わからない

- ②キャリア面 (ア) キャリアに活かせる (イ) 多分キャリアに活かせる (ウ) キャリアに活かせない (エ) わからない

→ (ウ)と(エ)の方、どのような内容であれば適切だと思いますか。ご自由にお聞かせください。

--

19. 今後このような講座があれば参加しますか。

- (ア) 是非参加する (イ) 都合が合えば参加する (ウ) わからない (エ) 参加しない

20. 最後に何かございましたら、ご意見を願いたします。

--

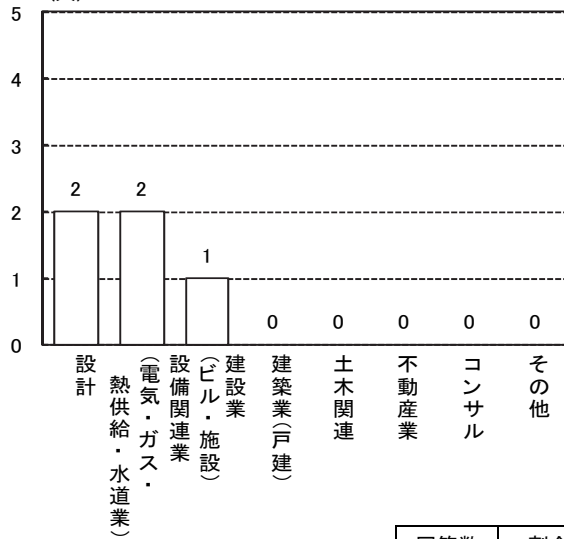
21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

企業・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本日はご協力ありがとうございました。

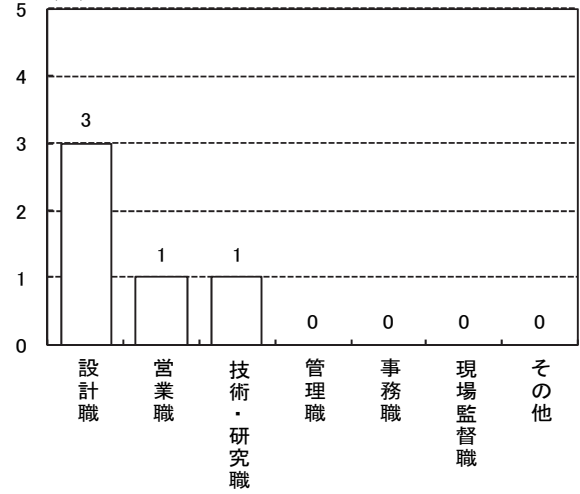
「受講アンケート」集計・分析

1. 業種
(人)



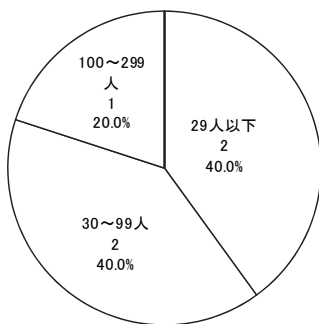
	回答数	割合
建設業(戸建)	0	0.0%
建設業(ビル・施設)	1	20.0%
設計	2	40.0%
設備関連業 (電気・ガス・熱供給・水道業)	2	40.0%
土木関連	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	0	0.0%

2. 職種
(人)



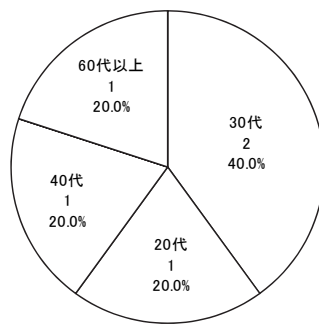
	回答数	割合
管理職	0	0.0%
営業職	1	20.0%
事務職	0	0.0%
設計職	3	60.0%
現場監督職	0	0.0%
技術・研究職	1	20.0%
その他	0	0.0%

3. 従業員数



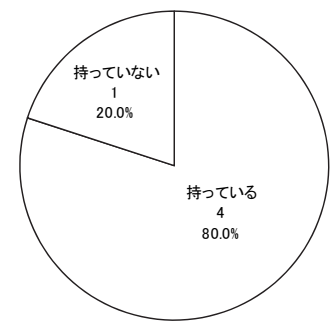
項目	回答数	割合
29人以下	2	40.0%
30~99人	2	40.0%
100~299人	1	20.0%
300~999人	0	0.0%
1,000人以上	0	0.0%

4. 年齢



項目	回答数	割合
20代未満	0	0.0%
20代	1	20.0%
30代	2	40.0%
40代	1	20.0%
50代	0	0.0%
60代以上	1	20.0%

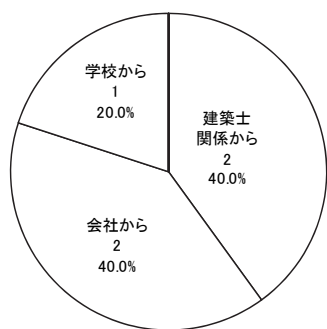
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	4	80.0%
持っていない	1	20.0%

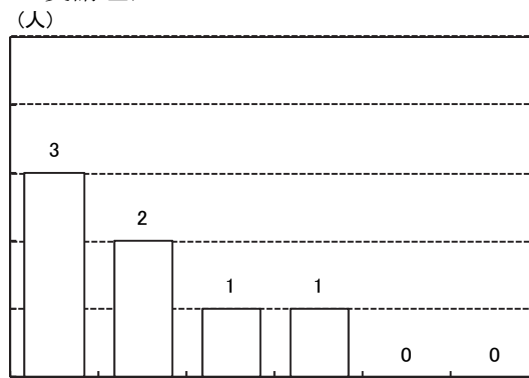
◇ 持っている: 一級建築士 2
二級建築士 1
電工1種 1

6. 本講座をどのようにして知ったか



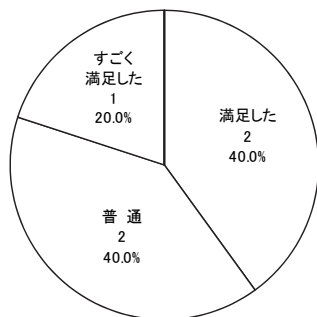
項目	回答数	割合
建築士関係から	2	40.0%
学校から	1	20.0%
会社から	2	40.0%
土佐経済同友会から	0	0.0%
知人から	0	0.0%
その他	0	0.0%

7. 受講理由



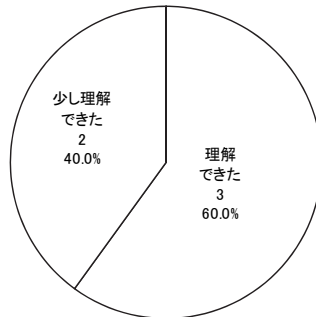
理由	回答数	割合
興味・関心があったから	3	60.0%
現在業務で必要だから	0	0.0%
将来必要と思ったから	2	40.0%
CPDの単位取得ができるから	1	20.0%
なんとなく	1	20.0%
その他	0	0.0%

8. 講座内容について



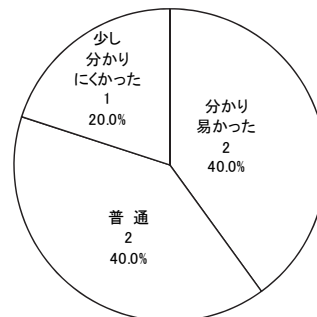
項目	回答数	割合
すごく満足した	1	20.0%
満足した	2	40.0%
普通	2	40.0%
少しもの足りなかった	0	0.0%
もの足りなかった	0	0.0%

9. 講座の理解度



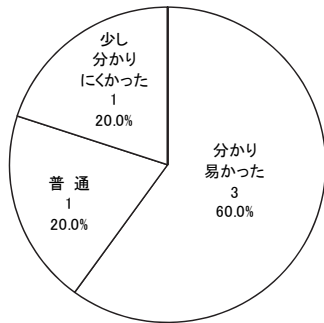
項目	回答数	割合
すごく理解できた	0	0.0%
理解できた	3	60.0%
少し理解できた	2	40.0%
全く理解できなかった	0	0.0%

10. 講師の教え方



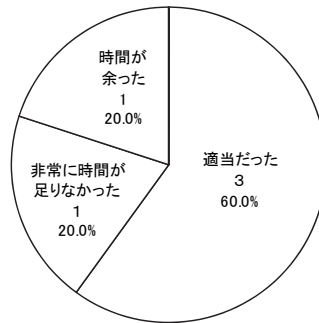
項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	0	0.0%
分かり易かった	2	40.0%
普通	2	40.0%
少し分かりにくかった	1	20.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	0	0.0%
分かり易かった	3	60.0%
普通	1	20.0%
少し分かりにくかった	1	20.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

12. 履修判定試験の時間



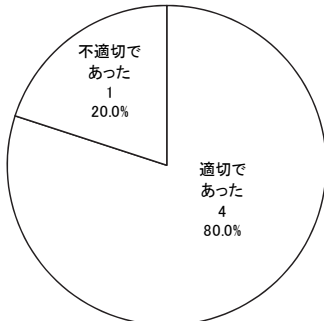
項目	回答数	割合
非常に時間が足りなかった	1	20.0%
時間が足りなかった	0	0.0%
適当だった	3	60.0%
時間が余った	1	20.0%
非常に時間が余った	0	0.0%

13. 履修判定試験の出題傾向、出題形式、問題数、難易度等

難しい
あまり、講義内容と違っていただけ感じた

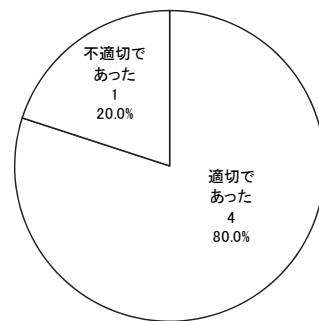
14. 開催日時について

A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	4	80.0%
不適切であった	1	20.0%

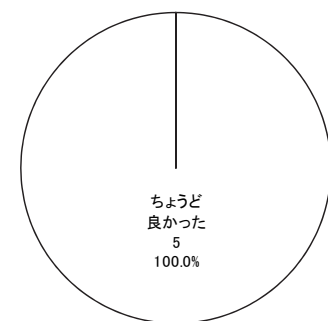
B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	4	80.0%
不適切であった	1	20.0%

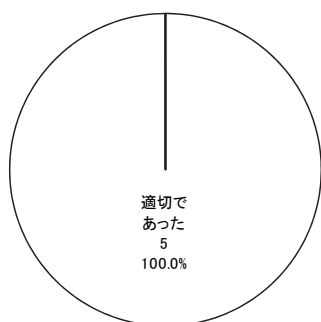
◇ その他:平日であればもっと人数が集まると思う。

15. 講座の時間数



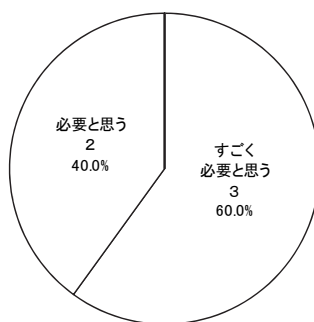
項目	回答数	割合
長かった	0	0.0%
ちょうど良かった	5	100.0%
短かった	0	0.0%
よくわからない	0	0.0%

16. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	5	100.0%
不適切であった	0	0.0%

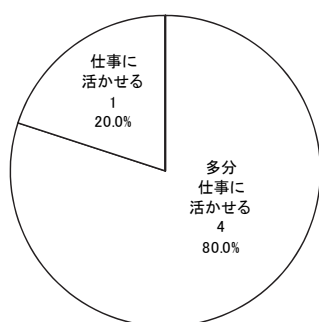
17. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	3	60.0%
必要と思う	2	40.0%
あまり必要と思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

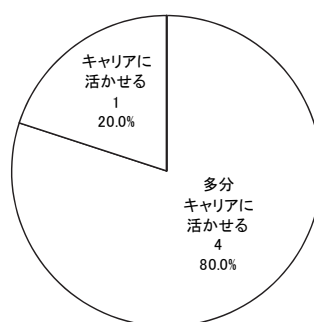
18. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



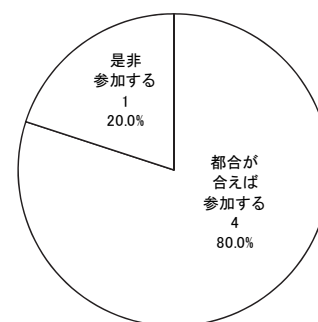
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	1	20.0%
多分仕事に活かせる	4	80.0%
仕事に活かせない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	1	20.0%
多分キャリアに活かせる	4	80.0%
キャリアに活かせない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

19. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	1	20.0%
都合が合えば参加する	4	80.0%
わからない	0	0.0%
参加しない	0	0.0%

20. ご意見をお願いいたします。

勉強になりました。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

「住環境エネルギー講座【高知】」アンケートまとめ

1. 業種と職種

＜業種＞設計・設備関連がそれぞれ 40.0%、建設業(ビル・施設)20.0%であった。

＜職種＞設計職 60.0%、営業職と技術・研究所がそれぞれ 20.0%であった。

建築士会関係からの案内のため、設計が目立った。

2. 会社規模

29 人以下・30～99 人がそれぞれ 40.0%、100～299 人が 20.0%であった。

3. 年令層

30 代が 40.0%、20 代・40 代・60 代がそれぞれ 20.0%であった。

4. 資格の有無

80.0%が有資格者であり、その中内訳としては、一級建築士 40.0%、二級建築士 20.0%、電工1種 20.0%であった。

5. 講座情報取得先

講座情報としては、建築士関係から・会社からがそれぞれ 40.0%、学校から 20.0%と取得していた。

表には出ていないが、土佐経済同友会と協力校の尽力が大きかった。

6. 受講理由

興味・関心があった 60.0%、将来必要と思った 40.0%、CPD 単位取得がそれぞれ 20.0%であった。

興味・関心と将来性の内容が、講座参加の大きな要因である。

7. CPD の意識

岡山地域同様に、CPD の意識は思ったほど高くない結果であるが、CPD の承認を得ているということから、講座レベルの評価があつての参加ということと思われる。

8. 講座内容

満足した・普通がそれぞれ 40.0%、すごく満足したが 20.0%であった。

ある程度の評価は得られていると思われる。

9. 理解度

理解できた 60.0%、少し理解できなかった 40.0%であった。

講座内容の理解は得られたものの、理解度は低いと判断できる。今後の課題として挙げられる。

10. 講師の教え方

分かり易かった・普通がそれぞれ 40.0%、少し分かりにくかった 20.0%であった。

講座内容の理解は得られたものの、教え方についての課題は残る。

11. テキスト内容

分かり易かった 60.0%、普通・少し分かりにくかったがそれぞれ 20.0%であった。

本来、2日間で実施する内容を1日に圧縮して講座を進めたためと思われる。

12. 履修判定試験の時間

適切だった 60.0%、非常に時間が足りなかった・時間が余ったがそれぞれ 20.0%であった。

その他の意見として、「難しかった」、「講座内容と違っていた」とあつた。

13. 開催時期

適切であった 80.0%であった。

14. 開催曜日

適切であった 80.0%(月～金曜日を希望 20.0%)であった。

15. 講座時間

ちょうど良かった 100%であった。

16. 講座会場

適切であった 100%であった。

17. 社会人の学び直しの取組み

すごく必要と思う 60.0%、必要と思う 40.0%であった。

現在、働いている人々にとっては、知識の習得できる勉強の場は必要と感じている。

18. <仕事面>・<キャリア面>の活用

<仕事面>:仕事に活かせる 20.0%、多分仕事に活かせる 80.0%

<キャリア面>:多分キャリアに活かせる 80.0%、キャリアに活かせる 20.0%

仕事面、キャリア面ともに、「活かせる」との回答が得られた。今後、さらに明確なものを示すことができる内容が必要である。

19. 今後の参加

都合が合えば参加する 80.0%、是非参加する 20.0%であった。

< まとめ >

建築士会 CPD 認定講座として発信し、協力校や建築士会等の協力があつたものの、参加者数が伸びなかった。講座タイトルから現在の実務にすぐに役立つ講座内容ということでもないということもあるため、その分、受講者数が伸びないという面も否めないと思われると同時に、高知地域での CPD 認定講座は、岡山地域同様に行政との絡みで建設系が主であることも原因の一つとして考えられる。

講座については、テキストの作成者と講師が別であったこともあり、講座の進行において、講師が考えるものとテキストとのズレが少なからずあつた。

本来の2日間を1日に圧縮した講座の進行となったことに対し、講師との打ち合わせが十分にできていなかった点が課題として挙げられる。

しかしながら、環境・エネルギー分野の知識習得においては、今後、実務をする上では必要なものとしての認識が高まってきている中、本講座が CPD の承認を受け、認定講座となったことにより、日本建築士連合会とプロバイダー契約し、本講座のプログラム ID を用いれば誰でも、どの地域でも使用可能な講座が開発できた。

このような誰でも使用できる CPD 認定講座の教育プログラムを開発できたことは普及の面において成功と考える。

■ 実証講座結果(履修判定試験及びカルテ点数(コマ毎の小テスト点数))

科目名	住環境エネルギー講座【高知】
講師	藤本晴男・佐藤孝史
講座実施日	2016年12月3日
講座実施時間	6時間
講座実施形態	講義
出席人数	5名

授業結果											履修判定試験	
	カルテ点数										平均	点数 (165点満点)
	第一回		第二回		第三回		第四回		第五回			
出席者氏名	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号		
1 ○○○○	80	6,10	50	3,5,6,7,8	90	6	90	6	90	3	80	119
2 ○○○○	60	7,8,9,10	70	3,4,10	90	6	100		70	4,8,10	78	140
3 ○○○○	90	9	80	1,3	80	6,9	100		90	1	88	114
4 ○○○○	80	7,10	90	1	80	1,6	90	4	80	1,4	84	108
5 ○○○○	70	6,7,9	90	3	70	1,6,9	100		80	3,9	82	107

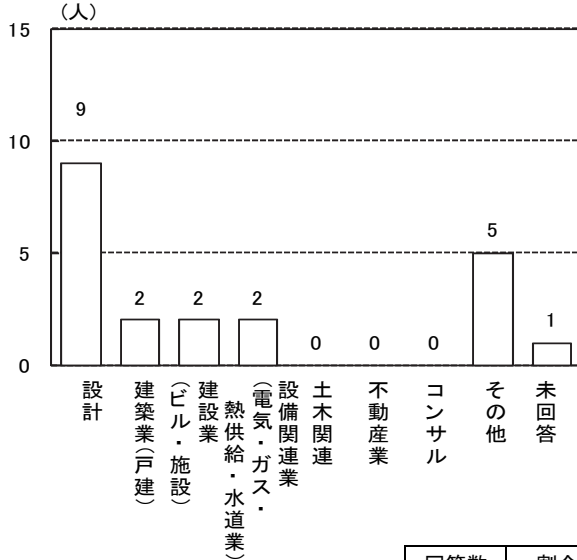
住環境エネルギー講座

全地域合計

【受講者アンケート比較】

「受講アンケート」集計・分析

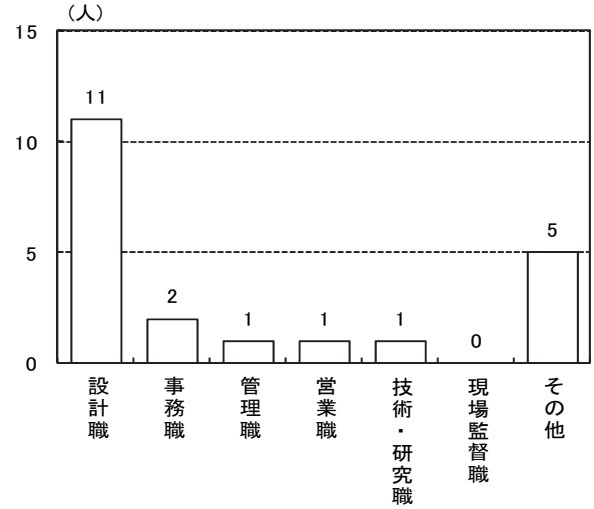
1. 業種



	回答数	割合
建築業(戸建て)	2	10.0%
建設業(ビル・施設)	2	10.0%
設計	9	45.0%
設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)	2	10.0%
土木関連	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	5	25.0%
未回答	1	5.0%

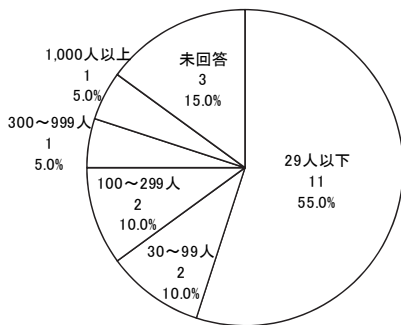
◇ その他:官公庁、教育機関、学生、就活中

2. 職種



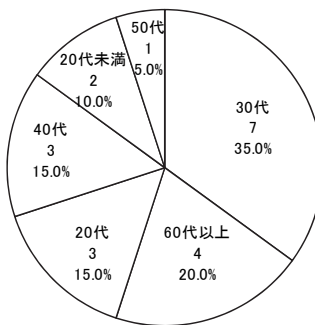
	回答数	割合
管理職	1	5.0%
営業職	1	5.0%
事務職	2	10.0%
設計職	11	55.0%
現場監督職	0	0.0%
技術・研究職	1	5.0%
その他	5	25.0%

3. 従業員数



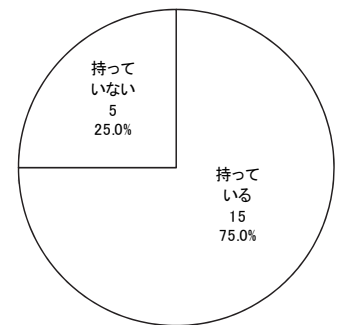
項目	回答数	割合
29人以下	11	55.0%
30~99人	2	10.0%
100~299人	2	10.0%
300~999人	1	5.0%
1,000人以上	1	5.0%
未回答	3	15.0%

4. 年令



項目	回答数	割合
20代未満	2	10.0%
20代	3	15.0%
30代	7	35.0%
40代	3	15.0%
50代	1	5.0%
60代以上	4	20.0%

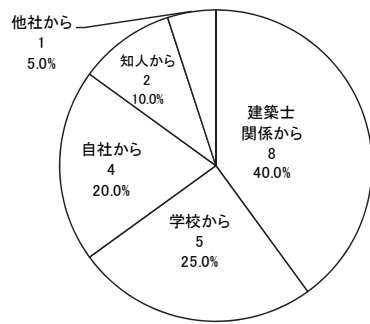
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	15	75.0%
持っていない	5	25.0%

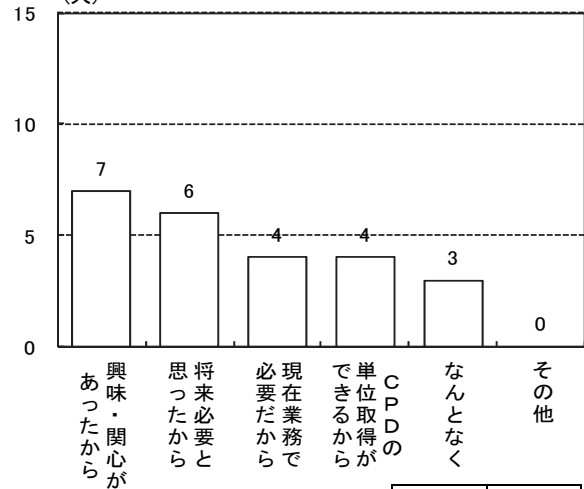
◇ 持っている:一級建築士 9
二級建築士 4、施工管理 1、
設備一級建築士 1、
インテリアプランナー 1
CASBEE 1、建築設備士 1
キッチンスペシャリスト 1、電工1種 1
省エネマイスター 1

6. 本講座をどのようにして知ったか



項目	回答数	割合
建築士関係から	8	40.0%
学校から	5	25.0%
自社から	4	20.0%
他社から	1	5.0%
知人から	2	10.0%
土佐経済同友会から	0	0.0%
その他	0	0.0%

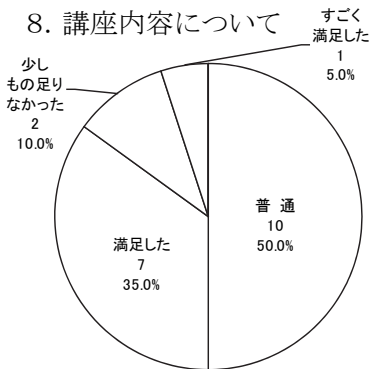
7. 受講理由 (人)



	回答数	割合
興味・関心があったから	7	35.0%
現在業務で必要だから	4	20.0%
将来必要と思ったから	6	30.0%
CPDの単位取得ができるから	4	20.0%
なんとなく	3	15.0%
その他	0	0.0%

◇ 「なんとなく」の内容:ボケ防止等

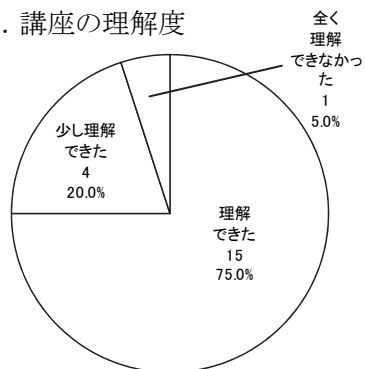
8. 講座内容について



項目	回答数	割合
すごく満足した	1	5.0%
満足した	7	35.5%
普通	10	50.0%
少しもの足りなかった	2	10.0%
もの足りなかった	0	0.0%

◇ 少しもの足りない理由:
もっと突っ込んだ計算があると思っていた。

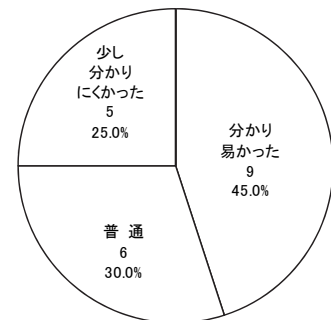
9. 講座の理解度



項目	回答数	割合
すごく理解できた	0	0.0%
理解できた	15	75.0%
少し理解できた	4	20.0%
全く理解できなかった	1	5.0%

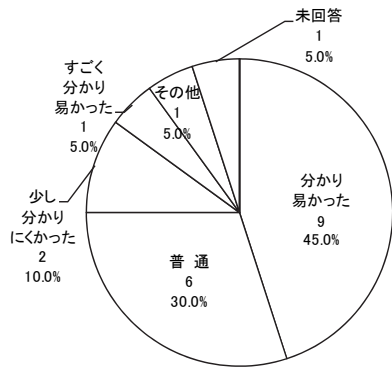
◇ 全く理解できなかった理由:
聞き取れなかった。

10. 講師の教え方



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	0	0.0%
分かり易かった	9	45.0%
普通	6	30.0%
少し分かりにくかった	5	25.0%
分かりにくかった	0	0.0%

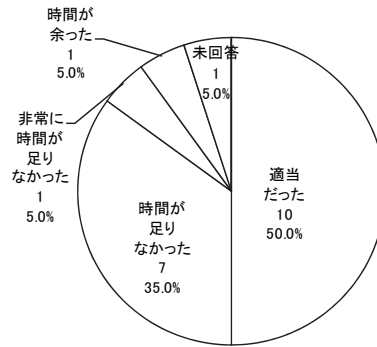
11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	1	5.0%
分かり易かった	9	45.0%
普通	6	30.0%
少し分かりにくかった	2	10.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	1	5.0%
未回答	1	5.0%

◇ その他:字が小さかった

12. 履修判定試験の時間



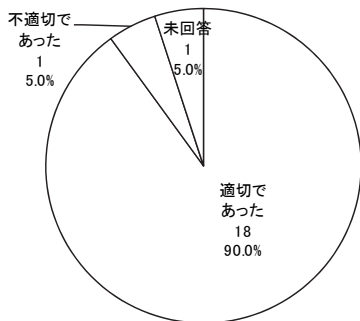
項目	回答数	割合
非常に時間が足りなかった	1	5.0%
時間が足りなかった	7	35.0%
適当だった	10	50.0%
時間が余った	1	5.0%
非常に時間が余った	0	0.0%
未回答	1	5.0%

13. 履修判定試験の出題傾向、出題形式、問題数、難易度等

難しかった
かなり難しかった。
出題数が多い分、理解度が深まるので、良いと思った。
講座内容として比較して難しい
適切
あまり、講座内容と違っていただけ感じた。

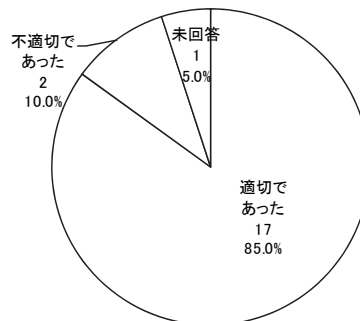
14. 開催日時について

A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	18	90.0%
不適切であった	1	5.0%
未回答	1	5.0%

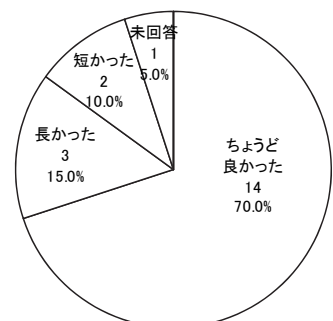
B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	17	85.0%
不適切であった	2	10.0%
未回答	1	5.0%

◇その他:平日であればもっと人数が集まると思う 1
水曜日が適切 1

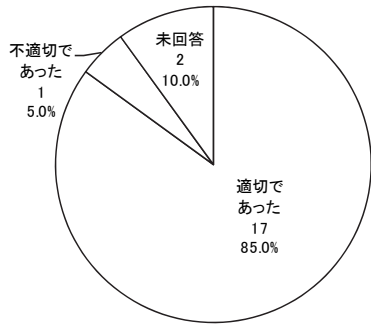
15. 講座の時間数



項目	回答数	割合
長かった	3	15.0%
ちょうど良かった	14	70.0%
短かった	2	10.0%
よくわからない	0	0.0%
未回答	1	5.0%

◇ 適切な時間数:4時間(椅子が硬い) 1
3時間以下 1
2日(12時間程度) 1

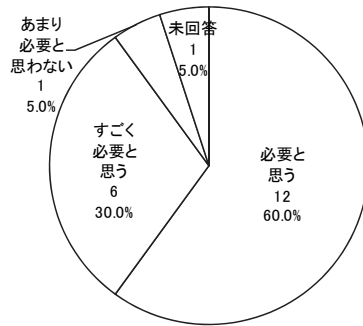
16. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	17	85.0%
不適切であった	1	5.0%
未回答	2	10.0%

◇ 適切な会場:天神付近が良かった

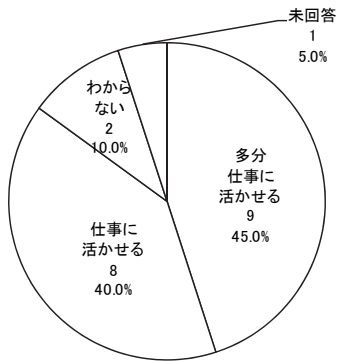
17. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
必要と思う	12	60.0%
すごく必要と思う	6	30.0%
あまり必要と思わない	1	5.0%
わからない	0	0.0%
未回答	1	5.0%

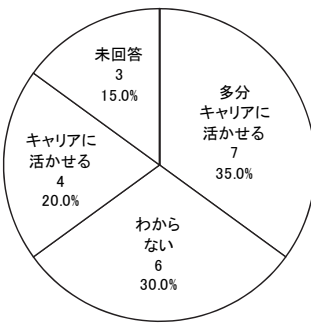
18. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



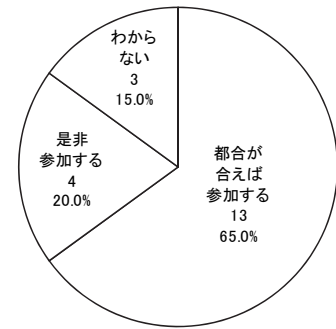
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	8	40.0%
多分仕事に活かせる	9	45.0%
仕事に活かさせない	0	0.0%
わからない	2	10.0%
未回答	1	5.0%

②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	4	20.0%
多分キャリアに活かせる	7	35.0%
キャリアに活かさせない	0	0.0%
わからない	6	30.0%
未回答	3	15.0%

19. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	4	20.0%
都合が合えば参加する	13	65.0%
わからない	3	15.0%
参加しない	0	0.0%

20. ご意見をお願いいたします。

椅子が硬くて本講座のような長時間は辛いです。
また機会があれば参加したいです。
勉強になりました。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

以下、岡山と高知、福岡の受講者アンケートをまとめたものである。
複数回答の場合は、項目毎に捉えて参照ください。

■ 業種と職種

建築分野に携わる主な業種の割合は、以下の通りである。

- ①設計においては岡山が 28.6%、高知が 40.0%、福岡が 62.5%であった。
- ②建築(戸建て)においては、岡山が 14.3%、高知が 0%、福岡が 12.5%であった。
- ③建設業(ビル・施設)においては、岡山が 0%、高知が 20.0%、福岡が 12.5%であった。
- ④設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)においては、岡山が 0%、高知が 40.0%、福岡が 12.5%であった。

また、主な職種の割合は、設計職がいずれの地域においても参加者の割合が高く、岡山が 28.6%、高知が 60.0%、福岡が 75.0%であった。

- ◎全体で主な業種については、設計に携わる方は 45.0%で、次にその他で 25.0%官公庁、教育機関、学生と興味のある方の参加が目立った。

全体で主な職種は、設計に携わる方は 55.0%で過半数を超えていた。

■ 受講者の会社規模

岡山は「29 人以下」が 57.1%、「未回答(学生・未就労者)」が 42.9%。

高知は「29 人以下」と「30～99 人」がそれぞれ 40.0%、「100～299 人」が 20.0%。

福岡は「29 人以下」が 62.5%、「100～299 人」、「300～999 人」、「1,000 人以上」、がそれぞれ 12.5%であった。

どちらの地域でも会社の規模的には第一位が「29 人以下」であった。

- ◎全体で「29 人以下」は 55.0%であった。

■ 受講者の年令層

岡山は「20 代未満」と「60 代以上」がそれぞれ 28.6%で、「30 代」、「40 代」、50 代」がそれぞれ 14.3%。

高知は「30 代」が 40.0%と「40 代」、「50 代」、「60 代以上」がそれぞれ 20.0%。

福岡は「30 代」が 50%、「20 代」、「40 代」、「50 代」、「60 代」がそれぞれ 12.5%であった。

岡山以外の高知と福岡の地域で「30 代」の受講者が目立った。あと「60 代以上」の受講者がどの地域でも見られた。

- ◎全体で「30 代」が 35.0%、「60 代以上」が 20.0%であった。

■ 資格の有無

受講者の有資格者の割合は、岡山が 57.1%、高知が 80.0%、福岡が 87.5%であった。

「一級建築士」を見ると、岡山が 42.9%、高知が 40.0%、福岡が 50.0%であった。

次に「二級建築士」が高知は 20.0%、福岡は 37.5%であった。

受講者の資格取得において、複数の資格を持っているのが見られたのは福岡地域で、岡山と高知では資格取得は一人ひとつの傾向であった。

- ◎全体では 75.0%が有資格者で、その中で「一級建築士」が 45.0%、「二級建築士」が 20.0%と続いた。

■ 講座情報取得先

岡山は「学校から」・「知人から」がそれぞれ 28.6%で、「建築士関係から」「自社から」・「他社から」がそれぞれ 14.3%であった。

高知は「会社から」・「建築士関係から」がそれぞれ 40.0%、「学校から」が 20.0%であった。

福岡は「建築士関係から」が 62.5%、「学校から」が 25.0%、「自社から」が 12.5%であった。

講座情報発信において、各地域の協力校からの働きかけは、受講者募集にとって重要とこの調査からでも判断できる。

各地域の建築士会や高知においては土佐経済同友会等の団体との連携においても重要な要素の一つであると思われる。

◎全体での講座取得情報先は、「建築士関係から」が 40.0%、「学校から」が 25.0%、「自社から」が 20.0%であった。

■ 講座の受講理由

岡山は「現在業務で必要だから」・「なんとなく」がそれぞれ 28.6%で、次に「興味・関心があったから」・「将来必要と思ったから」・「CPDの単位取得ができるから」がそれぞれ 14.3%であった。

高知は「興味・関心があったから」が 60.0%、「将来必要と思ったから」が 40.0%、「CPDの単位取得ができるから」が 20.0%であった。

福岡は「興味・関心があったから」・「将来必要と思ったから」がそれぞれ 37.5%で、次に「現在業務で必要だから」・「CPDの単位取得ができるから」がそれぞれ 25.0%であった。

◎全体で「興味・関心があったから」が 35.0%、「将来必要と思ったから」が 30.0%、「現在業務で必要だから」・「CPDの単位取得ができるから」がそれぞれ 20.0%と続いた。

■ CPD 認定講座についての意識

講座の受講理由から導き出すと、岡山と高知は福岡と異なり、CPD 認定講座という意識は低いようである。

アンケート調査結果からも福岡は 25%であったが、高知は 20.0%で岡山は 14.3%であった。

地域によって CPD に対する意識が違うことが明らかである。

◎全体で「CPDの単位取得ができるから」が 20.0%といった結果からも、地域による捉え方が違うのが伺える。

■ 講座内容について

岡山は「普通」が 57.1%、「満足した」が 28.6%、「少しもの足りなかった」が 14.3%であった。

高知は「満足した」と「普通」がそれぞれ 40.0%、「すごく満足した」が 10.0%であった。

福岡は「普通」が 50.0%、「満足した」が 37.5%、「少しもの足りなかった」が 12.5%であった。

どの地域も「普通」の印象が多かった。環境・エネルギーということで講座内容が広範囲過ぎた点も否めない可能性があるため、再検討が必要と思われる。

◎全体で「普通」が 50.0%、「満足した」が 35.0%、「少しもの足りなかった」が 20.0%であった。

■ 講座内容の理解度について

岡山は「理解できた」が 85.7%、「全く理解できなかった」が 14.3%であった。

高知は「理解できた」が 60.0%、「少し理解できた」が 40.0%であった。

福岡は「理解できた」が 75.0%、「少し理解できた」が 25.0%であった。

◎全体では、「理解できた」が 75.0%、「少し理解できた」が 20.0%、「全く理解できなかった」が 5.0%であった。

2日間を想定した内容を、各地域の声から1日に短縮したため、十分な時間が取れなかった点が、反映されていると判断できる。

但し、「少し理解できた」20.0%と「全く理解できなかった」5.0%を着目し、社会人学び直し講座として講座内容と講師、時間の配分等は課題として挙げる。

■ 講師の教え方について

岡山は「少し分かりにくかった」が42.9%、「分かり易かった」が28.6%、「普通」が28.6%であった。高知は「分かり易かった」・「普通」がそれぞれ40.0%、「少し分かりにくかった」が20.0%であった。福岡は「分かり易かった」が31.3%、「普通」が12.5%、「少し分かりにくかった」が6.3%であった。講師の話し方や進行については、受講者にとっても講座内容を理解できるものと判断できる。少数意見ではあるが、前項において「聞き取れなかった」という声もあったことから、この点をまずは改善点として挙げる。

◎全体では「分かり易かった」が45.0%で、「普通」が30.0%、「少し分かりにくかった」が25.0%であった。

■ テキストの内容について

岡山は「普通」が57.1%、「すごく分かり易かった」・「その他(字が小さかった)」・「未回答」がそれぞれ14.3%であった。

高知は「分かり易かった」60.0%、「普通」・「少し分かりにくかった」がそれぞれ20.0%であった。

福岡は「分かり易かった」75.0%、「普通」・「少し分かりにくかった」がそれぞれ12.5%であった。

テキストの文字の大きさの指摘は、70代の方からの声であった。その他の年代からは特に声はなかった。

また、「少し分かりにくかった」との声については、2日間分を1日に短縮し実施した影響での講座とテキストのバランスと推測される。

◎全体では、「分かり易かった」が45.0%、「普通」が30.0%で、「少し分かりにくかった」10.0%であった。

■ 履修判定試験の時間について

岡山は「時間が足りなかった」・「適当だった」がそれぞれ42.9%であった。

高知は「適当だった」60.0%、「非常に時間が足りなかった」・「時間が余った」がそれぞれ20.0%であった。

福岡は「時間が足りなかった」・「適当だった」がそれぞれ50.0%であった。

本試験はスコア制ということもあり、講座内容の範囲外からも出題されたことから「時間が足りなかった」・「非常に時間が足りなかった」という声が出たと推測される。

◎全体では、「適当だった」が50.0%、「時間が足りなかった」が35.0%と続いた。

■ 講座の開催時期について

開催時期については、従事している業種・職種にもよると思われるが、岡山に「未回答」と高知に「不適切であった」がそれぞれ一人いた限り、

他の受講者(福岡では全員)は適切であるとの回答であった。

開催曜日については、平日を望む方が岡山と高知でそれぞれ一人おり、他の受講者(福岡では全員)は適切であるとの回答であった。

講座の開催時期としては特に悪くなかったと考えられる。

◎全体では、開催時期は「適切であった」が90.0%、開催曜日は「適切であった」が85.0%であった。

■ 講座時間について

岡山では「ちょうど良かった」が 42.9%、「長かった」が 28.6%、「短かった」・「未回答」14.3%であった。

高知では全員が「ちょうど良かった」との回答であった。

福岡では「ちょうど良かった」が 75.0%、「長かった」・「短かった」が 12.5%であった。

長いという方からは4時間と3時間以下、短いという方からは2日間(12 時間)程度の要望の声を聞くことができた。

◎全体では、「ちょうど良かった」が 70.0%、「長かった」が 15%、「短かった」が 10%であった。

■ 講座会場について

会場については、アクセスによる意見が出てはいたが、会場へは色々な地域から参加するため、仕方がないと考える。

会場としても適切であると考ええる。

◎全体では、「適切であった」が 85.0%であった。

■ 社会人学び直しの取り組みについて

岡山は「必要と思う」が 71.4%、「あまり必要と思わない」・「未回答」がそれぞれ 14.3%であった。

高知は「すごく必要と思う」が 60.0%、「必要と思う」が 40.0%であった。

福岡は「必要と思う」が 62.5%、「すごく必要と思う」が 37.5%であった。

どの地域でも「必要と思う」という回答であった。

但し、岡山は学生も受講していることもあり、社会人という経験もないことから「未回答」という声が出てきた推測される。

◎全体では、「必要と思う」が 60.0%、「すごく必要と思う」が 30.0%であった。

■ 本講座が仕事面とキャリア面に活かせるかについて

【仕事面】

岡山は「多分仕事に活かせる」が 42.9%、「わからない」が 28.6%、「仕事に活かせる」・「未回答」が 14.3%であった。

高知は「多分仕事に活かせる」が 80.0%、「仕事に活かせる」が 20.0%であった。

福岡は「仕事に活かせる」が 75.0%、「多分仕事に活かせる」が 25.0%であった。

地域により、講座内容と仕事の関連性が見えた回答であった。受講者の属性も異なる岡山では、建築分野でない受講者からの声として「わからない」・「未回答」が出てきた。

◎全体では、「多分仕事に活かせる」が 45.0%、「仕事に活かせる」が 40.0%であった。

【キャリア面】

岡山は「わからない」・「未回答」がそれぞれ 42.9%、「キャリアに活かせる」が 14.3%であった。

高知は「多分キャリアに活かせる」が 80.0%、「キャリアに活かせる」が 20.0%であった。

福岡は「多分キャリアに活かせる」・「わからない」がそれぞれ 37.5%、「キャリアに活かせる」が 25.0%であった。

環境・エネルギー分野の知識が仕事に必要と感じているものの、実務にすぐに役立つ内容でもないため、このような回答であったと推測する。

◎全体では、「多分キャリアに活かせる」が 35.0%、「わからない」が 30.0%、「キャリアに活かせる」が 20.0%であった。

■ 今後の参加について

岡山は「都合が合えば参加する」が 57.1%、「わからない」が 42.9%であった。

高知は「都合が合えば参加する」が 80.0%、「是非参加する」が 20.0%であった。

福岡は「都合が合えば参加する」が 62.5%、「是非参加する」が 37.5%であった。

社会人は仕事の状況によって受講が難しいと思われるが、少なくとも本講座の受講者の多くは次に本講座と同じような内容・レベルであれば受講を考慮するといったものである。

◎全体では、「都合が合えば参加する」が 65.0%、「是非参加する」が 20.0%であった。

新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

■新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座（高知・福岡）

シラバス・コマシラバス作成～受講者集め・受付様式

シラバス・コマシラバス

講義	科目	単位数	履修条件	担当	備考
1 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	1.1	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	1.2	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	1.3	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	1.4	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
2 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	2.1	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	2.2	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	2.3	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	2.4	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
3 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	3.1	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	3.2	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	3.3	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	3.4	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
4 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座	4.1	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	4.2	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	4.3	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座
	4.4	1		佐藤 隆	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

講座パンフレット

平成28年度文部科学省委託事業「環境・エネルギー分野の社会人学び直し教育プログラム開発」

2016年度高知県知事公選「環境・エネルギー分野の社会人学び直し教育プログラムの開発」

平成28年10/25(火) 17:30~18:10 開催!

【主催】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【後援】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【講師】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【会場】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講料】 受講料10,000円(税込)

【申込】 申込書・申込料を添付して下記までお送りください。

【お問い合わせ】 0985-222-1111

新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座(CPD認定4年分修習)開催! (エネ・1)ページ

【主催】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【後援】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【講師】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【会場】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講料】 受講料10,000円(税込)

【申込】 申込書・申込料を添付して下記までお送りください。

【お問い合わせ】 0985-222-1111

講座案内: エコピープル支援協議会HP

【講師】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【会場】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講料】 受講料10,000円(税込)

【申込】 申込書・申込料を添付して下記までお送りください。

【お問い合わせ】 0985-222-1111

講座案内: 日本建築士連合会HP

CPD情報システム

【講師】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【会場】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講料】 受講料10,000円(税込)

【申込】 申込書・申込料を添付して下記までお送りください。

【お問い合わせ】 0985-222-1111

受講票

お申込み頂いた講座の受講票を送付致します。お申込みが、ご希望の様に承れたいと思いますようお願い申し上げます。

【主催】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講票送付のお知らせ】

この度は当学園主催の講座にご参加申し込みを頂き、誠にありがとうございます。このFAX用紙は、本講座の受講票となっておりますので、当日お持ちください。尚、受講票の発行には、CPD単位申請に際して、資格審査が必要となりますので、お申込み頂いた講座の受講料を送付致します。お申込みが、ご希望の様に承れたいと思いますようお願い申し上げます。

【主催】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講票送付のお知らせ】

この度は当学園主催の講座にご参加申し込みを頂き、誠にありがとうございます。このFAX用紙は、本講座の受講票となっておりますので、当日お持ちください。尚、受講票の発行には、CPD単位申請に際して、資格審査が必要となりますので、お申込み頂いた講座の受講料を送付致します。お申込みが、ご希望の様に承れたいと思いますようお願い申し上げます。

【主催】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校

【受講票送付のお知らせ】

この度は当学園主催の講座にご参加申し込みを頂き、誠にありがとうございます。このFAX用紙は、本講座の受講票となっておりますので、当日お持ちください。尚、受講票の発行には、CPD単位申請に際して、資格審査が必要となりますので、お申込み頂いた講座の受講料を送付致します。お申込みが、ご希望の様に承れたいと思いますようお願い申し上げます。

【日時】 2016年11月5日(土) 13:30~18:10

【会場】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校 5階 753教室

【お問合せ】 宇形法人再生塾 高知情報ビジネス専門学校 TEL:0985-222-1111

【当日のスケジュール】

13:00	受付開始
13:30	講座開始時間
13:30~14:30	最新平成28年省エネ基準解説
14:30~15:40	休憩
15:40~16:40	最新の省エネ基準による計算、判定手法
16:40~16:50	休憩
16:50~18:10	演習講座で、実際に使った計算スキルを身につける
18:00~18:10	アンケートの協力終了

新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

【高知地域】

■ 講師プロフィール

加藤 陽介(かとう ようすけ)

- ◆ 資格等 一級建築士
- ◆ 所属 株式会社楓設計室 代表取締役
- ◆ 認定 一般社団法人日本建築学会 子ども教育支援建築会議 子ども教育事業部会委員
 一般社団法人日本建築学会 関東支部 地震災害調査連絡会メンバー
 一般社団法人東京建築士会 青年委員会委員、環境委員会委員、評議員(2009～2012)
 東京都木造住宅耐震診断技術者、東京都応急危険度判定委員、CASBEE戸建評価員、
 建築設備検査資格者、八王子環境学習リーダー 他



〈 講 座 風 景 〉



■ 当日の講座スケジュール

13:00	受付開始
13:30	講座開始時間
13:30～14:30	最新平成 28 年省エネ基準解説
14:30～14:40	休 憩
14:40～15:40	最新の省エネ基準による計算、判定手法
15:40～15:50	休 憩
15:50～16:50	演習課題で実務に役に立つ計算スキルを身につける
16:50～17:00	休 憩
17:00～18:00	モデルプランを使い、地域特性を活かして環境に配慮した暮らし、省エネルギーで快適な住まいにする手法をグループワークで提案
18:00～18:10	アンケートのご協力・終了

■ アンケート調査と集計・分析

「受講アンケート」質問票

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」受講アンケート

この度は、平成28年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業
社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業の取り組みである地域版本実証講座を
受講頂きまして、誠にありがとうございます。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いいたします。

■あなたのお仕事状況についてお聞かせください。

- 該当する現在の(主な)業種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 建築業(戸建て) (イ) 建設業(ビル・施設) (ウ) 設計 (エ) 設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)
(オ) 土木関連 (カ) 不動産業 (キ) コンサル (ク) その他()
- 該当する現在の(主な)職種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 管理職 (イ) 営業職 (ウ) 事務職 (エ) 設計職 (オ) 現場監督職
(カ) 技術・研究開発職 (キ) その他()
- 勤務先的全従業員数についてお聞きします。下記の該当する人数に1つ○をつけてください。
(ア) 29人以下 (イ) 30~99人 (ウ) 100~299人 (エ) 300~999人 (オ) 1,000人以上
- あなたの年齢はおいくつでしょうか。該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 20代未満 (イ) 20代 (ウ) 30代 (エ) 40代 (オ) 50代 (カ) 60代以上
- 何か資格をお持ちでしょうか。
(ア) 持っている→(資格名称をお願いいたします) ()
(イ) 持っていない

■本講座の内容についてお聞かせください。

- 本講座をどのようにして知りましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 建築士会関係から (イ) 学校から (ウ) 会社から (エ) 土佐経済同友会から (オ) 知人から
(カ) その他()
- 受講された理由をお聞かせください。(複数回答可)
(ア) 興味・関心があったから (イ) 現在業務で必要だから (ウ) 将来必要と思ったから
(エ) CPDの単位取得ができるから (オ) なんとなく (カ) その他()
- 講座内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく満足した (イ) 満足した (ウ) 普通 (エ) 少しもの足りなかった (オ) もの足りなかった
→ (エ)と(オ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
- 講座の内容は理解できましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく理解できた (イ) 理解できた (ウ) 少し理解できた (エ) 全く理解できなかった
→ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
- 講師の教え方はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他()

11. テキストの内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) すぐ分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他

表面に続く

12. 本講座の講義と演習(ワークショップ)とのバランスはいかがでしたか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) すぐ良かった (イ) 良かった (ウ) あまり良くなかった (エ) 良くなかった

→ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()

■本講座の開催時期と所要時間についてお聞かせください。

13. 開催日時は適切でしたか。以下の A. B. それぞれについて1つだけ○をつけてください。

- A. 時期 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → いつの時期がよかったですか。()
B. 曜日 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの曜日がよかったですか。()

14. 本講座は4時間程の講座でしたが、時間数はちょうどよかったですか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 長かった (イ) ちょうど良かった (ウ) 短かった (エ) よくわからない

→ (ア)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に○をつけてください。

- (ア) 3時間 (イ) 2時間 (ウ) 1時間以下

→ (エ)の方、どのくらいのお時間がよろしかったですか。以下に○をつけてください。

- (ア) 2日(12時間程度) (イ) 1日(8時間程度) (ウ) 6時間程度 (エ) 5時間程度

15. 本講座の会場は適切でしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → その理由をご記入ください。()

■社会人学び直しとした本講座についてお聞かせください。

16. 本講座は社会人の学び直し講座として開講しましたが、このような講座は必要と思われますか。

以下に該当するところに1つ○をつけてください。

- (ア) すごく必要と思う (イ) 必要と思う (ウ) あまり必要と思わない (エ) わからない

17. 本講座は、今後のあなたのお仕事やキャリアに活かせると思いませんか。

以下の④⑤それぞれについて1つだけ○をつけてください。

- ④仕事面 (ア) 仕事に活かせる (イ) 多分仕事に活かせる (ウ) 仕事に活かせない (エ) わからない
⑤キャリア面 (ア) キャリアに活かせる (イ) 多分キャリアに活かせる (ウ) キャリアに活かせない (エ) わからない

→ (ウ)と(エ)の方、どのような内容であれば適切だと思いますか。ご自由にお聞かせください。

18. 今後このような講座があれば参加しますか。

- (ア) 是非参加する (イ) 都合が合えば参加する (ウ) わからない (エ) 参加しない

19. 最後に何かございましたら、ご意見をお願いいたします。

--

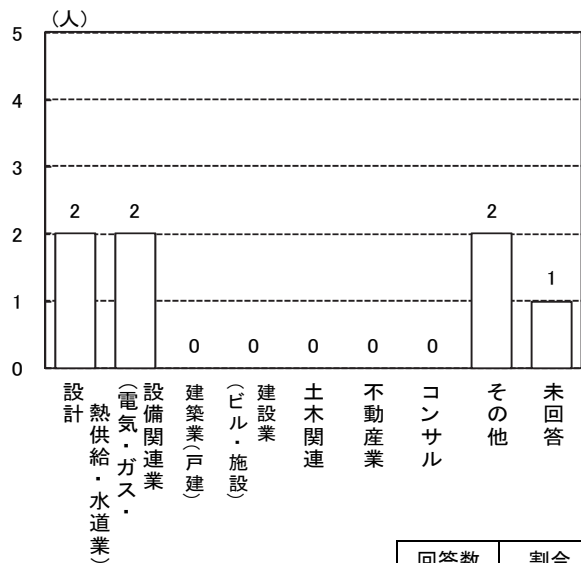
20. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

企業・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本日はご協力ありがとうございました。

「受講アンケート」集計・分析

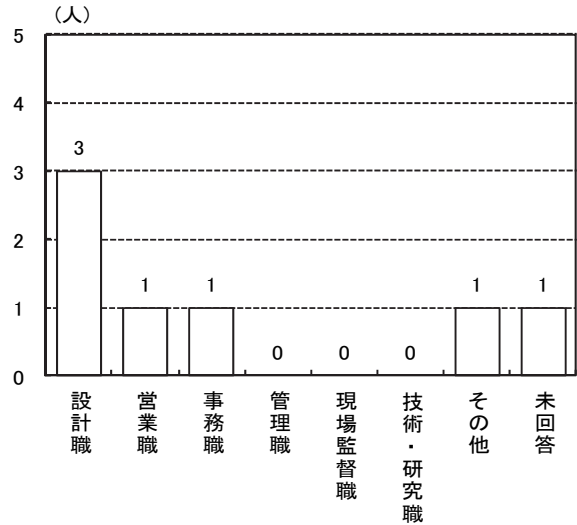
1. 業種



	回答数	割合
建築業(戸建て)	0	0.0%
建設業(ビル・施設)	0	0.0%
設計	2	28.6%
設備関連業 (電気・ガス・熱供給・水道業)	2	28.6%
土木関連	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	2	28.6%
未回答	1	14.3%

◇ その他:CADメーカー、建築行政

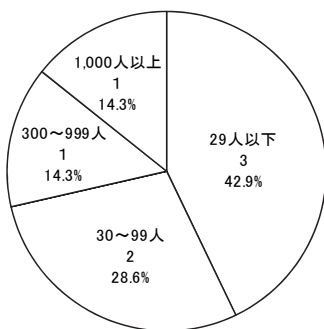
2. 職種



	回答数	割合
管理職	0	0.0%
営業職	1	14.3%
事務職	1	14.3%
設計職	3	42.9%
現場監督職	0	0.0%
技術・研究職	0	0.0%
その他	1	14.3%
未回答	1	14.3%

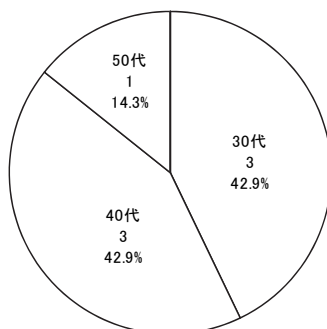
◇ その他:見習い中(アルバイト)

3. 従業員数



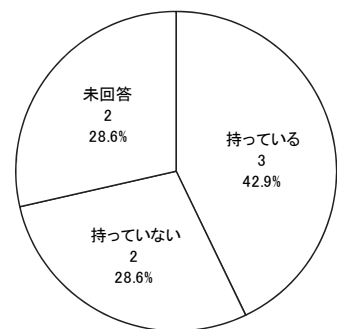
項目	回答数	割合
29人以下	3	42.9%
30~99人	2	28.6%
100~299人	0	0.0%
300~999人	1	14.3%
1,000人以上	1	14.3%

4. 年齢



項目	回答数	割合
20代未満	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	3	42.9%
40代	3	42.9%
50代	1	14.3%
60代以上	0	0.0%

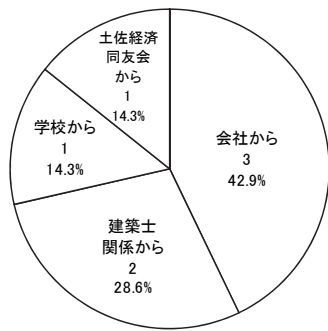
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	3	42.9%
持っていない	2	28.6%
未回答	2	28.6%

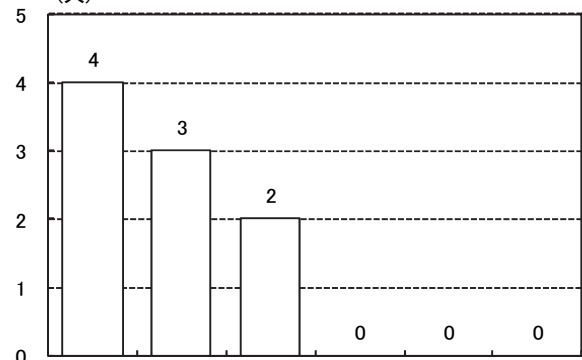
◇ 持っている:一級建築士 2
 一種電工 1
 液化石油ガス設備士 1
 電工2種 1

6. 本講座をどのようにして知ったか



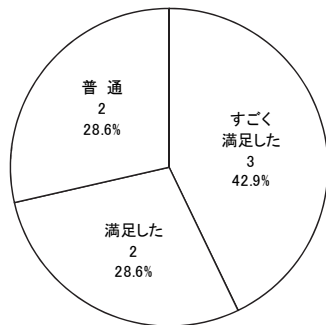
項目	回答数	割合
建築士関係から	2	28.6%
学校から	1	14.3%
会社から	3	42.9%
土佐経済同友会から	1	14.3%
知人から	0	0.0%
その他	0	0.0%

7. 受講理由 (人)



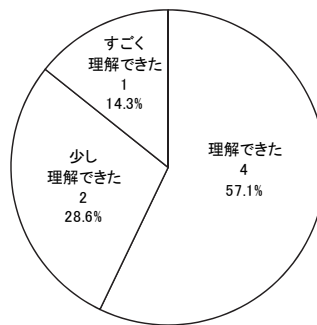
回答数	割合
興味・関心があったから	57.1%
現在業務で必要だから	42.9%
将来必要と思ったから	28.6%
CPDの単位取得ができるから	0.0%
なんとなく	0.0%
その他	0.0%

8. 講座内容について



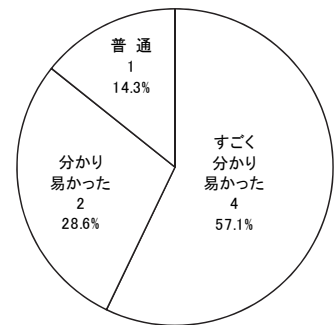
項目	回答数	割合
すごく満足した	3	42.9%
満足した	2	28.6%
普通	2	28.6%
少しもの足りなかった	0	0.0%
もの足りなかった	0	0.0%

9. 講座の理解度



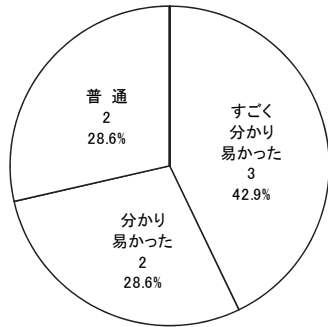
項目	回答数	割合
すごく理解できた	1	14.3%
理解できた	4	57.1%
少し理解できた	2	28.6%
全く理解できなかった	0	0.0%

10. 講師の教え方



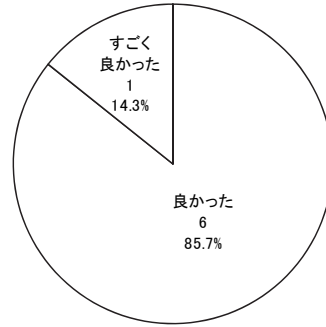
項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	4	57.1%
分かり易かった	2	28.6%
普通	1	14.3%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	3	42.9%
分かり易かった	2	28.6%
普通	2	28.6%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

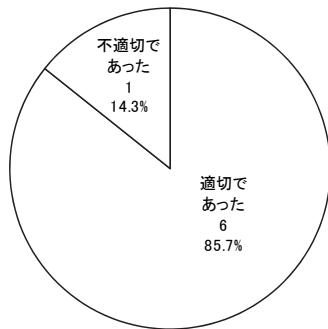
12. 本講座の講義と演習
(ワークショップ)とのバランス



項目	回答数	割合
すごく良かった	1	14.3%
良かった	6	85.7%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%

13. 開催日時について

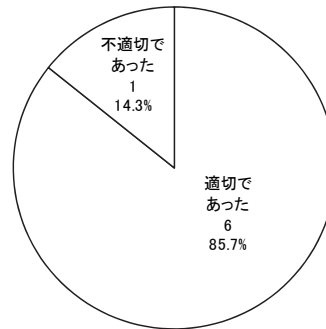
A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	6	85.7%
不適切であった	1	14.3%

◇ その他:5月、6月が適切

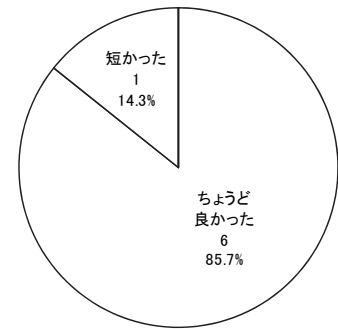
B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	6	85.7%
不適切であった	1	14.3%

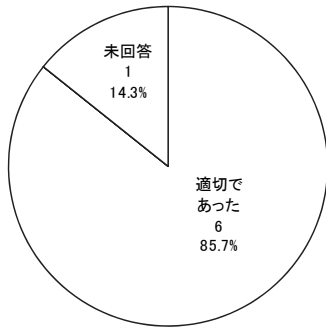
◇その他:火曜日、水曜日が適切

14. 講座の時間数



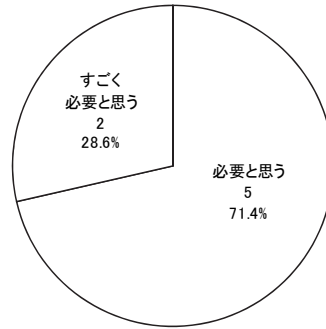
項目	回答数	割合
長かった	0	0.0%
ちょうど良かった	6	85.7%
短かった	1	14.3%
よくわからない	0	0.0%

15. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	6	85.7%
不適切であった	0	0.0%
未回答	1	14.3%

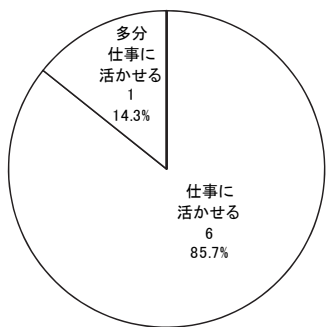
16. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	2	28.6%
必要と思う	5	71.4%
あまり必要と思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

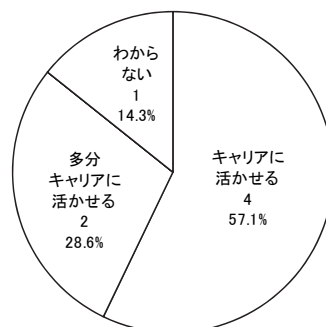
17. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



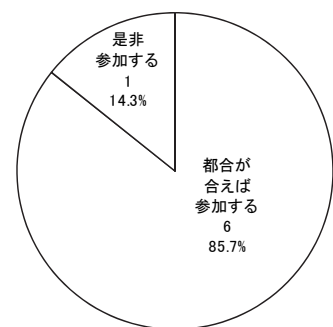
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	6	85.7%
多分仕事に活かせる	1	14.3%
仕事に活かせない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	4	57.1%
多分キャリアに活かせる	2	28.6%
キャリアに活かせない	0	0.0%
わからない	1	14.3%

18. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	1	14.3%
都合が合えば参加する	6	85.7%
都合が合えば参加しない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

◇ わからない理由：
ZEH関連の勉強のため参加したので、
直接活かせるかは不明。

19. ご意見をお願いいたします。

2回あったテストの解答にも、問題文があればよかった。
進め方が早かった。
UAとηACについて理解が深まった。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【高知】」アンケートまとめ

1. 業種と職種

＜業種＞設計・設備関連・その他(CAD メーカー、建築行政)がそれぞれ 25.6%であった。

＜職種＞設計職 42.9%、営業職・事務職・その他(見習い中)がそれぞれ 14.3%であった。
建築士会関係からの案内のため、設計が目立った。

2. 会社規模

29 人以下 42.9%、30～99 人 28.8%、300～999 人・1,000 人以上がそれぞれ 14.3%であった。

3. 年令層

30 代・40 代がそれぞれ 42.9%、50 代 14.3%であった。

4. 資格の有無

42.9%が有資格者であり、その中内訳としては、一級建築士 28.6%、一種電工・液化石油ガス設備士・電工2種がそれぞれ 14.3%であった。

5. 講座情報取得先

講座情報としては、会社から 42.9%、建築士関係から 28.6%、学校から・土佐経済同友会からがそれぞれ 14.3%と取得していた。

土佐経済同友会と協力校の尽力が大きかった。

6. 受講理由

興味・関心があった 57.1%、現在業務で必要 42.9%、将来必要と思った 28.6%であった。

興味・関心と現在の業務、将来性の内容が講座参加の大きな要因である。

7. CPD の意識

CPD の意識は高くない結果であるが、講座の情報が建築関係からもあることから、CPD の承認を得ているということから、講座レベルの評価があつての参加と思われる。

8. 講座内容

すごく満足した 42.9%、満足した・普通がそれぞれ 28.6%であった。

満足する内容の評価は得られていると思われる。

9. 理解度

理解できた 57.1%、少し理解できた 28.8%、すごく理解できた 14.3%であった。

講座内容の理解は得られたものの、内容的には6時間程度は要すると思われたため、進行が駆け足になったことの結果と思われる。

10. 講師の教え方

すごく分かり易かった 57.1%、分かり易かった 28.6%、普通 14.3%であった。

講師の評価は高いことが結果として表れた。

11. テキスト内容

すごく分かり易かった 42.9%、分かり易かった・普通がそれぞれ 28.6%であった。

講師との流れや文字の大きさなどの打ち合わせの結果が評価として表れた。

12. 講義と演習(ワークショップ)のバランス

良かった 85.7%、すごく良かった 14.3%であった。

13. 開催時期

適切であった 85.7% (5～6月に 14.3%が希望)であった。

14. 開催曜日

適切であった 85.7% (火・水曜日を希望 20.0%)であった。

15. 講座時間

ちょうど良かった 85.7%であった。

16. 講座会場

適切であった 85.7%であった。

17. 社会人の学び直しの取組み

必要と思う 71.4%、すごく必要と思う 28.6%であった。

現在、働いている人々にとっては、知識の習得できる勉強の場は必要と感じている。

18. <仕事面>・<キャリア面>の活用

<仕事面>:仕事に活かせる 85.7%、多分仕事に活かせる 14.3%

<キャリア面>:キャリアに活かせる 57.1%、多分キャリアに活かせる 28.6%

仕事面、キャリア面ともに、「活かせる」との回答が得られた。

19. 今後の参加

都合が合えば参加する 85.7%、是非参加する 14.3%であった。

< まとめ >

建築士会 CPD 認定講座として発信し、協力校や土佐経済同友会、建築士会等の協力があつたものの、参加者数が伸びなかった。

講座内容は、2020 年の完全義務化に向けた実務に役立つものとして明確にしていたが、高知地域での CPD 認定講座の年間受講者数は 400 名強であり、CPD の定着率が比較的低いことが挙げられる。

また、CPD 講座としては、行政との絡みで建設系が主であることも原因の一つとして考えられる。

受講者数についての課題があるが、繁忙期を目の前に迎えた開催時期による仕事の都合による影響もあるため、検討していく余地がある。

しかしながら、この度、本講座が高知地域の受講者に認められ評価も得られていることから、今後、高知地域で同内容の講座を展開することを望む。

本講座が CPD の承認を受け、認定講座となったことにより、日本建築士連合会とプロバイダー契約をし、本講座のプログラム ID を用いれば誰でも、どの地域でも使用可能な講座として開発ができた。

このような誰でも使用できる CPD 認定講座の教育プログラムを開発できたことは普及の面において成功と考える。

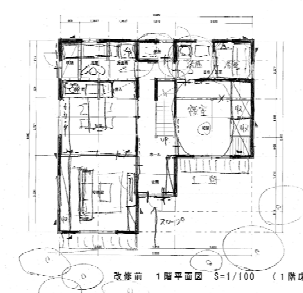
■ 実証講座結果(履修判定試験ワークショップ(講師判定)及びカルテ点数(コマ毎の小テスト点数))

科目名	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【高知】
講師	加藤陽介
講座実施日	2016年10月25日
講座実施時間	4時間
講座実施形態	講義／演習
出席人数	7名

授業結果								
	カルテ点数						平均	
	第一回		第二回		第三回			第四回
出席者氏名	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	演習	
1 ○○○○	90	2	80	7,8	90	6	ワークショップ + 発表	86.7
2 ○○○○	100		90	5	90	5		93.3
3 ○○○○	70	3,4,10	90	8	100			86.7
4 ○○○○	90	10	80	1,8	90	6		86.7
5 ○○○○	100		80	7,8	0	解答欄未記入のため		60.0
6 ○○○○	100		100		90	6		96.7
7 ○○○○	90	3	90	1	90	6		90.0
8								
9								
10								

ワークショップ課題

1. 改修前の1階平面図を参考に、省エネ基準に適合する改修案を作成せよ。
 (注) 1. 改修案は、改修後の1階平面図を作成せよ。
 2. 改修案は、改修後の1階平面図を作成せよ。
 3. 改修案は、改修後の1階平面図を作成せよ。



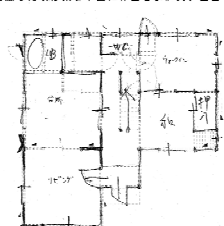
課題：クライアントの希望を踏まえて改修案を作成せよ。
 クライアントからの希望事項
 『改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。』
 ① 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ② 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ③ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ④ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑤ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑥ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑦ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑧ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑨ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑩ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。

その他の条件
 ① 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ② 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ③ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ④ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑤ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑥ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑦ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑧ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑨ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。
 ⑩ 改修後の1階平面図を作成せよ。改修後の1階平面図を作成せよ。

改修前 1階平面図 S=1/100 (1階床面積: 65.97㎡ 約70坪)

ワークショップ答案用紙

省エネにも配慮した改修案を下図に作図せよ。又、図面で記せない箇所に関しては簡易書きにて図解せよ。



改修プラン 1階平面図 S=1/100 (1階床面積: 65.97㎡ 約70坪)

新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

【福岡地域】

■ 講師プロフィール

加藤 陽介(かとう ようすけ)

- ◆ 資格等 一級建築士
- ◆ 所 属 株式会社楓設計室 代表取締役
- ◆ 認 定 一般社団法人日本建築学会 子ども教育支援建築会議 子ども教育事業部会委員
 一般社団法人日本建築学会 関東支部 地震災害調査連絡会メンバー
 一般社団法人東京建築士会 青年委員会委員、環境委員会委員、評議員(2009～2012)
 東京都木造住宅耐震診断技術者、東京都応急危険度判定委員、CASBEE戸建評価員、
 建築設備検査資格者、八王子環境学習リーダー 他



〈 講 座 風 景 〉



■ 当日の講座スケジュール

13:00	受付開始
13:30	講座開始時間
13:30～14:30	最新平成 28 年省エネ基準解説
14:30～14:40	休 憩
14:40～15:40	最新の省エネ基準による計算、判定手法
15:40～15:50	休 憩
15:50～16:50	演習課題で実務に役に立つ計算スキルを身につける
16:50～17:00	休 憩
17:00～18:00	モデルプランを使い、地域特性を活かして環境に配慮した暮らし、省エネルギーで快適な住まいにする手法をグループワークで提案
18:00～18:10	アンケートのご協力・終了

■ アンケート調査と集計・分析

「受講アンケート」質問票

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」受講アンケート

この度は、平成28年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業
社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業の取り組みである地域版本実証講座を
受講頂きまして、誠にありがとうございます。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いいたします。

■あなたのお仕事状況についてお聞かせください。

1. 該当する現在の(主な)業種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 建築業(戸建て) (イ) 建設業(ビル・施設) (ウ) 設計 (エ) 設備関連業(電気・ガス・熱供給・水道業)
(オ) 土木関連 (カ) 不動産業 (キ) コンサル (ク) その他()
2. 該当する現在の(主な)職種に○をつけてください。(複数回答可)
(ア) 管理職 (イ) 営業職 (ウ) 事務職 (エ) 設計職 (オ) 現場監督職
(カ) 技術・研究開発職 (キ) その他()
3. 勤務先的全従業員数についてお聞きします。下記の該当する人数に1つ○をつけてください。
(ア) 29人以下 (イ) 30~99人 (ウ) 100~299人 (エ) 300~999人 (オ) 1,000人以上
4. あなたの年齢はおいくつでしょうか。該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 20代未満 (イ) 20代 (ウ) 30代 (エ) 40代 (オ) 50代 (カ) 60代以上
5. 何か資格をお持ちでしょうか。
(ア) 持っている(資格名称をお願いいたします:)
(イ) 持っていない

■本講座の内容についてお聞かせください。

6. 本講座をどのようにして知りましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) 建築士会関係から (イ) 学校から (ウ) 自社から (エ) 他社から (オ) 知人から
(カ) その他()
7. 受講された理由をお聞かせください。(複数回答可)
(ア) 興味・関心があったから (イ) 現在業務で必要だから (ウ) 将来必要と思ったから
(エ) CPDの単位取得ができるから (オ) なんとなく (カ) その他()
8. 講座内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく満足した (イ) 満足した (ウ) 普通 (エ) 少しもの足りなかった (オ) もの足りなかった
↳ (エ)と(オ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
9. 講座の内容は理解できましたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく理解できた (イ) 理解できた (ウ) 少し理解できた (エ) 全く理解できなかった
↳ (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()
10. 講師の教え方はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
(ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
(オ) 分かりにくかった (カ) その他()

裏面に続く

11. テキストの内容はいかがでしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
 (ア) すごく分かり易かった (イ) 分かり易かった (ウ) 普通 (エ) 少し分かりにくかった
 (オ) 分かりにくかった (カ) その他()

12. 本講座の講義と演習(ワークショップ)とのバランスはいかがでしたか。
 以下に該当するところに1つ○をつけてください。
 (ア) すごく良かった (イ) 良かった (ウ) あまり良くなかった (エ) 良くなかった
 (ウ)と(エ)の方、どのようなところかお聞かせください。()

■本講座の開催時期と所要時間についてお聞かせください。

13. 開催日は適切でしたか。以下の A. B. それぞれについて1つだけ○をつけてください。
 A. 時期 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの時期がよかったですか。()
 B. 曜日 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → どの曜日がよかったですか。()

14. 本講座は4時間程の講座でしたが、時間数はちょうどよかったですか。
 以下に該当するところに1つ○をつけてください。
 (ア) 長かった (イ) ちょうど良かった (ウ) 短かった (エ) よくわからない
 (ア)の方、どのくらいのお時間がよかったですか。以下に○をつけてください。
 (ア) 3時間 (イ) 2時間 (ウ) 1時間以下
 (エ)の方、どのくらいのお時間がよかったですか。以下に○をつけてください。
 (ア) 2日(12時間程度) (イ) 1日(8時間程度) (ウ) 6時間程度 (エ) 5時間程度

15. 本講座の会場は適切でしたか。以下に該当するところに1つ○をつけてください。
 (ア) 適切であった (イ) 不適切であった → その理由をご記入ください。()

■社会人学び直しとした本講座についてお聞かせください。

16. 本講座は社会人の学び直し講座として開講しましたが、このような講座は必要と思われますか。
 以下に該当するところに1つ○をつけてください。
 (ア) すごく必要と思う (イ) 必要と思う (ウ) あまり必要と思わない (エ) わからない

17. 本講座は、今後のあなたのお仕事やキャリアに活かせると思いませんか。
 以下の㉠㉡それぞれについて1つだけ○をつけてください。
 ㉠仕事面 (ア) 仕事に活かせる (イ) 多分仕事に活かせる (ウ) 仕事に活かせない (エ) わからない
 ㉡キャリア面 (ア) キャリアに活かせる (イ) 多分キャリアに活かせる (ウ) キャリアに活かせない (エ) わからない
 (ウ)と(エ)の方、どのような内容であれば適切だと思いますか。ご自由にお聞かせください。

18. 今後このような講座があれば参加しますか。
 (ア) 是非参加する (イ) 都合が合えば参加する (ウ) わからない (エ) 参加しない

19. 最後に何かございましたら、ご意見をお願いいたします。

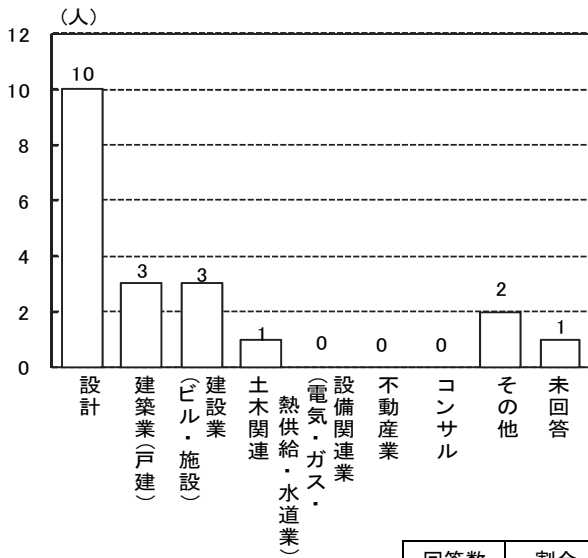
20. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

企業・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本日はご協力ありがとうございました。

「受講アンケート」集計・分析

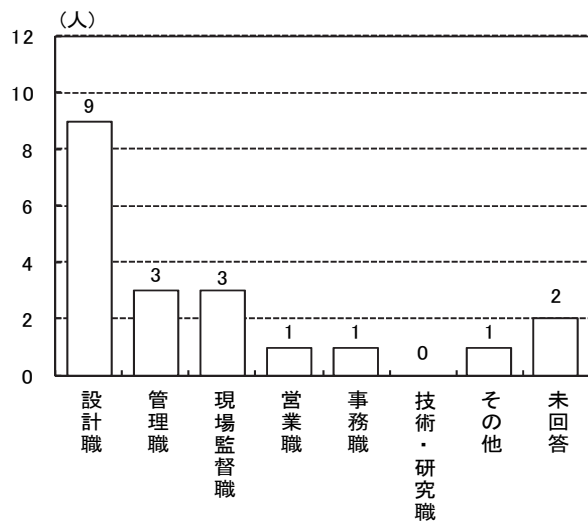
1. 業種



業種	回答数	割合
建築業(戸建て)	3	18.8%
建設業(ビル・施設)	3	18.8%
設計	10	62.5%
設備関連業 (電気・ガス・熱供給・水道業)	0	0.0%
土木関連	1	6.3%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	2	12.5%
未回答	1	6.3%

◇ その他: CADソフト、訓練校指導員

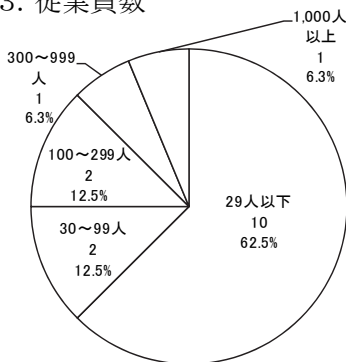
2. 職種



職種	回答数	割合
管理職	3	18.8%
営業職	1	6.3%
事務職	1	6.3%
設計職	9	56.3%
現場監督職	3	18.8%
技術・研究職	0	0.0%
その他	1	6.3%
未回答	2	12.5%

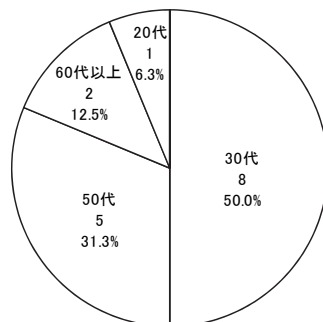
◇ その他: 商品企画

3. 従業員数



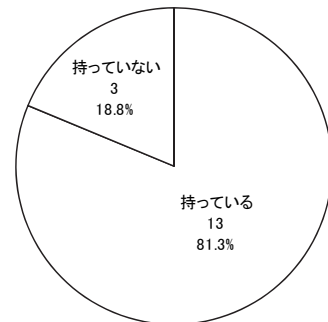
項目	回答数	割合
29人以下	10	62.5%
30~99人	2	12.5%
100~299人	2	12.5%
300~999人	1	6.3%
1,000人以上	1	6.3%

4. 年令



項目	回答数	割合
20代未満	0	0.0%
20代	1	6.3%
30代	8	50.0%
40代	0	0.0%
50代	5	31.3%
60代以上	2	12.5%

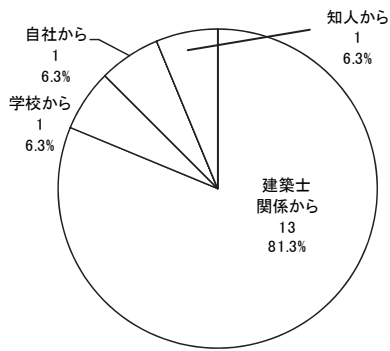
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	13	81.3%
持っていない	3	18.8%

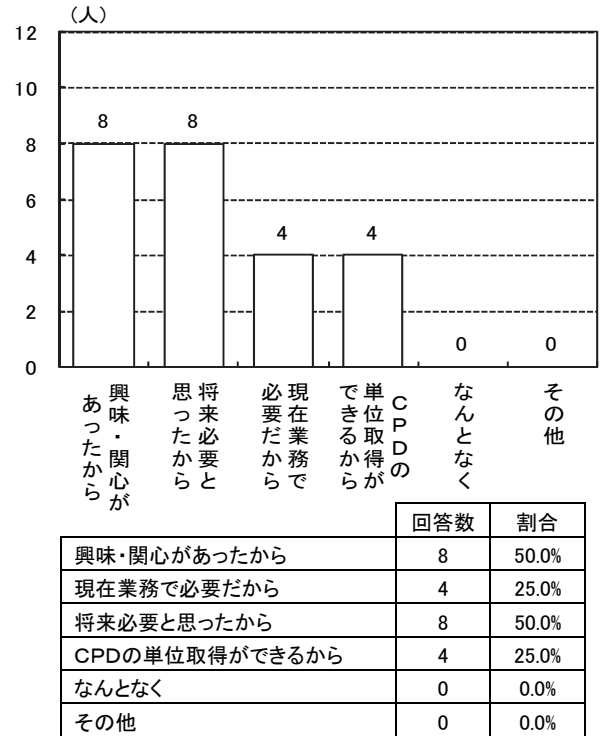
◇ 持っている: 一級建築士 8
二級建築士 3
施工管理 3
宅建 3
インテリアプランナー 2
古民家鑑定士 1
キッチンスペシャリスト1

6. 本講座をどのようにして知ったか



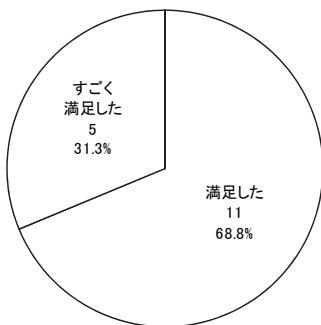
項目	回答数	割合
建築士関係から	13	81.3%
学校から	1	6.3%
自社から	1	6.3%
他社から	0	0.0%
知人から	1	6.3%
その他	0	0.0%

7. 受講理由



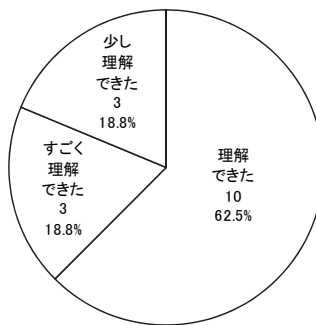
項目	回答数	割合
興味・関心があったから	8	50.0%
現在業務で必要だから	4	25.0%
将来必要と思ったから	8	50.0%
CPDの単位取得ができるから	4	25.0%
なんとなく	0	0.0%
その他	0	0.0%

8. 講座内容について



項目	回答数	割合
すごく満足した	5	31.3%
満足した	11	68.8%
普通	0	0.0%
少しもの足りなかった	0	0.0%
もの足りなかった	0	0.0%

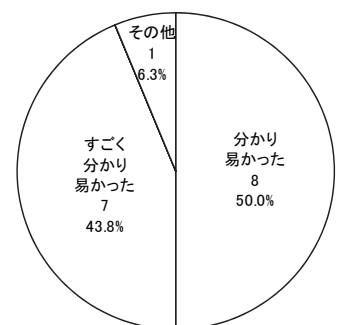
9. 講座の理解度



項目	回答数	割合
すごく理解できた	3	18.8%
理解できた	10	62.5%
少し理解できた	3	18.8%
全く理解できなかった	0	0.0%

◇ 少し理解できた理由：
遅れてきて出席したため
省エネについて少し理解ができた。

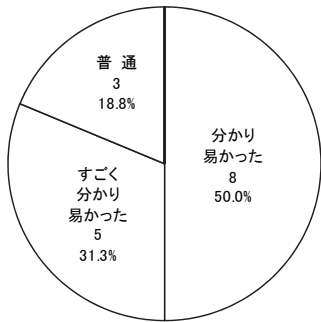
10. 講師の教え方



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	7	43.8%
分かり易かった	8	50.0%
普通	0	0.0%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	1	6.3%

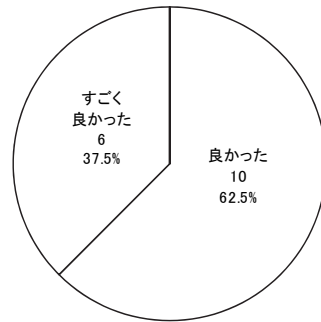
◇ その他:進行が速かった

11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	5	31.3%
分かり易かった	8	50.0%
普通	3	18.8%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

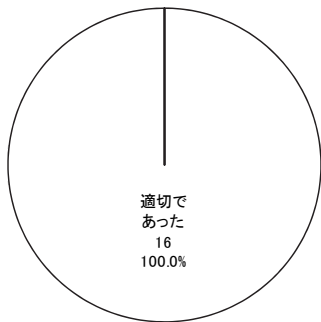
12. 本講座の講義と演習
(ワークショップ)とのバランス



項目	回答数	割合
すごく良かった	6	37.5%
良かった	10	62.5%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%

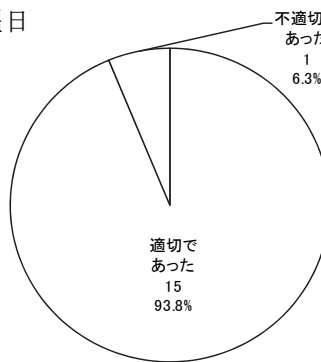
13. 開催日時について

A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	16	100.0%
不適切であった	0	0.0%

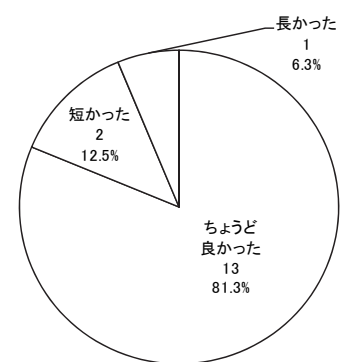
B. 曜日



◇ その他:日曜日が適切

項目	回答数	割合
適切であった	15	93.8%
不適切であった	1	6.3%

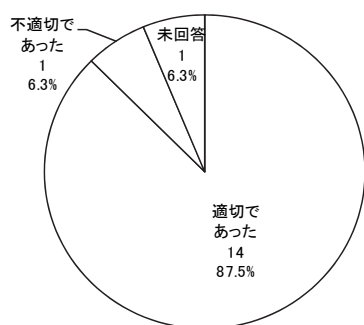
14. 講座の時間数



項目	回答数	割合
長かった	1	6.3%
ちょうど良かった	13	81.3%
短かった	2	12.5%
よくわからない	0	0.0%

◇ 適切な時間数:2時間 1

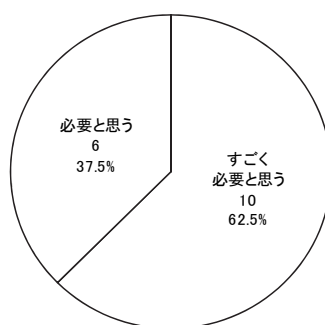
15. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	14	87.5%
不適切であった	1	6.3%
未回答	1	6.3%

◇ 適切な会場: アクセスしやすい天神良かった。

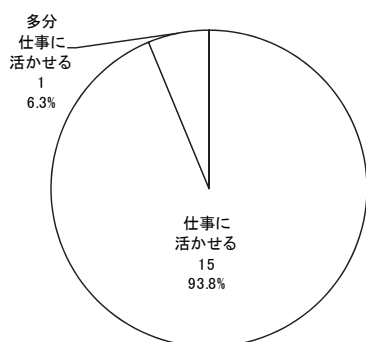
16. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	10	62.5%
必要と思う	6	37.5%
あまり必要と思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

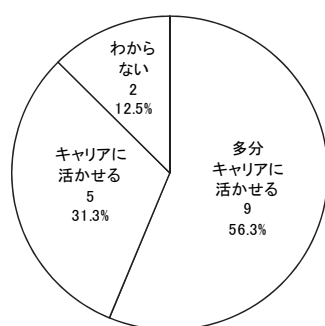
17. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



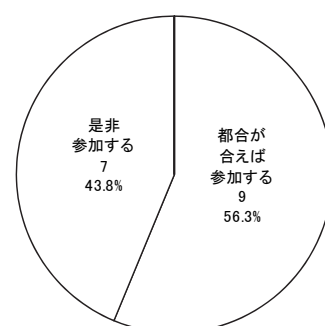
項目	回答数	割合
仕事に活かせる	15	93.8%
多分仕事に活かせる	1	6.3%
仕事に活かさない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

②キャリア面



項目	回答数	割合
多分キャリアに活かせる	9	56.3%
キャリアに活かせる	5	31.3%
わからない	2	12.5%
キャリアに活かさない	0	0.0%

18. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	7	43.8%
都合が合えば参加する	9	56.3%
わからない	0	0.0%
参加しない	0	0.0%

19. ご意見をお願いいたします。

今後もこのような講座を開いてほしい。
とても勉強になった。もっと勉強する。
講師の話し方がとても分かり易かった。
同じ職業の方とのワークショップは楽しかった。勉強になった。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【福岡】」アンケートまとめ

1. 業種と職種

＜業種＞設計 62.5%、建築業(戸建て)・建設業(ビル・施設)がそれぞれ 18.8%、その他(CADソフト、訓練校指導員)12.5%、土木関連 6.3%であった。

＜職種＞設計職 56.3%、管理職・現場監督職がそれぞれ 18.8%、営業職・事務職・その他(商品開発)がそれぞれ 6.3%であった。

建築士会関係からの案内のため、設計が目立った。

2. 会社規模

29人以下 62.5%、30～99人・100～299人がそれぞれ 12.5%、300～999人・1,000人以上がそれぞれ 6.3%であった。

3. 年令層

30代 50.0%、50代 31.3%、60代以上 12.5%、20代 6.3%であった。

4. 資格の有無

81.3%が有資格者であり、その中内訳としては、一級建築士 50.0%、二級建築士・施工管理・宅建がそれぞれ 18.8%、インテリアプランナー12.5%、古民家鑑定・キッチンスペシャリストがそれぞれ 6.3%であった。

5. 講座情報取得先

講座情報としては、建築士関係から 81.3%、学校から・自社から・知人からがそれぞれ 6.3%と取得していた。

協力校の尽力が大きかった。

6. 受講理由

興味・関心があった・将来必要と思ったがそれぞれ 50.0%、現在業務で必要・CPDの単位取得がそれぞれ 25.0%であった。

興味・関心と将来性の内容が講座参加の大きな要因である。

7. CPDの意識

CPDの意識はそれほど高くない結果であるが、講座の情報が建築関係からもあることから、講座の評価レベルには信頼が高いと思われる。

8. 講座内容

満足した 68.8%、すごく満足した 31.3%であった。

満足する内容の評価は得られていると思われる。

9. 理解度

理解できた 62.5%、すごく理解できた・少し理解できたがそれぞれ 18.8%であった。

高知地域同様に内容的には6時間程度は要するもので、進行が駆け足になってはいたが、地域的に取組んでいる方が多く、その方々が参加した結果と思われる。

10. 講師の教え方

分かり易かった 50.0%、すごく分かり易かった 43.8%であった。

講師の評価は高いことが結果として表れた。

11. テキスト内容

分かり易かった 50.0%、すごく分かり易かった 31.3%、普通 18.8%であった。

講師との流れや文字の大きさなどの打ち合わせの結果が評価として表れた。

12. 講義と演習(ワークショップ)のバランス

良かった 62.5%、すごく良かった 37.5%であった。

13. 開催時期

適切であった 100%であった。

14. 開催曜日

適切であった 93.8%(日曜日を希望 6.3%)であった。

15. 講座時間

ちょうど良かった 81.3%、短かった 12.5%、長かった 6.3%(2時間希望)であった。

16. 講座会場

適切であった 87.5%であった。

17. 社会人の学び直しの取組み

すごく必要と思う 62.5%、必要と思う 37.5%であった。

現在、働いている人々にとっては、知識の習得できる勉強の場は必要と感じている。

18. <仕事面>・<キャリア面>の活用

<仕事面>:仕事に活かせる 93.8%、多分仕事に活かせる 6.3%

<キャリア面>:多分キャリアに活かせる 56.3%、キャリアに活かせる 31.3%

仕事面は全員が「活かせる」との回答であり、キャリア面においては多くの方から「活かせる」との回答が得られた。

19. 今後の参加

都合が合えば参加する 56.3%、是非参加する 43.8%であった。

< まとめ >

建築士会 CPD 認定講座として発信し、協力校や建築士会等の協力のもと、関心度が高い内容として受け止められ、受講者は希望募集の 80%となった(申込者数は 22 名)。

講座内容が 2020 年の完全義務化に向けた実務に役立つものという明確とされている点がこの受講者数を獲得したと思われる。

また、福岡地域では CPD 認定講座の年間受講者数も 1,300 名強ということもあり、CPD の定着率も高いことも要因の一つと思われる。

この度、本講座が福岡地域の受講者に認められ評価も得られていることから、今後、福岡地域で同内容の講座を展開することを望む。

本講座が CPD の承認を受け、認定講座となったことにより、日本建築士連合会とプロバイダー契約をし、本講座のプログラム ID を用いれば誰でも、どの地域でも使用可能な講座として開発ができた。

このような誰でも使用できる CPD 認定講座の教育プログラムを開発できたことは普及の面において成功と考える。

■ 実証講座結果(履修判定試験ワークショップ(講師判定)及びカルテ点数(コマ毎の小テスト点数))

科目名	新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座【福岡】
講師	加藤陽介
講座実施日	2016年11月5日
講座実施時間	4時間
講座実施形態	講義／演習
出席人数	16名

授業結果								
	カルテ点数						平均	
	第一回		第二回		第三回			第四回
出席者氏名	点数	不正解番号	点数	不正解番号	点数	不正解番号	演習	
1 ○○○○	80	3,4	100		60	2,3,4,5	ワークショップ + 発表	80.0
2 ○○○○	100		100		100			100.0
3 ○○○○	50	2,3,4,5,7	4	1,3,5,6,7,9	50	2,7,8,9,10		34.7
4 ○○○○	70	3,4,6	80	2,7	80	6,7		76.7
5 ○○○○	100		100		80			93.3
6 ○○○○	90	10	100		60	2,3,4,5,		83.3
7 ○○○○	90	3	100		50	4,5,7,8,9		80.0
8 ○○○○	50	3,4,5,7,9	100		100			83.3
9 ○○○○	70	8,9,10	80	9,10	90	5		80.0
10 ○○○○	100		80	7,8	100			93.3
11 ○○○○	80	5,7	80	1,10	80	4,5		80.0
12 ○○○○	90	4	90	8	70	6,9,10		83.3
13 ○○○○	90	7	100		100			96.7
14 ○○○○	80	3,6	100		90	6		90.0
15 ○○○○	90	10	80	6,10	90	6		86.7
16 ○○○○	90	10	90	8	90	6		90.0
17								
18								
19								
20								

■ 履修判定試験ワークショップ(グループ毎の回答)現物

ワークショップ答案用紙

※建設省建築研究所建築研究所
 「環境・エネルギー分野」の建築人等が参加するプログラム開発
 調査・実証事業「住宅エネルギー診断支援」ワークショップ実施 建築研究所
 ※参加費無料

省エネにも配慮した改修案を下面に作図せよ。又、図面で記せない箇所に関しては箇条書きにて回答せよ。

(床暖房はいい)

- 床断熱とする
- サッシを入れる
- 断熱性を増やす

トイレには
浴室からも入れる
ようにする

- 断熱材の設置
- 窓サッシ: 100%ペアガラスにする
- 窓サッシ: 断熱材を入れる
- 断熱材: 床下にも入れる
- 断熱材: 天井にも入れる

トイレにシャワー:
浴室に浴室を兼ねて利用
出来る

- 浴室にシャワー: 浴室に浴室を兼ねて利用
出来る

改修プラン 1階平面図 S=1/100 (1階床面積: 65.97㎡ 約20坪)

ワークショップ答案用紙

※建設省建築研究所建築研究所
 「環境・エネルギー分野」の建築人等が参加するプログラム開発
 調査・実証事業「住宅エネルギー診断支援」ワークショップ実施 建築研究所
 ※参加費無料

省エネにも配慮した改修案を下面に作図せよ。又、図面で記せない箇所に関しては箇条書きにて回答せよ。

- 断熱材
- サッシ (ガラス交換 + イソグリス)

改修プラン 1階平面図 S=1/100 (1階床面積: 65.97㎡ 約20坪)

ワークショップ答案用紙

※建設省建築研究所建築研究所
 「環境・エネルギー分野」の建築人等が参加するプログラム開発
 調査・実証事業「住宅エネルギー診断支援」ワークショップ実施 建築研究所
 ※参加費無料

省エネにも配慮した改修案を下面に作図せよ。又、図面で記せない箇所に関しては箇条書きにて回答せよ。

改修プラン 1階平面図 S=1/100 (1階床面積: 65.97㎡ 約20坪)

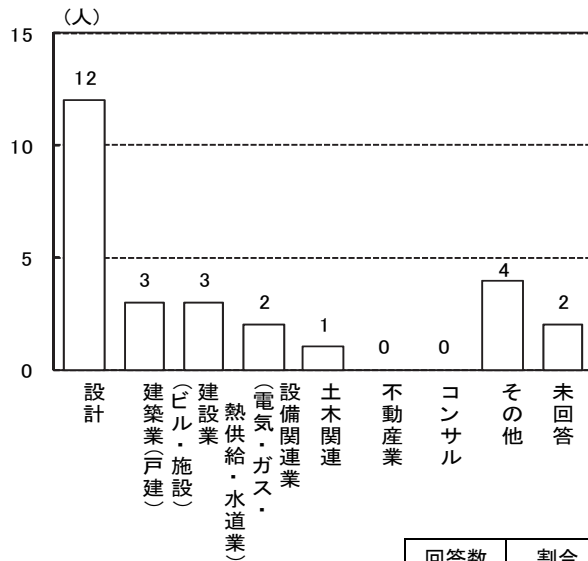
新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座

全地域合計

【受講者アンケート比較】

「受講アンケート」集計・分析

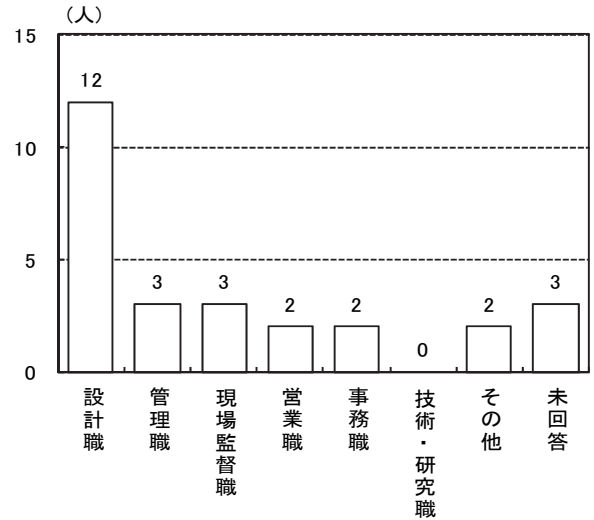
1. 業種



	回答数	割合
建築業(戸建て)	3	13.0%
建築業(ビル・施設)	3	13.0%
設計	12	52.2%
設備関連業 (電気・ガス・熱供給・水道業)	2	8.7%
土木関連	1	4.3%
不動産業	0	0.0%
コンサル	0	0.0%
その他	4	17.4%
未回答	2	8.7%

◇ その他:CADメーカー、CADソフト、訓練校指導員、建築行政

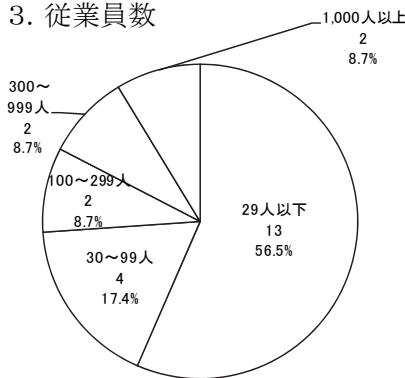
2. 職種



	回答数	割合
管理職	3	13.0%
営業職	2	8.7%
事務職	2	8.7%
設計職	12	52.2%
現場監督職	3	13.0%
技術・研究職	0	0.0%
その他	2	8.7%
未回答	2	8.7%

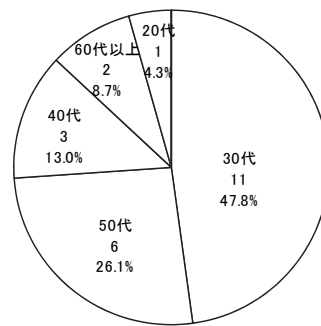
◇ その他:商品企画、見習い中(アルバイト)

3. 従業員数



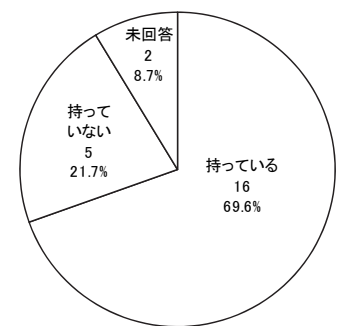
項目	回答数	割合
29人以下	13	56.5%
30~99人	4	17.4%
100~299人	2	8.7%
300~999人	2	8.7%
1,000人以上	2	8.7%

4. 年齢



項目	回答数	割合
20代未満	0	0.0%
20代	1	4.3%
30代	11	47.8%
40代	3	13.0%
50代	6	26.1%
60代以上	2	8.7%

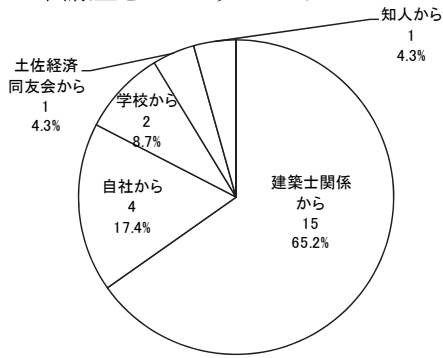
5. 資格の有無



項目	回答数	割合
持っている	16	69.6%
持っていない	5	21.7%
未回答	2	8.7%

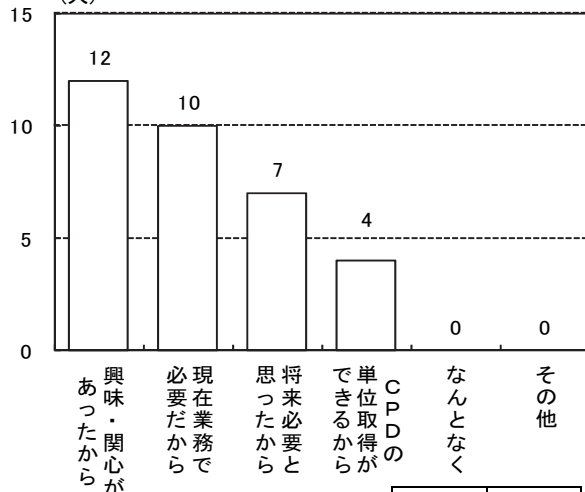
◇ 持っている:一級建築士 10
二級建築士 3、施工管理 3、宅建 3
インテリアプランナー 2
古民家鑑定士 1、キッチンスペシャリスト 1
一種電工 1、液化石油ガス設備士 1
電工2種 1

6. 本講座をどのようにして知ったか



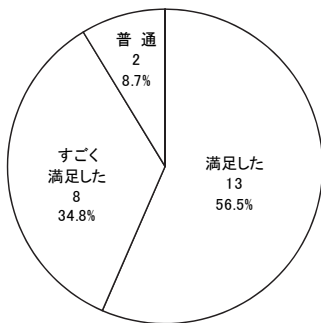
項目	回答数	割合
建築士関係から	15	65.2%
学校から	2	8.7%
自社から	4	17.4%
土佐経済同友会から	1	4.3%
他社から	0	0.0%
知人から	1	4.3%
その他	0	0.0%

7. 受講理由 (人)



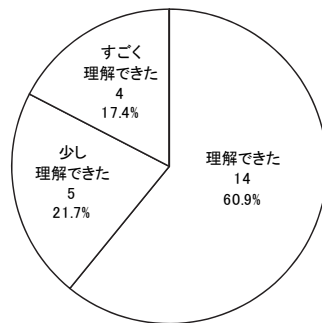
理由	回答数	割合
興味・関心があったから	12	52.2%
現在業務で必要だから	7	30.4%
将来必要と思ったから	10	43.5%
CPDの単位取得ができるから	4	17.4%
なんとなく	0	0.0%
その他	0	0.0%

8. 講座内容について



項目	回答数	割合
すごく満足した	8	34.8%
満足した	13	56.5%
普通	2	8.7%
少しもの足りなかった	0	0.0%
もの足りなかった	0	0.0%

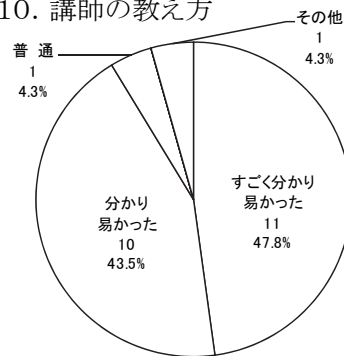
9. 講座の理解度



項目	回答数	割合
すごく理解できた	4	17.4%
理解できた	14	60.9%
少し理解できた	5	21.7%
全く理解できなかった	0	0.0%

◇ 少し理解できた理由:
遅れてきて出席したため
省エネについて少し理解ができた。

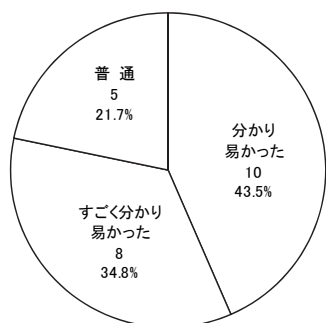
10. 講師の教え方



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	11	47.8%
分かり易かった	10	43.5%
普通	1	4.3%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	1	4.3%

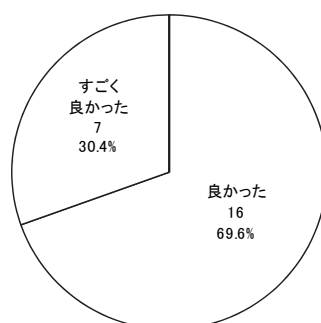
◇ その他:進行が速かった

11. テキストの内容



項目	回答数	割合
すごく分かり易かった	8	34.8%
分かり易かった	10	43.5%
普通	5	21.7%
少し分かりにくかった	0	0.0%
分かりにくかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

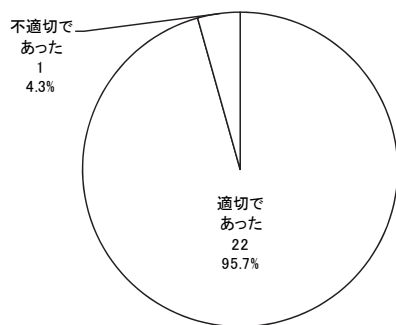
12. 本講座の講義と演習 (ワークショップ)とのバランス



項目	回答数	割合
すごく良かった	7	30.4%
良かった	16	69.6%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%

13. 開催日時について

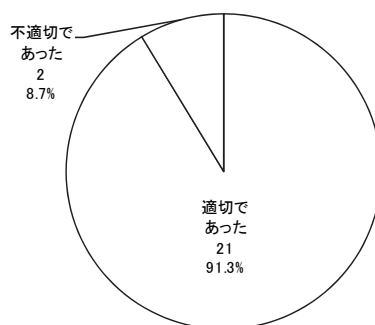
A. 時期



項目	回答数	割合
適切であった	22	95.7%
不適切であった	1	4.3%

◇ その他:5月、6月が適切

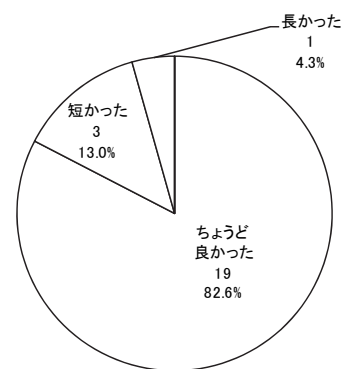
B. 曜日



項目	回答数	割合
適切であった	21	91.3%
不適切であった	2	8.7%

◇ その他:火・水・日曜日が適切

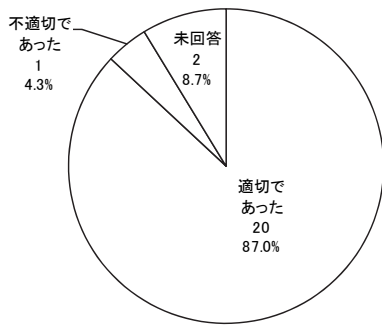
14. 講座の時間数



項目	回答数	割合
長かった	1	4.3%
ちょうど良かった	19	82.6%
短かった	3	13.0%
よくわからない	0	0.0%

◇ 適切な時間数:2時間 1

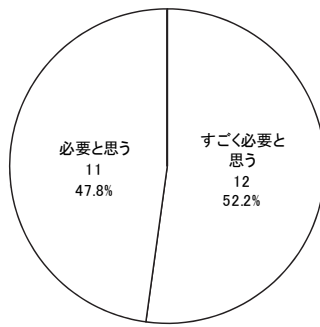
15. 講座の会場



項目	回答数	割合
適切であった	20	87.0%
不適切であった	1	4.3%
未回答	2	8.7%

◇ 適切な会場: アクセスしやすい天神
付近が良かった。

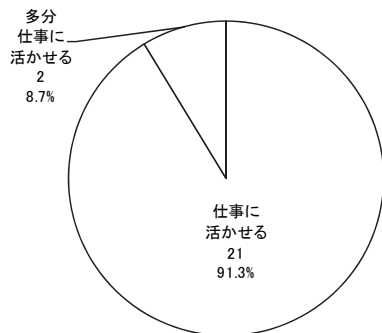
16. 本講座の必要性



項目	回答数	割合
すごく必要と思う	12	52.2%
必要と思う	11	47.8%
あまり必要と思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

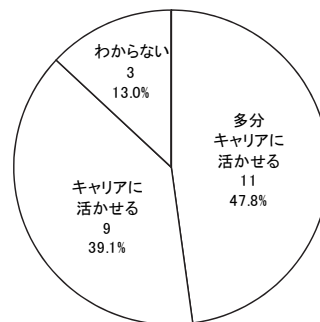
17. 本講座は、今後の仕事やキャリアに活かせるか

①仕事面



項目	回答数	割合
仕事に活かせる	21	91.3%
多分仕事に活かせる	2	8.7%
仕事に活かさない	0	0.0%
わからない	0	0.0%

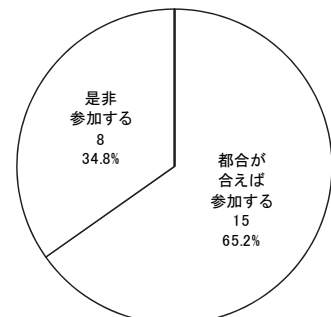
②キャリア面



項目	回答数	割合
キャリアに活かせる	9	39.1%
多分キャリアに活かせる	11	47.8%
キャリアに活かさない	0	0.0%
わからない	3	13.0%

◇ わからない理由:
ZEH関連の勉強のため参加したので、
直接活かせるかは不明。

18. 今後の講座への参加



項目	回答数	割合
是非参加する	8	34.8%
都合が合えば参加する	15	65.2%
わからない	0	0.0%
参加しない	0	0.0%

19. ご意見をお願いいたします。

今後もこのような講座を開いてほしい。。
とても勉強になった。もっと勉強する。
講師の話し方がとても分かり易かった。
同じ職業の方とのワークショップは楽しかった。勉強になった。
2回あったテストの解答にも、問題文があればよかった。
進め方が早かった。
UAとηACについて理解が深まった。

21. 差し支え無ければ下記欄へのご記入をお願いいたします。

なし

以下、高知と福岡の受講者アンケートをまとめたものである。

複数回答の場合は、項目毎に捉えて参照ください。

■ 業種と職種

設計に携わる業種の割合は、高知が 28.6%、福岡が 62.5%であった。

また、職種については、高知が 42.9%、福岡が 56.3%であった。

◎全体で設計に携わる方は 52.2%

■ 受講者の会社規模

高知は「29 人以下」が 42.9%、「30～99 人」が 28.6%であり、福岡は「29 人以下」が 62.5%、「30～99 人」と「100～299 人」がそれぞれ 12.5%であった。

どちらも会社の規模的には、第一位が「29 人以下」、第二位が「30～99 人」となっている。

◎全体で「29 人以下」は 56.5%、「30～90 人」は 17.4%。

■ 受講者の年齢層

高知は「30 代」と「40 代」がそれぞれ 42.9%であった。

福岡は「30 代」が 50%、次に「50 代」が 31.3%と続いた。

高知と福岡ともに、「30 代」の受講者が多かった。

◎全体で「30 代」は 47.8%、「50 代」は 26.1%。

■ 資格の有無

受講者の有資格者の割合は、高知は 42.9%、福岡は 81.3%であった。

「一級建築士」を見ると、高知は 28.6%、福岡は 50%であった。

その他の資格を見ると、高知は建築分野にあまり従事していない方の参加もあった。反面、福岡は建築分野に従事した方々の参加であった。

高知は土佐経済同友会を中心として、建築士会をはじめ講座案内を行い、福岡は建築士会を中心に講座案内をしたことがこの結果となったと思われる。

これは講座情報取得先からもあらわれており、高知は「会社から」が 42.9%、「土佐経済同友会」からが 14.3%、「建築士関係から」は 28.6%となっており、

福岡は、「建築士関係から」が 81.3%という調査結果からもその傾向はみられる。

◎全体では 69.6%が有資格者で、その中で「一級建築士」は 43.5%、「二級建築士」・「施工管理」・「宅建」がそれぞれ 13.0%。

◎全体での講座取得情報先は、「建築士関係から」が 65.2%、「自社から」が 17.4%。

■ 講座の受講理由

高知と福岡ともに、講座の受講理由の第一位は「興味・関心があったから」で 57.1%と 50% (福岡は「将来必要と思ったから」も 50%) であった。

次に来たのが、高知は「現在業務で必要だから」42.9%、福岡は「現在業務で必要だから」と「CPD の単位取得ができるから」がともに 25%であった。

◎全体で「興味・関心があったから」が 52.2%、「将来必要と思ったから」が 43.5%、「現在業務で必要だから」が 30.4%、「CPD の単位取得ができるから」が 17.4%であった。

■ CPD 認定講座についての意識

講座の受講理由から導き出すと、高知は CPD 認定講座という意識は低いようである。

アンケート調査結果からも福岡は 25%であったが、高知は 0%であった。

地域によって CPD 認定講座の意識が違うことが垣間見えた。

◎全体で「CPD の単位取得ができるから」が 17.4%といった結果から、地域による捉え方が違うのが見える。

■ 講座内容について

高知は「すごく満足した」と「満足した」で 71.5%、福岡は「すごく満足した」と「満足した」で 100%であった。

受講者が建築従事者寄りとそうでない差が微妙に出たと思われるが、講座の内容自体は良いと判断できる。

◎全体で「満足した」が 56.5%、「すごく満足した」が 34.8%であった。

■ 講座内容の理解度について

高知は「すごく理解できた」と「理解できた」で 71.4%、福岡は「すごく理解できた」と「理解できた」で 81.3%であった。

これも受講者の属性によるものの差と思われるが、建築従事者でなくても興味がある方にとっては理解できる内容であると判断できる。

◎全体では、「理解できた」が 87.5%、「少し理解できた」が 31.3%、「すごく理解できた」が 17.4%であった。

「少し理解できた」の回答としては、建築従事者ではないということと、省エネの勉強を始めた方からの意見である。

■ 講師の教え方について

高知は「すごく分かり易かった」と「分かり易かった」で 85.7%、福岡は「すごく分かり易かった」と「分かり易かった」で 93.8%であった。

講師の話し方や進行については、受講者にとっても講座内容を理解できるものと判断できる。

但し、少数意見ではあるが、進行が速いという声も出た。講座内容から4時間では少し無理があったとも受け取れる為、今後の課題となる。

◎全体では、「すごく分かり易かった」が 47.8%、「分かり易かった」43.5%で、91.3%から分かり易かったとの回答が得られた。

■ テキストの内容について

高知は「すごく分かり易かった」と「分かり易かった」で 85.7%、福岡は「すごく分かり易かった」と「分かり易かった」で 81.3%であった。

講師の意向から、小さすぎるなど見えない字が無いことを考えて作成した結果と思われる。

高知では、3部ほど予備があったが、受講者が持って帰っていかれた。運営側としては嬉しい限りであった。

◎全体では、「分かり易かった」が 43.5%、「すごく分かり易かった」が 34.8%で、78.3%から分かり易かったとの回答を得られた。

■ 講義と演習(ワークショップ)のバランスについて

高知と福岡ともに「すごく良かった」と「良かった」が 100%で受講者全員が満足した配分で合った。

◎全体も同様。

■ 講座の開催時期と時間について

開催時期については、従事している業種にもよると思われるが、高知に5~6月を望む方が一人いた限り、他の受講者は適切であるとの回答であった。

開催曜日については、平日を望む方が一人、日曜日を望む方が一人であり、他の受講者は適切であるとの回答であった。

講座の開催時期としては特に悪くなかったと考えられる。

開催時間については、高知では「ちょうど良かった」が85.7%、福岡では「ちょうど良かった」が81.3%であった。

短いという方がいたが、講座内容からするともう少し長くても良かったと考えられる。

講座内容と時間配分の精査が必要と思われる。

◎全体では、時期は95.7%、曜日は91.3%、時間は82.6%から適切であったとの回答が得られた。

13.0%からは短いとの回答があったため、講座内容の講義と演習(ワークショップ)のバランスの精査は必要と思われる。

■ 講座会場について

会場については、アクセスによる意見が出てはいたが、会場へは色々な地域から参加するため、仕方がないと考える。

会場としても適切であると考えられる。

◎全体では、87.0%から適切であったとの回答が得られた。

■ 社会人学び直しの取り組みについて

高知と福岡ともに「すごく必要と思う」と「必要と思う」に受講者全員から回答が得られた。

魅力ある講座の開発が求められているとの声と判断できる。

◎全体では、「すごく必要と思う」が52.2%、「必要と思う」が47.8%と受講者全員から必要との回答が得られた。

■ 本講座が仕事面とキャリア面に活かせるかについて

仕事面については高知と福岡ともに、「仕事に活かせる」と「多分仕事に活かせる」に全員が回答した。キャリア面については高知が「仕事に活かせる」と「多分仕事に活かせる」に85.7%、福岡が「仕事に活かせる」と「多分仕事に活かせる」に87.6%の回答であった。

◎全体では、仕事面においては「仕事に活かせる」が91.3%、「多分仕事に活かせる」が8.7%で受講者全員から仕事に活かせるとの回答が得られた。

一方、キャリア面においては「多分キャリアに活かせる」が47.8%、「キャリアに活かせる」が39.1%と受講者の86.9%からキャリアに活かせるとの回答が得られた。

■ 今後の参加について

高知は「是非参加する」14.3%、「都合が合えば参加する」85.7%であった。

福岡は「是非参加する」43.8%、「都合が合えば参加する」56.3%であった。

社会人は仕事の状況によって受講が難しいと思われるが、少なくとも本講座の受講者からの回答は、全員が次に本講座と同じような内容・レベルであれば受講を考慮するといったものである。

◎全体では、「都合が合えば参加する」が65.2%、「是非参加する」が34.8%と受講者全員から参加するとの回答が得られた。

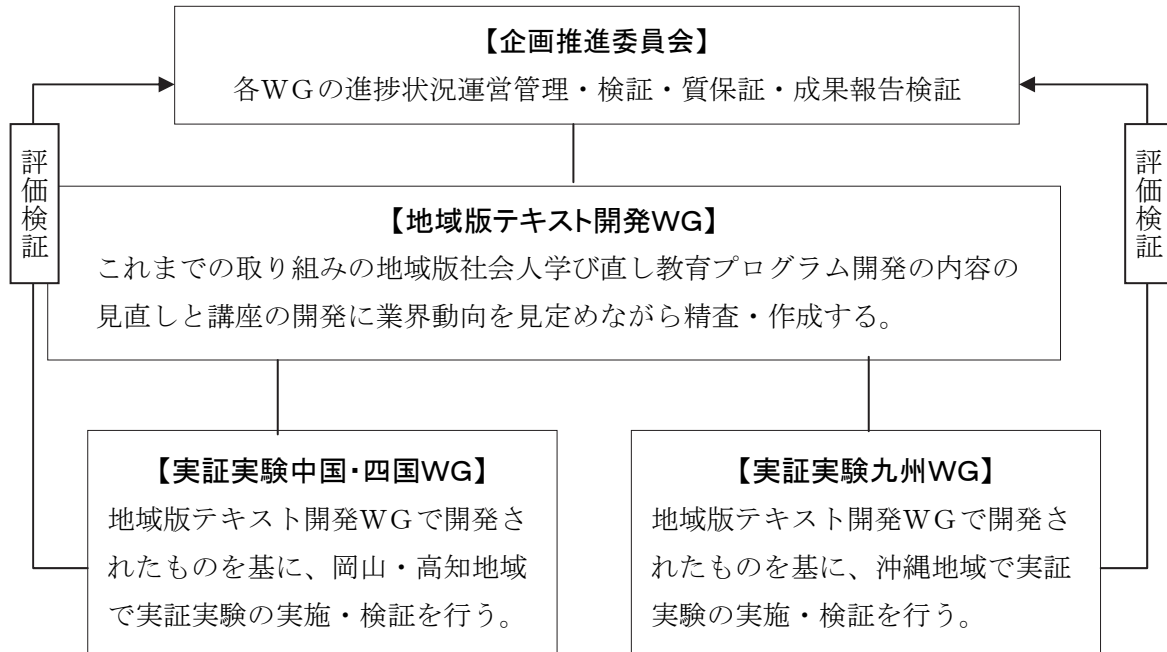
第4章 本事業の評価と検証

第4章 本事業の評価と検証

1. 企画推進委員会における本事業の検証

(1) 背景…「平成28年度事業計画書」より

文科省「運用指針」において、「地域版学び直し教育プログラム等の開発・実証」（職域プロジェクトA）を実施する場合、教育プログラムの開発に関係していない産業界（企業・団体）からの教育プログラムの評価の実施が要件として求められている。そのため、当事業においては以下図の通り、その実施体制を「企画推進委員会」で行うこととしている。



(2) 目的・検討内容等…「平成28年度事業計画書」より

当事業計画において、「企画推進委員会」の目的は、「本事業の取組みにおいて、各WGの進捗状況運営管理と評価・検証・質保証と検証・評価、成果報告に至るまでの会議」としている。

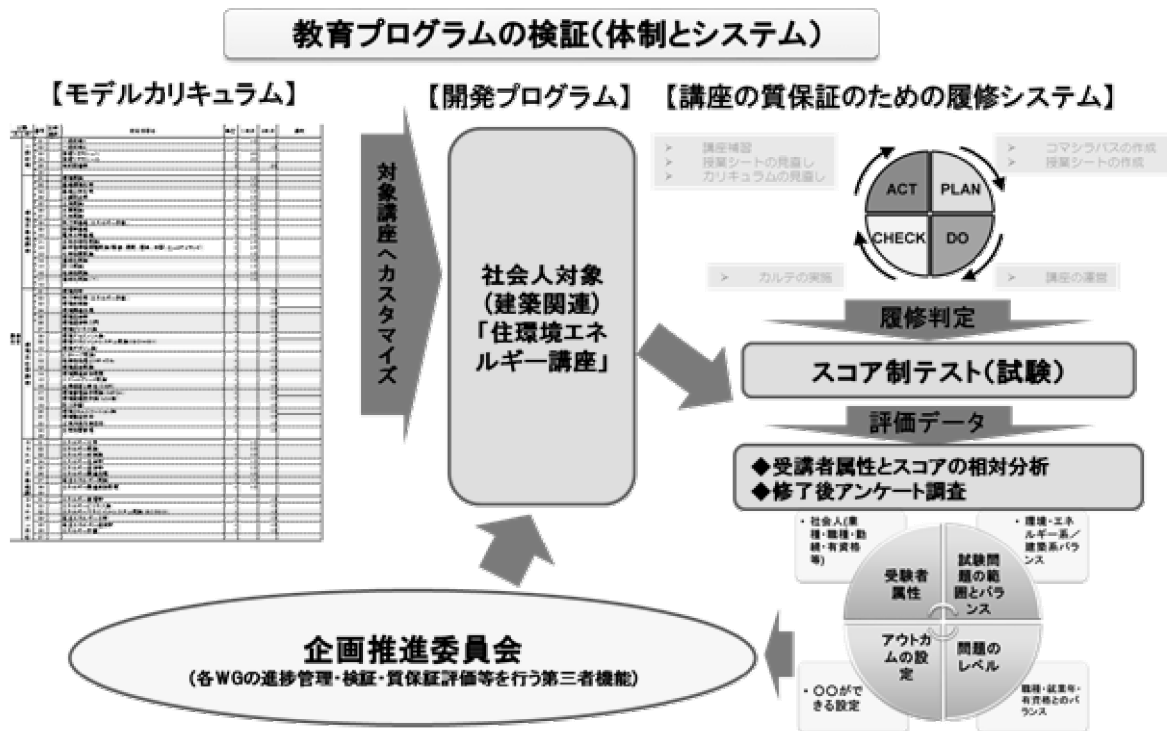
会議内容は、「実証講座の開発プログラムの精査、実施日決定から終了までの進捗管理と実証講座の内容の質保証・評価、成果報告の検証」としている。

目的	本事業の目的である「中核的専門人材の養成」「社会人の学び直し」に資するものとなっているのか…第三者の評価によってその成果を計る。
評価委員	本事業の企画推進委員会より3名選出し、本事業全体の評価。
評価方法	評価様式を作成し、評価点で判断
評価期間	平成28年12月15日～平成27年1月20日
評価判断のための資料	事業計画、会議議事録、本事業スケジュール、シラバス・コマシラバス、講座案内、受講票(スケジュール等)、講座分の教材(テキスト、授業シート、授業カルテ、授業カルテ・解答、履修判定試験)、講座分のアンケート、講師プロフィール 等

(3) 教育プログラムの有効性に関する検証手法の概要…「平成28年度事業計画書」より

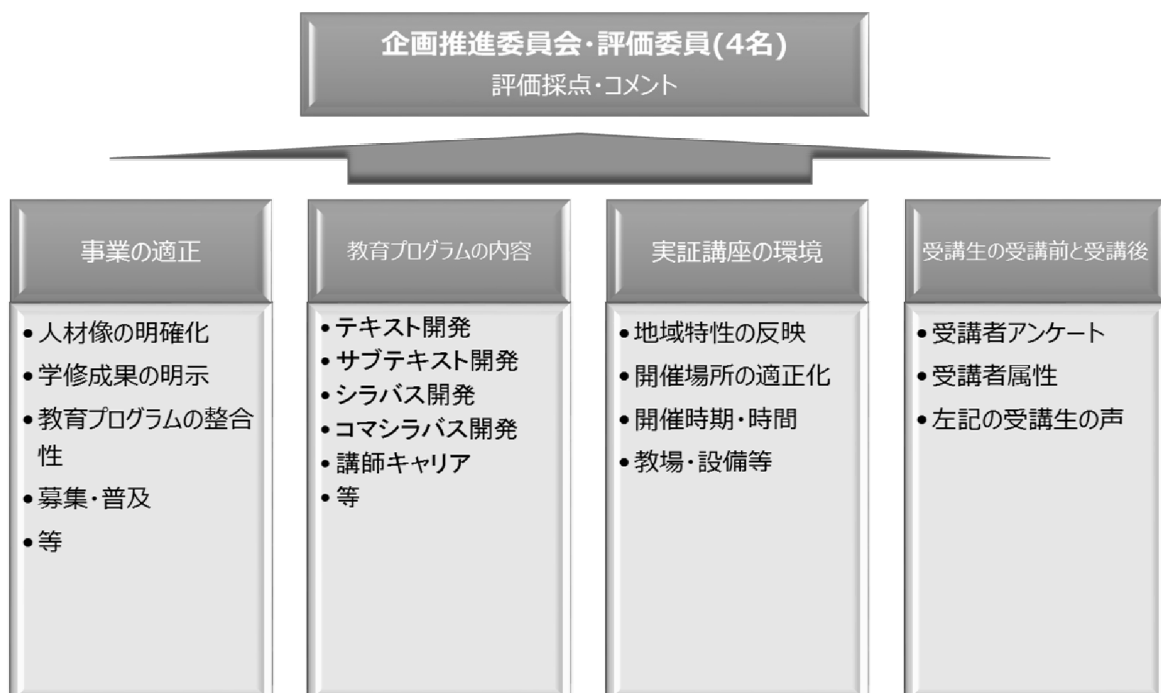
企画推進委員会からの委員選定により、シラバス・コマシラバスを基に、テキストの内容、受講者の属性を含め、講座状況のヒアリングや受講者アンケート、試験結果から各委員に評価を求める。

評価には、専用の点数評価様式を作成し、講座の有効性について検証していき、この検証手法を基に、「第三者教育プログラム検証体制開発」を図る。



(4) 評価要素と観点(案)

【評価・検証のイメージ】



(5) 第三者評価様式

評価項目	【事業のポイント】評価の観点	配分点	採点
評価項目	1 【成長分野】成長分野(環境・エネルギー分野)として期待できる教育プログラムになっているか	10点	
	2 【社会人の学び直し】社会人の学び直しに沿った全体的な教育プログラムになっているか	15点	
	3 【地域創生/連携】地方地域の企業や団体、教育機関と連携がとれているか	10点	
	4 【産学連携体制】企業や団体と連携したカリキュラム・シラバス・コマシラバス等の開発になっているか	10点	
	5 【中核人材①】目指す人材像に沿ったカリキュラム・シラバス・コマシラバスになっているか	5点	
	6 【中核人材②】目指す人材像に沿ったテキスト・教材になっているか	5点	
	7 【中核人材③】目指す人材像に沿った講師(キャリア)になっているか	5点	
	8 【受講生の声①】開催地域・開催時期・時間・教場・設備等は適切であったか	5点	
	9 【受講生の声②】受講生アンケートから受講後のキャリア形成に役に立つと思われるか	10点	
	10 【受講生の声③】受講生アンケートから受講後の業務(仕事)に役に立つと思われるか	5点	
	11 【今後の普及】事業終了後、開発した成果物は普及しそうか	10点	
加 点	12 【その他】第三者評価者から評価できる観点 「CPD認定講座としたことで、受講者に直接的なメリットを提供した点」	10点	
満点		100点	

<配分点の考え方/ボリューム>

	大変優れている				優れている				やや優れている			不適當である			
5点満点	5				4	3			2			1			
10点満点		10	9	8	7	6			5	4	3	2		1	
15点満点	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者	
-----	--

評価者氏名		所属	
-------	--	----	--

2. 第三者からの評価

(1) 企業関係者：第三者評価シート

評価項目	【事業のポイント】評価の観点	配分点	採点
評価項目	1 【成長分野】成長分野(環境・エネルギー分野)として期待できる教育プログラムになっているか	10点	7
	2 【社会人の学び直し】社会人の学び直しに沿った全体的な教育プログラムになっているか	15点	13
	3 【地域創生/連携】地方地域の企業や団体、教育機関と連携がとれているか	10点	7
	4 【産学連携体制】企業や団体と連携したカリキュラム・シラバス・コマシラバス等の開発になっているか	10点	8
	5 【中核人材①】目指す人材像に沿ったカリキュラム・シラバス・コマシラバスになっているか	5点	4
	6 【中核人材②】目指す人材像に沿ったテキスト・教材になっているか	5点	4
	7 【中核人材③】目指す人材像に沿った講師(キャリア)になっているか	5点	3
	8 【受講生の声①】開催地域・開催時期・時間・教場・設備等は適切であったか	5点	5
	9 【受講生の声②】受講生アンケートから受講後のキャリア形成に役に立つと思われるか	10点	6
	10 【受講生の声③】受講生アンケートから受講後の業務(仕事)に役に立つと思われるか	5点	5
	11 【今後の普及】事業終了後、開発した成果物は普及しそうか	10点	8
加 点	12 【その他】第三者評価者から評価できる観点 「CPD認定講座としたことで、受講者に直接的なメリットを提供した点」	10点	8
満点		100点	78

<配分点の考え方/ボリューム>

	大変優れている			優れている			やや優れている			不適當である					
5点満点	5			4	3	2			1						
10点満点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1					
15点満点	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者	<p>一級建築士等の資格取得者が 75%を占める受講者において、講座内容について「満足」との回答が 40%、「理解できた」との回答が 95%となっており、本教育プログラムは適切であると考えます。</p> <p>また社会人の学び直し講座として「必要」との回答が 90%、今後の仕事に対して「活かせる」との回答が 85%、キャリアに対して「活かせる」との回答が 55%、今後の参加希望についても「参加する」との回答が 85%となっており、本講座は成功であったと考えます。</p> <p>なお参加者を増やすため、募集や周知方法については工夫が必要と考えます。</p>
-----	--

評価者氏名		所属	企業関係者
-------	--	----	-------

(2) 大学関係者: 第三者評価シート

評価項目	【事業のポイント】評価の観点	配分点	採点
評価項目	1 【成長分野】成長分野(環境・エネルギー分野)として期待できる教育プログラムになっているか	10点	9
	2 【社会人の学び直し】社会人の学び直しに沿った全体的な教育プログラムになっているか	15点	13
	3 【地域創生/連携】地方地域の企業や団体、教育機関と連携がとれているか	10点	10
	4 【産学連携体制】企業や団体と連携したカリキュラム・シラバス・コマシラバス等の開発になっているか	10点	10
	5 【中核人材①】目指す人材像に沿ったカリキュラム・シラバス・コマシラバスになっているか	5点	5
	6 【中核人材②】目指す人材像に沿ったテキスト・教材になっているか	5点	5
	7 【中核人材③】目指す人材像に沿った講師(キャリア)になっているか	5点	5
	8 【受講生の声①】開催地域・開催時期・時間・教場・設備等は適切であったか	5点	4
	9 【受講生の声②】受講生アンケートから受講後のキャリア形成に役に立つと思われるか	10点	6
	10 【受講生の声③】受講生アンケートから受講後の業務(仕事)に役に立つと思われるか	5点	4
	11 【今後の普及】事業終了後、開発した成果物は普及しそうか	10点	8
加 点	12 【その他】第三者評価者から評価できる観点 「CPD認定講座としたことで、受講者に直接的なメリットを提供した点」	10点	8
満点		100点	91

<配分点の考え方/ボリューム>

	大変優れている				優れている		やや優れている			不相当である					
5点満点	5				4	3	2			1					
10点満点		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
15点満点	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者	<p>本実証講座は綿密な計画の下で実施されており、職業現場の現在のニーズをきちんとくみ取りながら職業教育プログラムを設計するという、極めて当然でありながらしかし現実的にはなかなか難しい取り組みである。受講生の評価もおおむね良好で、学習内容、学習量(時間)、レベル感も概ね妥当であったと判断できる(評価者は当該分野を専門としないため、受講生アンケート結果をその根拠としている)。ただし、現在では、その到達目標が一部(ワークショップ分)を除いては知識中心になっており、それを具体的なスキルやコンピテンシー(「知っている」「理解している」ではなく「することができる」。行動目標とも言う)に落とし込んだアウトカム設定ができるようなプログラムになれば、より実際の職業現場にレリバントなものになるのではないかと考える。</p>
-----	---

評価者氏名		所属	大学関係者
-------	--	----	-------

(3) 企業団体関係者: 第三者評価シート

評価項目	【事業のポイント】評価の観点	配分点	採点
評価項目	1 【成長分野】成長分野(環境・エネルギー分野)として期待できる教育プログラムになっているか	10点	8
	2 【社会人の学び直し】社会人の学び直しに沿った全体的な教育プログラムになっているか	15点	12
	3 【地域創生/連携】地方地域の企業や団体、教育機関と連携がとれているか	10点	7
	4 【産学連携体制】企業や団体と連携したカリキュラム・シラバス・コマシラバス等の開発になっているか	10点	8
	5 【中核人材①】目指す人材像に沿ったカリキュラム・シラバス・コマシラバスになっているか	5点	4
	6 【中核人材②】目指す人材像に沿ったテキスト・教材になっているか	5点	4
	7 【中核人材③】目指す人材像に沿った講師(キャリア)になっているか	5点	3
	8 【受講生の声①】開催地域・開催時期・時間・教場・設備等は適切であったか	5点	3
	9 【受講生の声②】受講生アンケートから受講後のキャリア形成に役に立つと思われるか	10点	6
	10 【受講生の声③】受講生アンケートから受講後の業務(仕事)に役に立つと思われるか	5点	3
	11 【今後の普及】事業終了後、開発した成果物は普及しそうか	10点	7
加 点	12 【その他】第三者評価者から評価できる観点 「CPD認定講座としたことで、受講者に直接的なメリットを提供した点」	10点	8
満点		100点	73

< 配分点の考え方 / ボリューム >

	大変優れている				優れている				やや優れている			不相当である			
5点満点	5				4	3	2			1					
10点満点		10	9	8	7	6	5	4	3	2		1			
15点満点	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者	<p>①新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座、②住環境エネルギー講座、共に実践的・専門的な知識・技術・技能を身に付けることができる講義・テキスト内容となっている。特に①の新省エネ基準の講座については、より実践的な内容で、かつグループワークを導入するなど、受講メリットや満足度を高めている。さらに両講座共にCPD認定講座とすることで、受講者に直接的なメリットを提供した点が評価でき、概ね本事業の目的である「社会人の学び直し」のコンテンツは成功と言える。</p> <p>改善点としては、充実した教育プログラムであっても受講者が少なれば生の意見・評価が得られない。「地域特性を活かした地域毎の社会人学び直し」という趣旨は理解できるが、受講者数が見込める都市で開催することが今後の課題であり、受講者を増やすことで、カリキュラムやプログラムがよりブラッシュアップされて、普及につながるものと思われる。</p>
-----	---

評価者氏名		所属	企業団体関係者
-------	--	----	---------

第5章 ま と め

第5章 まとめ

1. 第三者評価・検証からの結論

事業全体の取組みについて、企画推進委員会委員の中から、企業関係者、企業団体関係者、大学関係者の3人を選出し、評価の結果が以下の通りである。

① 評価点数(100点満点)

- i. 企業関係者:78点
- ii. 企業団体関係者:73点
- iii. 大学関係者:91点

② 評価コメント(別紙:第三者評価シートより)

- i. 一級建築士等の資格取得者が75%を占める受講者において、講座内容について「満足」との回答が40%、「理解できた」との回答が95%となっており、本教育プログラムは適切であると考えられる。

また社会人の学び直し講座として「必要」との回答が90%、今後の仕事に対して「活かせる」との回答が85%、キャリアに対して「活かせる」との回答が55%、今後の参加希望についても「参加する」との回答が85%となっており、本講座は成功であったと考える。

- ii. ①「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」、②「住環境エネルギー講座」、共に実践的・専門的な知識・技術・技能を身に付けることができる講義・テキスト内容となっている。

特に①の新省エネ基準の講座については、より実践的な内容で、かつグループワークを導入するなど、受講メリットや満足度を高めている。

さらに両講座共にCPD認定講座とすることで、受講者に直接的なメリットを提供した点が評価でき、概ね本事業の目的である「社会人の学び直し」のコンテンツは成功と言える。

- iii. 本実証講座は綿密な計画の下で実施されており、職業現場の現在のニーズをきちんとくみ取りながら職業教育プログラムを設計するという、極めて当然でありながらしかし現実的にはなかなか難しい取り組みである。

受講生の評価も概ね良好で、学習内容、学習量(時間)、レベル感も概ね妥当であったと判断できる(評価者は当該分野を専門としないため、受講生アンケート結果をその根拠としている)。

③ 課題コメント(評価者コメントより抽出)

- i. 参加者数を増やすための募集や周知方法の工夫。
- ii. 充実した教育プログラムであっても受講者が少ないと生の意見・評価が得られないため、受講者数が見込める都市で開催することで、よりブラッシュアップされ普及につながる。
- iii. 到達目標が一部(ワークショップ分)を除いては知識中心になっており、それを具体的なスキルやコンピテンシー(「知っている」「理解している」ではなく「することができる」行動目標とも言う)に落とし込んだアウトカム設定ができるようなプログラムになれば、より実際の職業現場にレリバントなものになる。

【結論】

本事業の企画推進委員会から選出した評価委員からのコメントから……

- ・ 評価となる点は、
 - i. 従来までの受講者(アンケート等)や本事業関係者のみ評価ではなく、第三者からの客観的な評価方法を取ったこと。

- ii. 専門職継続開発訓練の制度であるCPDが、本事業の目的である社会人の学び直しやキャリア形成促進等の目的と合致していること。
 - iii. 本事業の実証講座がCPDの教育プログラム(単位認定)として認定(審査:建築士法第22条4項)を受けたこと(外部機関の単位認定)
 - iv. 建築士会CPD認定講座として実施でき、有資格の受講者にも実務に直接的なメリット(単位認定)が与えることができる講座開発ができたこと。
- ・ 課題となる点は、検証する上で必要な受講者数を十分に集めきれていない。より実務に関連したアウトカムの設定の精査が必要である。

2. 実施意義

本事業で開発された2講座「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は、建築士会CPD認定講座として日本建築士会連合会の承認を得られていることにより、この開発した教育プログラムを使用すれば、どの教育機関・団体でも全国どの地域においてもCPD認定講座として社会人の学び直しの展開ができる(CPD講座のプロバイダー契約は日本建築士会連合会と必要)。

評価・承認が得られている社会人学び直し講座として、全国各地域の専修学校や教育機関、団体から有資格者や建築分野従事者に向けて、啓蒙活動の一助となると考えられる。

3. 本年度事業のまとめと次年度の方向性

本年度事業の取組みは、開発した講座(「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」)が日本建築士会連合会の承認を得た建築士会CPD認定講座として展開できるかということが最も重要な鍵となっていた。

結果、2講座とも建築士会CPD認定講座として開講できたことは、評価に値することと思える。

しかしながら、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」が、2020年の省エネ基準完全義務化に向けた実務に直結した内容ということで、受講者からは高い評価が得られたものの、「住環境エネルギー講座」においては、実務に直結する内容が含まれているものがあるが、環境・エネルギー分野という広範囲なこともあって知識習得に偏り過ぎた点が受講者からの評価として表れた。

また、2講座ともに受講者数の集客において課題が残る結果となった。

【次年度に向けて…】

本年度開発した講座を社会人の学び直し講座としての完成に向けた取組みとして、より受講し易い講座の開発としっかりとした実証講座の検証を実施する。

1. 本年度開発した「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の2講座をカスタマイズ展開

特に「住環境エネルギー講座」においては、「①総論・ライフスタイル、②計画、③設備、④施工、⑤評価」と学ぶに至っては広範囲過ぎると考える。知識を深めることができるとともに実務に活用できる(＝アウトカムの設定)カスタマイズした①～⑤の独立した受講し易い講座開発の実施(建築士会CPD認定講座の開発)。

2. しっかりとした実証講座の検証の実施。

本年度の受講者数では、評価・検証するには十分な受講者数とは言えない。

そこで、実証講座の検証をする上で十分な受講者数の獲得をするために、人口の多く公共交通機関の至便な大都市圏に向けて講座展開を行う。

参 考 资 料

省エネ 性能カタログ

e 2016 年夏 版

買い替え方・使い方で効果的に
省エネ家電一覧

〈付録〉家庭の省エネ徹底ガイド

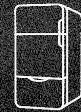
エアコン



液晶テレビ



電気冷蔵庫



電気冷凍庫



ジャー炊飯器



電子レンジ



照明器具



電球形
LEDランプ













電気便座



経済産業省
資源エネルギー庁

C O N T E N T S

1	エネルギー消費を考えよう。……………	5	家庭の省エネ徹底ガイド 春夏秋冬 ラインナップ……………	85
2	知らないうちに電気を使っている。……………	7	ガス・石油ファンヒーター・	
3	『省エネ法』と『トップランナー制度』……………	8	電気カーペット・電気こたつ……………	86
4	『省エネルギーラベリング制度』……………	9	パソコン……………	87
5	小売事業者表示制度……………	10	洗濯機・衣類乾燥機・掃除機……………	88
	電気冷蔵庫・電気冷凍庫の基準が		電気ポット・【調理器】ガスコンロ・	
	新しくなりました……………	11	食器洗い乾燥機……………	89
	統一省エネルギーラベルと		温水機器ガス給湯器（キッチン）・	
	多段階評価……………	12	ガス給湯器（お風呂）……………	90
	省エネ型製品情報サイトで検索……………	13	給湯まめ知識……………	91
	買い替えるとお得!! ……………	14	自動車……………	92
	省エネ性能カタログ 一覧表の見方……………	15	省エネ家電の選び方……………	93
	エアコン……………	16	待機時消費電力を減らしましょう……………	94
	液晶テレビ……………	28	家庭のエネルギーの見える化で	
	電気冷蔵庫……………	40	ムダなく快適……………	95
	電気冷凍庫……………	49	住まいの断熱・遮熱……………	96
	ジャー炊飯器……………	52	省エネ効果の算出について……………	97
	電子レンジ……………	58		
	照明器具		6 Information……………	98
	●蛍光灯器具……………	63		
	●電球形蛍光灯……………	65		
	電球形LEDランプ……………	67		
	電気便座……………	74		
	省エネ性能カタログを活用してみよう!……………	79		
Q&A	……………	80		

～ 議 事 録 ～

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	企画推進委員会会議（第1回）
開催日時	平成28年7月21日（木） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤泰彦、川瀬健介、佐々木 章、佐々木進市、佐藤幸太郎、田口一子、森本進治（小沢喜仁委員代理）、吉川隆治（計8名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高瀬恵悟（計1名） <p>（参加者合計9名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業の概要と企画推進委員会の役割を含め、委員へ周知することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年7月21日（木）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）平成28年度文部科学省委託事業説明 <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容（趣旨、求められる成果等） ・実施体制（企画推進委員会の役割等） （2）年間スケジュールの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・実証講座等のタスクスケジュール （3）成果報告書のまとめ案（目次案） 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：平成28年度事業計画書 ・資料B：年間スケジュール ・資料C：成果報告書まとめ案（目次案）

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木から開催の言葉で第一回の企画推進委員会会議が開催された。

- ・平成 23 年度から本事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業の取り組みを行っている。本年度は 2 年間の取り組みの中の内の初年度になる。
- ・次に委員の自己紹介が行われた。

2. 議事・・・

以下、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 事業内容について趣旨と求められる成果等、実施体制についての説明が行われた。

<配布資料 A について以下の説明が行われる>

- ・7月1日の契約締結により本事業の取り組みに開始となり、分野は「環境・エネルギー」分野である。
- ・本事業は、地方創生による地域の活性化を目指した地域版の社会人学び直しプログラム開発を講座として実施する。
- ・構成機関・委員の確認を行う（企業・団体等の掲載）。
- ・会議の参加が困難な場合の方々には、会議資料と議事録等を贈るのでご意見を別途いただくこととする。
- ・事業実施体制として企画推進委員会の説明、地域版テキスト開発WGの説明、実証実験中国・四国WGの説明、実証実験九州WGの説明がそれぞれ行われた（8ページ参照）。
- ・本委員会は、各WGの進捗状況の管理と検証を行う。また、評価・検証の説明として、企画推進委員会の中から選定した委員を第三者の意見として実施するという内容で行われた。
- ・実証実験中国・四国WGと実証実験九州WGは、それぞれの地域で会議開催と実証実験を行う。
- ・環境・エネルギー分野は、業界の変化が激しい内容となっている。省エネ基準の義務化に伴い、太陽光や風力など創ることから溜めるところではあったが、今後絞られてきている。これから先の必要性は思われているが、産業の成長については不透明感がある。といっても、必ずしも無くなることはなく、不透明感はあるものの必要不可欠と社会は認識している。
- ・建築分野を対象とした2講座の実証講座を実施する。2講座とも必要不可欠な知識修得として、日本建築士連合会CPD認定講座を目指す。
- ・実証実験の3地域では、現地で社会人を集め、講座を実施し履修判定試験まで行う。地域としては3地域を選定し、岡山県にて中国デザイン専門学校で実施する。高知県では高知情報ビジネス&フード専門学校、福岡県では麻生建築&デザイン専門学校を中心として実証講座の運営と管理を行う（10ページ参照）。
- ・「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は、ワークショップによる講師講評による履修判定試験で実施。「住環境エネルギー講座」は、知識修

	<p>得レベルが分かるスコア制を取り入れた履修判定試験で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的には、社会人のみならず、建築分野の学科を持っている専門学校への普及も視野に入れて考えている。 ・住環境エネルギー講座のシラバス・コマシラバスの概要を掲載しているが、依頼する講師に依頼し、これを基にさらに細かく精査し、作成に入るとの説明が行われた（12 ページ参照）。 ・2日を考慮していたが、地域の声を反映すると1日が望まれているため、この部分に対しての検討は地域版テキスト開発WGで検討していく。 ・募集については、各専門学校の協力をはじめ、経済同友会、各地域の商工会議所、環境カウンセラー全国連合会の協力を得ながら講座の受講生を募集していく。 ・評価・検証のイメージの説明が行われた（13 ページ参照）。 ・昨年、建築・土木・設備分野のプロジェクトでCPD認定講座として実施したところ、受講生の集まりと講座内容の評価が良かったため、本年度も同様に実施する。このように外部からの第三者評価とした認定講座を実施する。 ・新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座のシラバス・コマシラバスの概要を掲載しているが、依頼する講師に依頼し、これを基にさらに細かく精査し、作成に入るとの説明が行われた（14 ページ参照）。 ・実施した後を成果物としてどのように残していくのか（テキスト、シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説等）の説明が事業終了後の社会人のキャリアの形成やキャリアアップ等の展開を含め行われた（15～16 ページ参照）。 ・地域での実証実験と第三者評価の実施は必須で進めて行かなければならない。 <p>（2）年間活動スケジュールの会議、実証講座、成果報告提出までの説明が行われた。</p> <p><配布資料Bについて以下の説明が行われる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画推進委員会、地域版テキスト開発WG、実証実験中国・四国（岡山・高知）WG、実証実験九州WGの会議開催スケジュールと、日本建築士連合会のCPD認定講座としての動き、実証講座のスケジュールを記載したものである等の説明が行われた。 ・企画推進委員会と地域版テキスト開発WGの会議はこのスケジュールで実施していく。実証実験WGとして高知と福岡の会議日程は確定している。岡山はこれから決定していく。 ・12月までには、実証実験を終了させる。その後、12月8日に企画推進委員会会議で委員の中から数人選定し、評価・検証を実施していく。評価は、点数評価を考えており、その期間は約1ヶ月を想定している。それに伴い、成果報告書に反映して報告書をまとめる。 ・10月までには、すべての会議と実証講座に対するカリキュラム・テキスト等は完成している予定で進める。 ・CPD認定講座は、9月末日が認定日であり、正式な告知としては、10月1日以降となる。
--	--

- ・会議開催の時間帯については、就業時間帯内で実施するため、ご協力お願いしたい。

(3) 成果報告書まとめ案(目次案)の説明が行われた。

<配布資料Cについて以下の説明が行われる>

- ・本日、変更する場合があるが、現段階の成果報告書の目次案を提出しているが、最終的には企画推進委員会で決定していくので、まずはご確認いただきたい。

■(1)～(3)の説明の後、以下の質疑応答を含めた意見が述べられた。

- ・全体像が分かり易く説明がされて良かったが、住環境エネルギー講座が2日予定に対して1日になるが大丈夫なのか。
- 本来であれば2日間が望ましいが、地域の声を聞くと社員を2日間受講させることに抵抗があり、1日の要望があった。この部分は、予定講座を中止するわけではなく、期間の変更を行うということで文部科学省へ提出すれば大丈夫と思われる。
- 来週には2日バージョンで作成しているが、それを地域版テキスト開発WGで検証していく。
- 岡山では、2日講座は効果によるが、2日講座というのはあまり見られない。
- 福島大学では5日間の講座を実施したが、実際には3日要望の声があった。結果、何とか地域の範囲を広げて実施した。
- CPD認定講座のこともあるので、来週の地域版テキスト開発WGで決定していく。
- 理想としての講座は2日間であるため、まずは進めていただいている通り、2日間のものをまずは作成し、それを流れとして要望に応える方向で考えることをお願いしたい。
- ・認定講座ができることは良い事であるが、認定を取るとどのようなことができるのかその効果がどうなるのか。2日が1日になった場合に、認定に落ちる可能性が高くなるのか、採択率を上げるとなると実習などがあれば良いと思われるがどうなのか。
- 2日を1日にするのが現時点では募集人数によるものだけになっているため、CPD認定講座として内容になり得るのかという疑問がある。
- CPD認定は奇数月末という取り決めがあるため手直しができるように8月の1ヶ月の相談期間を設けている。
- 1日と2日の講座内容はレベルが違ってくる。
- そこは、日本建築士会連合会と相談していきたい。
- 時間の短縮を図るのであれば、講座はパワーポイントを使って行われると思われるので、テキストを作成するのであれば、分かり易いテキストを作成し、事前にテキストを配布して勉強してもらい、当日は講座のポイントの説明とする講義というのが良いと思われる。
- 最終的には、受講者数と思われる。いくら講座の認定が取れても受講者が集まらなければ意味がない。
- ・地域版という意味はどうなのか。その地域で学ぶ限定的なものなのか。

→地域特性を踏まえた講座という意味である。

→講座自体が地域としての全面的なものなのか。

→地域特性に触れる内容で進めていただきたい。その地域の社会人に受け入れられる講座内容を目指す。

→社会人限定なのか。

→社会人限定である。

- ・本事業の2年前からの取り組みの変遷として、2年前は全国版の教育プログラムを地域版限定として落とし込んだものを求められ、兵庫・高知・福岡・大分の地域特性を前面に出し実施した（大分は最低募集人数に至らず中止）。昨年は女性の学び直しを求められた。本年度は社会人を対象とした教育プログラムを開発していくこととなった。
- このように、その年その年で求められることがある。本年度の社会人のニーズとしては短期間となる。例えば、本来の8コマ講座として考えると、学生を対象とすると8コマになり、社会人は基礎的な部分はできていると考慮し、高度な後半部分の4コマという考えもできると思われる。社会人の平日2日間は困難という声が出ている。
- ・中小企業の従業員の教育は、まだまだと感じているので、そこに対しての働きかけは必要と思われる。
- ・建築分野全体としての環境・エネルギー関係の整理された専門書が見当たらない。施工部分などのある部分に対しての環境・エネルギー分野しかないので、必要は感じる。
- ・内容のレベル感については、レベルの設定が難しい。大企業をベースにした場合は、期間はある程度1週間などであれば問題はないが、中小企業は難しいと思われる。CPD認定は実利の部分としては重要と思われる。理念的な人材育成の主軸部分のバランスを取るのが難しいと感じている。
- ・講座内容の2日と1日について、この8コマという内容については、ベーシックと発展（高度）形で割り振りするのが良いと思われる。分野別に作ることに become と思われるが、基礎的な部分は短縮して発展（高度）形のものは時間を取る。全体構成としては、カリキュラムのベースとしてはなるため、企業・社会人向けということ考えるとベーシックと発展（高度）形を段階的に分けて展開することを考えるのができるとと思われる。

→ベーシックの部分はかなりの方が出来るのでは。

→分野別に理解度がことなるため、建築に絞っている。

- ・「住環境エネルギー講座」の作り方でLV1～6段階を斑に取り入れて開発することが難しい。LV1～6に対して、どのLVに絞って進めて行くということであれば良いが、それでは講座の特徴が無くなることになる。例えば、テキストはLV1～6があり、実際に講座を実施する場合には発展（高度）形を実施するといった方向が望ましいのでは。
- ・例えば、英語のTOEICなどは、体系的な地があって受験者のスコアの取得点数は、第三者から見てもレベル判定が容易になっているが、環境・エネルギー分野は、まだまだ体系的な地ができていないため難しい取り組みを行っている。また、建築分野の技術者として知って欲しいものに限定しているためチャレンジしてみる価値はあるが、具体的にテキストを開発しないと

分からない。

→建築分野は分業で成り立っている、例えば、意匠担当と設備担当など見ても、それが縦割りのため、その分野によって考え方や捉え方の姿勢が異なってしまう。それをどのように横断的に作成するのが課題となっている。

→これからの方々のために必要となると思われる。

→学び直しという取り組みは良いと思われる。環境・エネルギー教育は、学ぶ事の発展のイメージが社員にはできていないため、企業の取り組みはもっと必要であるとする。また、第三者が教育する場がないため、このような気軽に学べる取り組みができることは重要とする。

・「住環境エネルギー講座」の2日を1日に短縮することについては、地域版テキスト開発WG会議が7月26日に開催するので、そこで検討し、その後、各地域の実証実験WG会議へ落として決定する。

また、CPD認定講座の申請についても、26日の会議でこの2講座のシラバス・コマシラバスの概要が出て来るので、会議で検討し、それを基に、日本建築士会連合会に投げ掛けて認定講座として実施できるよう相談していく。

本日は、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。その他に、ご意見等がございましたら、事務局へ連絡ください。本日はありがとうございました。という言葉で会議散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	企画推進委員会会議（第2回）
開催日時	平成28年8月25日（木） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上利一、稲永由紀、川瀬健介、佐々木 章、佐々木進市、佐竹新市、佐藤幸太郎、霜野 隆、高瀬恵悟、田口一子（計10名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口奈津（計1名） <p>（参加者合計11名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各WGの会議を実施した後の決定事項報告をはじめ、評価に関する方向性や手法について周知することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年8月25日（木）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）日本建築士会連合会CPD認定講座申請進捗状況の説明 （2）各WGの状況（タスクスケジュール等）説明 （3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座日時の連絡等 （4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座日時の連絡等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：スケジュール ・資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等 ・資料C：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等 ・資料D：実証講座日時

- ・資料E：住環境エネルギー講座案内（案）
- ・資料F：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座案内（案）

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木から開催の言葉で第二回の企画推進委員会会議が開催された。

- ・全体の進捗管理と実証講座の最終的な評価の会議になる。
- ・第一回の会議は全体像の確認を含めた社会人の学び直しの講座を行うことを確認した。
- ・7月21日の第一回会議後に、地域版テキスト開発WG、実証実験中国・四国WG、実証実験九州WG会議を行い、その報告を兼ねて進めて行く。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認後に、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

（1）各WGの状況（タスクスケジュール等）説明（配布資料A参照）

- ・前はスケジュールを予定として配布したが、今回は確定したものをお配りしているので、確認ください。
- ・7月に地域版テキスト開発WG、8月に実証実験中国・四国WG【岡山】・【高知】、実証実験九州WG会議をそれぞれ行い、日程を確定させたものになる。
- ・実証講座の日程をはじめ、会議日程の確認をしてください。
- ・12月が本委員会会議の最終となるが、その際に、本年度の実証講座の評価にこの委員の中から評価委員を選定し、1ヶ月程度の時間を設けて評価してもらう。

（2）日本建築士会連合会CPD認定講座申請進捗状況の説明

- ・昨日、CPD申請を行った。
- ・実際の審査は、奇数月であり、来月の9月になる。
- ・結果は、ある程度前倒しで確認できると思われる。
- ・このCPDの認定を受けることが肝となる。外部の第三者から評価を得ることが重要である。
- ・他の機関で、第三者機関の評価を受けた講座は難しい中、取り組む。
- ・建築士連合会の中でも、住環境の講座は不足しているので、そこを補いつつ、今後も取り組んでいく。
- ・全国展開を視野に入れたものとして明るい。

（3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認（配布資料B参照）

- ・前回までは、2日間で作成していたが、色々な声から1日の講座内容と変更した。
- ・建築に特化した基礎的な知識を習得する講座となっている。
総論・ライフスタイル、計画、設備、施工、評価となっている。これだけの建築に特化した環境設備関係の物はないと思われる。
- ・最後の履修判定試験においては、昨年度取り組んだスコア制を取り入れて実施する。

（4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の確認（配布資料C参照）

- ・「住環境エネルギー講座」を受講した後にこの講座を受けるのが望ましいと思われる。2020年の省エネ基準の義務化に向けた内容となっている。
- ・ワークショップを行い、テーマを基に、グループワーク毎の発表で終了する。

実証講座日時の変更連絡

- ・実証講座の変更点を明記しているので、ご確認いただきたい（配布資料D参照）。
- ・募集については、9月の末に決定した後に案内をする予定だったが、募集開始を早めて行く（配布資料E、F参照）
- ・CPDのロゴマークや単位講座としては、正式に決定した後に明記する。
- ・主催は地域の学校でやっていただくこととする。申し込み、問い合わせ先も同様である。

この事業で開発した講座は、地域で実施されることが望ましいため、このようにさせていただいている。また、後援として当校をはじめ各地域の協力先と環境カウンセラー全国連合会を明記している。

以下、意見交換がされた。

- ・岡山は、卒業生をはじめ、建築設計クラブなどに働きかけ始めている。CPDの単位取得ができる講座としては好印象である。
- ・受講者の対象者は建築関連の社会人で学生はいないのか。
- 本事業は社会人学び直し講座のため、学生はいない。
- ・CPDは、建築士には単位がもらえて良いと思われるが、建築士以外の方のご褒美的なものはあるのか。
- 全く考えていない。建築士以外の方は知識をより多く習得してもらうものとして考えている。もし、他にご意見が出てきた場合には、最後の評価の部分でコメントをもらい、来年度以降の課題とする。
- ・高知の場合には、土佐経済同友会の環境委員会が中心となって受講者集めに協力してもらえる。幹事会にかけて進めて行く。
- ・福岡は、麻生建築&デザイン専門学校で主催となって講座の実施をしていく。福岡県建築士会への働きかけも行う。
- ・受講者には修了証書を発行する。
- ・日本建築士連合会も求めているように、このような社会人向けの講座をもっと増やしていく考えである。
- ・検定合格後や講座受講後のメリットは何かと常々聞かれることがあるが、このようなCPD認定講座に乗せることは喜ばしいことと思われる。
ただし、講座数が増えると時間帯や期間の設定が難しくなる。東商の講座に参加する9割が会社からの指示があつての受講になるので、今後、企業の理解を求めることが重要と思われる。
- ・人集めが難しいのであれば、住環境講座については福祉住環境コーディネーターの取得者に対して協力ができると思う、意欲を持った方への案内ができれば受講者は集まると思う。
- ・環境カウンセラー全国連合会のメンバーへの案内もお願いしたい。
- ・去年と内容が変わるという事で、大きな枠は作ったが、実際にやってみてどうか心配である。内容が実際のニーズ評価はされるのか。
- 第四回の会議でこの委員の中から評価委員を選定して、評価していただく。

→今は必要ないが、将来的に必要と思われる内容もある。

→評価委員と受講者の評価が違うと思われるが、アンケート調査等を行うのか。

→作成の検討をしていく。

- ・CPD申請画面のコピーについて、講師単位数について教えて欲しい。

→講師が求めれば受講者単位数と同等にもらえる。

- ・Bの資料のスコア制について、プログラムの評価なのか受講者自身の評価なのか。

→取得点数によって、受講者のレベルを判断する。受講者の属性は考えない。

- ・透明性の評価とはどういうことか。

→スコア制による取得点数とレベルの明記を証明書によって受講者に通知する。

- ・最初から参加しているが、手探り状態の中から、よくこれまで持ってこられたと思われる。受講のメリットとしては、企業の立場からすると受講したことにより、仕事に活かせるものがあれば良いと考える。
- ・それぞれの学校でもこの講座を基にCPD申請をして講座普及ができればと考える。
- ・受講者集めが結構大変である。興味はあるが体験する場が無いとして講座を開催したが、実際にはあまり人数が集まらないといったことがある。時間拘束や時期など様々な要因がある。
- また、対象者はどの程度CPDを認識しているのか。スコア制の評価部分、フィードバックする部分が重要と思われる。
- ・受講者のアンケートについての中身については、どうなるのか。確認できるのか。

→事務局でアンケートのたたき台を次回会議までに作成するので、次回会議で意見をいただきたい。

- ・評価をする上で、標準となる点数はあるのか。

→設計、現場監督、設備、材料など職種に関わるものによって点数が違うので、標準となる点数はない。

- ・アンケート調査の他にヒアリング調査はあるのか。

→アンケートにヒアリング可能かなどの項目があれば良いと思われる。また、日本建築士連合会からの意見がもらえればと思うがどうか。

→建築士連合会の立場としては、難しいとは思われる。

→コメント程度もらえればとは思いますが、これからになる。

- ・現在、テキストの開発までを進めている段階であるが、それぞれのWGの進捗状況の報告を含め、次回会議を行っていきたいと思う。

第三回会議は10月18日となります。本日は、ありがとうございました。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	企画推進委員会会議（第3回）
開催日時	平成28年10月18日（火） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上利一、稲永由紀、川瀬健介、佐々木 章、佐々木進市、佐竹新市、佐藤幸太郎、霜野 隆、中村健二、吉川隆治（計10名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口奈津（計1名） <p>（参加者合計11名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座についての評価に関する方向性や手法、アンケートの内容、実証講座に向けた各WGの決定事項等について確認することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年10月18日（火）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）第三者評価方法・評価シートの様式（案）・第三者評価委員の選定（企業、大学、団体）、受講者アンケート（案）等 （2）各WGの会議進捗状況・報告 等 （3）住環境エネルギー講座シラバス・テキスト・募集要項等の最終確認 ・各WGの実証講座募集状況の報告 等 （4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・テキスト ・募集要項等の最終確認 ・各WGの実証講座募集状況の報告 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：第三者評価方法（案）・評価シートの様式（案） ・資料B：受講者アンケート（案）

- ・資料C：テキスト開発スケジュール・担当講師
- ・資料D：住環境エネルギー講座シラバス・テキスト一部抜粋・募集要項
- ・資料E：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・テキスト一部抜粋・募集要項
- ・資料F：事業全体スケジュール

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木から開催の言葉で第三回の企画推進委員会会議が開催された。

- ・本日の会議は実証講座前の会議となる。
- ・まずは、スケジュールの確認を行いたいので、配布資料F参照ください。
10月25日に高知で実証講座が開催される。その後11月に入ると毎週末実証講座を実施する。12月に企画推進委員会の最終会議となり、そこで本事業においては、すべての実証講座が終了した後で企画推進委員会より選定した委員によって、評価をする取り組みを行う。
後ほど、その評価項目について検討していく。その他、各WGの進捗状況について報告をするといった会議となる。
- ・次に本年度初参加の中村委員より自己紹介が行われた。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認後に、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

- (1) 第三者評価方法・評価シートの様式(案)・第三者評価委員の選定(企業、大学、団体)、受講者アンケート(案)等

評価シートについて説明が行われた(配布資料A参照)。

- ・背景としては、事業計画書からの抜粋の文章を入れている。
- ・実施体制をもとに、評価を実施する。実際に実証実験を行った結果を検証していく。
- ・各運営の管理体制、会議等についての評価も行う。企画推進委員会の中から4名選定する。
- ・評価要素と観点として次の通り、「事業の適正」、「人材像の明確化」、「募集・普及」、「テキスト開発」、「サブテキスト」、「シラバス・コマシラバス」、「地域特性の反映」、「会場」、「受講前と後のアンケートを受講者の属性とともに検証」等。
- ・100点満点のうち、何点という点数制とする。
- ・評価の項目としては、社会に求められた内容を行ったか。目指す人材像に沿った体系定期的な教育プログラムとなっているか。普及にあたって地域の団体等の連携と取れているかどうか。受講者アンケート回答等の12項目の観点から評価する。
- ・それぞれの評価の点数配分は明記している。
- ・開発したテキストの内容、シラバス・コマシラバス、履修判定試験結果、選定した講師、議事録の内容等を資料として委員は検証する。

	<p>アンケートについて（配布資料B参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の属性からアンケートを回答していただく。評価については、受講者から回答したこのアンケートを事務局がまとめるので、これを資料として行ってもらいたい。 ・評価委員として、事業責任者から次の委員へ声を掛ける稲永先生、中村先生、佐藤先生、佐々木先生はどうでしょうか。 <p>→環境カウンセラー全国連合会のメンバーがテキスト開発しているため、中立を保つこととしては難しいと思われる。</p> <p>→佐々木先生は選定委員としては見送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座はまだ始まっていない段階であり、全体のボリュームを見せることができないので、判断しがたいと思われるが、よろしく願います。 ・評価要素の観点は本事業の中身について作成している。 ・アンケート（案）としてはボリュームがあり過ぎるが、漏れが無いようにと考えるとこのボリュームとなった。 ・評価要素の6と8は似ている。1に関しても後から出て来るので、評価するのが難しい。11の連携と6の連携についても比較的近い表現があるので同様に難しい。7について、アンケートに反映されていないので反映して欲しい。アンケートには講座時間はあるが、場所・施設についてはない。 <p>→アンケートの内容については、評価観点に合わせる。会場・施設等については3地域比較的吗。</p> <p>→アンケートを評価観点に合わせて作成する。会場の施設等については特に差があるとは思えない。</p> <p>→評価の対象は、実証実験の事業のみなのか。</p> <p>→事業全体である。</p> <p>→事業の一部に実証講座があるということで、科目の配列に見ないといけない。講座単体であれば必要はないので、やはり手直しは必要と考える。アンケートについてもいくつか回答に悩まれる方がいると思われるため、その気になる部分については事務局へ連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを先に進めさせてほしい。修正した内容を再度お送りするので確認して欲しい。25日に高知で「新省エネ基準」があるので、そこから実施する。次いで配布資料Bのアンケート項目の説明が行われた。 ・作っていくとボリュームが付きすぎた。20問のため、10分の時間を取っているが、30秒に1問となるため時間内ということは難しい。 ・実際の従業員数はどの程度か。 <p>→高知では現時点では、7つの話が来ているが、高知県内で大きな企業となる。</p> <p>→問2は、継続年数でよいのか、勤続年数なのか。どちらにするのか。ある程度クロス集計で行うことを考えると評価し易い方にした方がよいと思われる。</p> <p>→建築の場合は、簡単に考えた方がよいと思う。</p> <p>→勤続年数でいく。</p> <p>→職としては長いですが、現在の部署としては何が評価になることがポイントを絞る。これだけは別項目にした方がよいと思われる。現在の職種に就いてとざっくりした聞き方もある。</p>
--	--

- 問1の業種にコンサルが必要と思われる。建築でいくと設備関連と電気・ガス水道等を一緒にした方がよいと思われる。
- 管理職以上の聞き方も考えた方がよい。営業職、設計職等
- 産業分類に沿って作成したわけではないので複数やられている方もいるので、複数回答を入れて対応していく方がよいと思われる。
- 「主」をいれるのも一つの方法である。
- 主旨について、例えば営業から現場にいて知識が必要なためなどの
- 現在の主な職種はというオープンアンサー的なものはどうか。
- 集計する際に数が多くなれば大変な作業になる。複数回答か一つ選ぶかとい指示を示す方がよい。
- ・問5を問2に移動した方がよい。今回の講座受講理由と重工する講座理由として問7と問9があるが、問7で聞いているのをあえて問9で聞く必要があるのか。問10-2があるので問10は必要ないと思われる。
- 問10-2はその他の中身を活かすスペースとして考えている。地域性が出てくると思い、作成している。
- 自分の希望と実際のスタイルがあって、それを比較できるようにする考え方もある。
- ・出てきた皆様のご意見を大至急作り直し、明日の午前中までに評価委員の3名へお送りいたしますので、出来る限り早くご確認願います。そこでご意見がございましたら再度修正をしていくのでお願いします。
- (2) 各WGの会議進捗状況・報告等(配布資料C参照)
- ・それぞれの実証講座実施日に向けて進めている。
- ・会議については、スケジュール通り地域版テキスト開発WG、実証実験WGともに12回の会議が終了した。
- ・テキスト開発においては、「住環境エネルギー講座」は、10月31日を締め切りとし、授業シート類を含め作成している。
- スコア制として、理解度テストを行う。何点とれば合格という講座ではなく、取得点数により理解度を確認するといったものである。現在、200問程度できている。CPDの承認としては、日本建築士連合会から認定の許可を受けて正式にCPD認定講座として案内を始めている。
- ・「新省エネ基準」のテキストは本来であれば、本日終了の予定であったが、木曜日の夜中から金曜日の朝方にかけてできる予定である。なるべく早く仕上げるようにしている。
- ・高知では、土佐経済同友会をはじめ、高知建築士会、事務所協会、中小建築業協会に案内をしている。福岡、岡山でも福岡県建築士会、岡山県建築士会をはじめ同様に案内を行っている。
- ・経済産業省の反応としては、文科省の発信ではあるが、国交省を含めた取り組みということについては、感心されている。
- (3) 住環境エネルギー講座シラバス・テキスト・募集要項等の最終確認、各WGの実証講座募集状況の報告等(配布資料D参照)
- ・省エネカタログを回覧します。部数がないため、配布はできないことをご承願います。
- ・日本建築士連合会において、環境と建築を結びつける講座がないことから、

この度のCPD認定講座ということになった。

- ・シラバス・コマシラバスの概要として、1コマ目総論・ライフワーク、2コマ目は計画として熱環境、空気環境をはじめ実施する。3コマ目は生活分野に関係する機器として説明をしながら資源エネルギー庁発行の省エネ性能カタログをサブテキストとして活用する。4コマ目は住宅づくりの施行ポイントを学ぶ。5コマ目は評価を学ぶ。最終的に履修判定試験となるが、今回はスコア制ということであるため、講師とも相談したが、講座内容外からも必要な基礎的な知識を出題とする。
- ・募集要項については、9月にEメールでご連絡させていただいて、1週間ほどのご確認の上で、特にご意見がなかったことを確認して作成した。デザインは変えた。
- (4) 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・テキスト、募集要項等の最終確認、各WGの実証講座募集状況の報告 等
- ・国土交通省の2020年の省エネ基準の義務化に向けた取り組みに伴った内容である。
- ・平成28年改正を反映している。テキストとしては、住宅省エネルギー技術設計講習テキストの中の国の方向性から省エネ基準、計算手法を参考として作成している。
1コマ目から省エネ基準の解説から外皮性能、用語解説の基礎的な省エネ基準の計算手法から判定までを学ぶ、2コマ目は一次エネルギー消費計算手法を3コマ目まで行い、3コマ目に手計算であるが演習として行う。地域毎に数値がちがうのでそれを入れて行う。CADソフトを使った計算事例として福井コンピュータが来て企業事例として説明が行われる。最後にワークショップを行い、グループ毎の発表を講師の講評により終了となる。
- ・募集要項については「住環境エネルギー講座」同様に確認を取った上で作成している。
- ・テキスト等については、ギリギリになるので、各実証講座先の専門学校と事務局は連絡を密にして欲しい。

本日の会議はこれで終了します。アンケート等の宿題につきましては、早急に対応・ご確認を行う。また評価シートも作成する。本日はありがとうございました。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	企画推進委員会会議（第4回）
開催日時	平成28年12月8日（木） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上利一、川瀬健介、佐々木 章、佐藤幸太郎、霜野 隆、高瀬恵悟、 中村健二、吉川隆治（計8名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口奈津（計1名） <p>（参加者合計9名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座の完了報告、事業評価に関する方向性や手法等を確認することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年12月8日（木）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ul style="list-style-type: none"> （1）実証講座の終了報告（受講者数・受講者アンケート途中経過） 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」 高知版 10月25日（火） 龍馬学園高知情報ビジネス&フード専門学校 福岡版 11月5日（土） 麻生塾麻生建築&デザイン専門学校 「住環境エネルギー講座」 福岡版 11月26日（土） 麻生塾麻生建築&デザイン専門学校 岡山版 11月19日（土） 第一平田学園中国デザイン専門学校 高知版 12月3日（土） 龍馬学園高知情報ビジネス&フード専門学校 （2）第三者評価実施要領について（評価様式の見直し） （3）今後のスケジュール 他 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：「住環境エネルギー講座」講座使用テキスト 等 一式 ・資料B：「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」講座使用テキスト 等 一式

- ・資料C：第三者評価実施要項（案）
- ・資料D：スケジュール表

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山区園理事佐々木から、「本年度最後の会議となります。無事、実証実験が終了した報告と第三者評価のご指摘の部分について進めていきます。」との開催の言葉で第四回の企画推進委員会会議が開催された。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認後に、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

（1）実証講座の終了報告（受講者数・受講者アンケート途中経過）

- ・3地域5回の実証講座を実施した（「住環境エネルギー講座」：【岡山・高知・福岡】各1回、計3回、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」：【高知・福岡】各1回、計2回）。
- ・「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」のテキストは、実際にここにあるテキストを配布し、使用した。本会議には高知版を配布している（配布資料A、B参照）。
- ・CPD認定講座として実施した。「住環境エネルギー講座」は5単位と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は4単位の付与ができる講座として開講した。
- ・「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の受講者数は、高知が7名、福岡が16名（当日の欠席者が4名）。年間の建築士会CPD講座の受講者数は、高知県は約400名、福岡は約1,300名であり、高知と福岡ではその割合が出てきていると思われる。
- ・講座に飽きないように、3コマ目に実際に手を使って計算を行う演習や4コマ目にワークショップを取り入れた。
- 企業事例として、CADソフトを使った計算を福井コンピュータさんに協力をいただいた。
- 実務的な部分を表に出しているため、受講者としては分かり易い。活用できる内容として伝わるのが大事である。
- ・「住環境エネルギー講座」について、岡山は受講者として社会人5名と大学生2名、高知は社会人5名、福岡は申込者が16名あったが、実際には社会人8名であった。福岡においては、無料講座としての難しさが出た。申込者数から、建築士会CPD講座の年間の受講者数は岡山も高知と同様のため、福岡と比較すると、1/3程度である。年間受講者数の割合がそのまま出てきた。
- ・CPD認定講座としてもっと集まると思われたが、思うように受講者数が伸びなかった。
- 環境系全般に活用できる内容としての伝わり辛い。具体的に実務に関連した内容を伝えることができればもう少し違うと思われる。
- ・履修判定試験から講師によって、得点が異なった。
- ・業界にとって、多忙の前であったため、時期的には、ほぼ良かったと判断する。

- ・ 講座案内、シラバス・コマシラバス等については、前回の会議までに確認を取っている。授業シートは、コマシラバスを反映している。
- ・ アンケートは集計結果がまとまり出来次第、送る。
- ・ 建築関連の従事者であった。ほとんど中小企業であった。アンケートの回答からも従業員数が30人程度までが多かった。
福岡に比べ、岡山と高知の受講者数が少なかった。人口を比較してもマーケットが少ない分、受講者は少ないと思われる。高知においては、講座終了後には建築よりも土木関連が好まれると思われるとの声があった。
- ・ テキストの内容は、受講者からは理解を得られている。
「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」のアンケート回答について事務局よりアンケート項目に沿って以下の説明が行われた。
- ・ 業種は16人中10人が設計、未回答は事務員等の参加、その他は行政関係者と判断できる。
一級建築士が8人、次に二級建築士と続いた。資格を持ちつつ、勉強意欲が高い方が参加した。
16人中13人が建築士会を通して参加している。福岡ではCPD講座が定着している。CPDの認定が無ければこの人数が集まらなかったと思われる。受講目的は「興味・関心」、「現在実務に必要」などが多く、CPDの単位についての回答は思っていたより少なかった。既にCPD認定を受けている講座のため、あえて回答をしていないと思われる。
本講座の容量としては6時間のものを4時間で行ったため、全体的に速足となった。
そのため、受講者からはもう少しゆっくりと聞きたいという声があった。しかし、6時間の話をすると6時間はキツイということであったため、もう少し内容の検証が必要と思われる。
テキストは、講師と話し合い、字が小さいことは避けるようにしたため、分かり辛い等の意見は無かった。
仕事面では、全員が仕事に活かせる内容との回答であった。キャリア面については、受講者より修了証書は発行されれば活かせるとの声があった。修了証書は郵送するようにしていると説明すると、キャリアに活かせると回答が得られた。修了証書の発行が重要と判断できる。
といったアンケート回答の説明が行われた。

(2) 第三者評価実施要領について(評価様式の見直し)

「配布資料C：第三者評価実施要項(案)」について説明と意見交換が行われた。

- ・ 似たような観点の部分を整理・修正する。アンケートの結果を反映するものを示す。
評価観点の重複箇所の整理、事業目的に沿ったカテゴリーの分類、受講者アンケートの反映といった部分を見直す。
前回と特に異なっているのは、事業のポイントを【 】で示している。と評価項目に沿って説明が行われた(配布資料C参照)。
実証講座每などの評価ではなく、全体を総評して配点していただきたいといった配分点の説明が行われた。

- 項目としては良いと思われるが、採点をするとした際には、講座環境や開催時期など、実際に見ていないため、アンケート回答から評価することになる。
- 多くの委員の方々は、実際に実証講座を見てなく、資料からしか判断できないため、受講者の声として修正する。
- 11 番の普及については、本事業で開発した講座はCPDの承認を受けているので、建築士会とプロバイダー契約をし、2つの講座のプログラムIDを利用すれば、どなたでもCPD認定講座として開講できる。北海道でもどこでも開講できる。
- 確認ではあるが、講座毎で評価はしなくても良いのか。
- 2つまとめて評価して欲しい。
- (3) 今後のスケジュール 他
- 「配布資料: D スケジュール表」の内容について次のように説明が行われた。
- ・「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」のアンケート集計結果を明日、先生方に渡す。「住環境エネルギー講座」は1週間後に渡す。評価期間は1ヶ月程度。
- その後、成果報告書作成に入る。
- 成果報告会は、2月3日(金)16:00~17:00を考えている。場所は中野サンプラザ。来週には、本事業委員全員と関係者、文部科学省の方々にご案内する。
- 基調講演として「住環境エネルギー講座」でお世話になった近畿大学の依田教授にお願いすることを考えている。
- その他、意見交換が行われた。
- ・本事業は来年度も引き続き実施する予定である。
- やはり人数が集まるのが大事である。人数が少ないと評価がなかなかできなくて実施した意味がなくなる。
- 昨年、沖縄で20名ほど集まったため、人数が集まる地域として実証してはどうか。昨年の講師から話を聞くと、設計では40人ほど集まるとのことであった。
- 他の地域はあるのか。
- 沖縄と寒い地域での比較ができればと思われる。
- 来年度実施する場合には、実証講座の評価を目的とし、評価委員には同行してもらおうことも検討する必要がある。

【会議風景】

時間になりましたので、これをもって本年度の会議が終了となります。本日はありがとうございました。との言葉で散会となった。



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	地域版テキスト開発WG会議（第1回）
開催日時	平成28年7月26日（火） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今井秀雄、加藤陽介、川瀬健介、佐々木 章、佐々木進市、佐藤幸太郎、 澤登信子、藤本晴男、吉川隆治（計9名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高瀬恵悟（計1名） <p>（参加者合計10名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度事業の取り組みに対して、地域版テキスト開発WGの役割を委員へ周知することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年7月26日（火）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ul style="list-style-type: none"> （1）地域版テキスト開発WGの取り組み内容等について （2）年間スケジュールの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認 （3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認 （4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の確認 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ (H28 文科省 中核) _実施体制 ・ 資料A：年間スケジュール ・ 資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス 等 ・ 資料C：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等

【内 容】

1. 開会 . . .

事業責任者の小山学園理事佐々木から、平成 28 年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成プログラム開発」事業の「環境・エネルギー分野」において 7 月 1 日付で委託を請けました。本日は本事業を進めるにあたり、お忙しい中委員の皆様が集まっていただきました。本日はお配りの式次第に沿って進行いたします。との開催の言葉で第一回の地域版テキスト開発 WG 委員会会議が開催された。

・次に委員の自己紹介が行われた。

2. 議事 . . .

以下、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 地域版テキスト開発WGの取り組み内容等についての説明が行われた。

・本事業は、平成 23 年度から中核的な専門の人材養成をしなければならないだろうということでスタートしている。専門学校・大学等へ人材の育成を推進する事業であった。当時は、環境・エネルギー等の学部学科を持っている学校は皆無であった。

スタート当時と現在の環境・エネルギー分野はかなり変動している。買い取り制度についてもその一つである。ただ、環境とエネルギーは既存の分野についても外せない部分であると考え。環境・エネルギーのリテラシー教育は必要であると考え。知育特性を活かした内容で、建築従事者を対象とした地域実証講座を実施するように進めている。

・イメージ図を基に、企画推進委員会、地域版テキスト開発WG、実証実験中国・四国WG、実証実験九州WGの取り組みと役割の説明が行われた（配布資料（H28 文科省 中核）_実施体制参照）。

・本WGは、地域特性を取り入れた教育プログラムの開発を行うWGである。新省エネ基準について、講座を実施する。新しく学んでいく講座のカリキュラム、シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ・解答、履修判定試験を開発していく。講座は、「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の 2 講座を実施する。

(2) 年間活動スケジュールの会議、実証講座等のタスクスケジュールの説明と意見交換が行われた（配布資料A参照）。

・それぞれの会議の日程と講座実施を予定している。

・企画推進委員会、地域版テキスト開発WG、実証実験WGの高知と福岡の会議日程は決定している。

・岡山は今後調整していく。

・2 講座の実証講座は、11 月末までに終了し、12 月は企画推進委員会から評価委員を選定し 1 ヶ月程度の期間を設け、第三者評価として実証講座の評価を実施する。評価方法は事務局より企画推進委員会へ提案し、決定する。

・実証講座については、講師、協力校等との調整を取りながらスケジュールを構築していく。

・実証講座の「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の2講座を日本建築士連合会CPD認定講座として実施することを目指す。

→CPDの認定はいつ頃になるのか。

→スケジュールに明記しているが、9月30日を想定している。

→現在、進めているテキストの開発を進めているが、最終的に認められない可能性はあるのか。

→8月に日本建築士会連合会へ事前相談し、認められる内容を詰めて行く。その中で要望等を聞き入れる期間を考慮し、1か月程度の期間を設けている。

→9月末までにテキスト等の開発を行う必要がある。

・「住環境エネルギー講座」について当初は2日間の講座で実施予定してシラバス・コマシラバスを作成してもらっている。「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は1日のシラバス・コマシラバスを作成していただいているが、先日の企画推進委員会会議でも話し合いをしたが、事務局から各地域に事前に問い合わせたところ、2日間講座の「住環境エネルギー講座」に対して、社会人が2日間（連続もしくは違う日に設定しても）来ることに疑問視され、受講者集めに困難を極めるため1日講座にして欲しいと開催地域から連絡がきている。この点を本日の会議で決定したい。

・「住環境エネルギー講座」の2日間講座は時間的に厳しいと考えられる。しかし、地域で6時間の実証講座の実績があるので、6時間講座の相談をされている。やはり、実証講座を実施するからには普及面を考慮しても受講生をなるべく多く集めたい。

そこで、教育プログラム（テキスト、シラバス・コマシラバス等）は事業計画の通り2日講座を作成する。その後、事前に受講生に配って時間の圧縮を図るなど、2日を1日に単純に全てを圧縮する手法をとることがないように、この場を借りてお知恵をいただきたい。

CPD認定講座への取り組みは、日本建築士連合会と連絡を取り合いながら進めて行く。

→2日講座の内容を作っても、結果、1日講座の内容で開催した場合、内容が場所や講師によって全く違って来るものになるのでは。1日講座で作成し直してはどうかと考えるがどうか。

→本来であれば、この講座は2日間必要と考える。ただし、実証講座として各地域の声に耳を傾け合わせる方向で考えると、実際には、このシラバス、コマシラバスの中からのピックアップ1日講座で実施するという形が妥当と思われる。

→講座のカリキュラム開発としては、このシラバス・コマシラバスの内容を基に2日間講座内容のテキストを作成し、実証講座は1日の方向性で進めるということで良いのか。

→その方向性である。ただし、当日の実証講座の内容については、現場（協力校等）と講師と事務局で決定していきたい。

→全体を圧縮する方向はどうなのか。

→中身のボリュームがある。この点は、現場（協力校等）とテキストを見ながら調整を取っていきたい。

- ・日本建築士会連合会については、本年度の実証講座の内容については、8月初旬にシラバス・コマシラバスを投げかけて相談を仰ぐようにしていく。そこで修正等があれば、その声を反映していきたい。

(3) 住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の説明と意見交換が行われた(配布資料B参照)。

- ・生活に関する内容として1コマの総論と2コマのライフスタイルを取り入れて講座を始める。3～4コマの計画については建築における環境やエネルギーとはどういうものであるのかの基礎知識を学ぶ。特に建築の現場の方に対してだが、何かを創る時に一番気を付ける部分、考えがあって取り組んでいる部分、計画の段階で何を大事にしているのかを他人に説明できる知識(例えば、ガラス一つにしても単層のガラスと複層のガラスの選択の違いの説明ができる等)の修得を学んでもらう。

5～6コマの設備・施工については、戸建てや集合住宅の注意点を考える。断熱についても学ぶ。また、踏み込むと問題があるかどうかだが、リフォームの場合を考えてみるとLCCという観点から計画段階からそのものが無くなるまでエネルギーがどのように使われているか。材料を作るエネルギー、運搬するエネルギー、物を作る(家を建てる等)エネルギー、暮らしていくエネルギー、壊すことのエネルギー、消滅することのエネルギーなどさまざまにあるので、これらを学ぶ。7コマの評価は、CASBEEの考えが入っている。評価の概略を学ぶ。8コマ目理解度テストといった講座概要の説明が行われた。

- ・2コマ目のライフスタイルにリサイクルと交通があるので流通を追加した。
- ・全体の講座の流れは十分な内容と思われる。
- 構造の部分が抜けているがどうか、計画と施工の段階で入ると思われるので、特に問題はないと思われる。
- この内容のテキストがあれば、事務所に置いておきたいといった内容と思われる。
- 建築に入る導入部分として、総論とライフスタイルは入れた方が良いと思われる。
- このシラバス・コマシラバスに沿ってテキストの作成に入っていく。実際の実証講座の日程は1日として、事務局を中心として講師と各地域の協力校等で調整していく。

(4) 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバスの説明が行われた(配布資料C参照)

- ・平成28年度版の省エネ基準法の内容で講座を実施する。実務としてやらなければならない講座と考えている。
- ・昨年は、これまでの省エネ基準で一向に省エネ住宅が建てられていないという側面がある。

これは、現在の現場の建築技術者は、断熱等を学んでいない、技術が無いといったところから、実際の施工技術を詳細に学ぶ施工技術者講座として建築・土木・設備職域プロジェクトで現場の技術・知識不足を改善することを

目的に実施した。

この取り組みは、国土交通省も推進している内容であり、その技術講座の講師を行っている関係上、声を掛けられて実施した。本年は、その流れの中から設計技術・評価手法・計算方法を実施する。

- ・先ほどの「住環境エネルギー講座」の5～7コマの内容とこの講座の1コマの内容は非常にリンクしていると思われる。対象者によるが、この基本的な知識がないと本講座を受講しても理解ができないといったもので、レベルは上の講座内容である。
 - ・2～3コマは、平成28年4月1日施行の省エネ基準の計算手法と評価・判定を実施する。この2コマでマスターできる内容ではないが、実際に手を動かしてしっかりと理解出来る内容と思われる。3コマ目は聞くだけでは分かりにくい部分もあるため、実際に手を動かしてモデル建物を使用して、計算も手計算ではなく、建築研究所や民間からの計算のプログラムが出ているので、その計算支援プログラムの紹介も取り入れて実施する。
 - ・4コマ目のワークショップでは、地域特性に配慮した省エネの提案をグループワークで発表し、講評して終了する。
 - ・昨年は施工技術ということで現場の施工技術者の方をはじめ、現場監督する立場の設計技術者も含めた幅広い方々が対象となっていた。CPD認定講座として実施して受講者に聞いたところ、地域ではCPD認定講座が少ないとの声があった。
- 今回は、設計技術ということでコアな話になることもあり、施工技術者が聞いても理解できないかなりニッチな内容となるため、受講対象者は設計事務所や建設会社の設計担当者向けになる講座内容となっている。
- ・高知は経済同友会の協力を仰ぐが、その中の建築関係の建築部会を通して募集の協力を行う。
 - ・「住環境エネルギー講座」の構成について、履修判定試験の時間はどの程度か。

→60分程度と考えている。

→6コマの中の1コマを履修判定試験となる。

→「住環境エネルギー講座」は1コマ90分で考えているので、その部分は考え直す必要があると思われる。

→90分で作成した内容を60分に短縮するのは大変な作業であるため、コマを除く方法もある。パターンをいくつか作り上げる方法が良いと思われる。

→対象のレベルの設定が必要と思われる。現在、大学の3～4年生のレベルで考えているが内容的にはどうか。

→社会人の建築関連従事者を対象としているので、レベル（＝実務経験）は問わない講座内容と考えている。

→社会人向けであれば、1～2コマは必要が無いと思われる。5～7コマ目が社会人向けとなるとと思われる。

→「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」を見ると対象がはっきりしているが、「住環境エネルギー講座」はぼんやりしている部分があるため、対象が分かり辛い。

- 「住環境エネルギー講座」の1～2コマ目はリテラシー部分であり、例えば、この部分を除いて実施しても、この講座自体の質は変わらないと思われる。
- 3～4コマは自分自身で何とかなる内容と思われる。1～2コマは、体系的に学び直すことが必要と思われる。CPD認定講座の単位はどうなっているのか。
- CPD認定講座の1単位は、30分以上であれば良い。
- 1～2コマで1講座、3～4コマで1講座、5～7コマで1講座の申請は可能か。
- 可能である。
- テキストはフルセット版で作成して、それぞれの地域で選定して受講できるという方法はどうか。
- 可能である。
- CPDは何単位を目標としているのか。
- 昨年は4単位として実施した。
- 地域のニーズに合わせた講座を実施することが求められている。2日講座でも良いという地域があれば別と思われるが、事前ヒアリングでは2日は難しいとの声が出ているため、カテゴリー別でも受講が可能という部分も考える必要があると思われる。
- プログラム・カリキュラム開発としては望むが、実際にはカテゴリーに分けることもできるモデルカリキュラムとして使い勝手の良い単元化できるものが成果と思われる。
- 整理すると、90分1コマで実施の方向は変更せずとして良いと思われる。7コマ実施しての8コマ目の履修判定試験は通常の大学・専門学校の形態と同じでこのままで良いと思われる。しかし、社会人のニーズに対応するとなるとCPDの認定を取ることを目的とした講座として、日本建築士連合会には1日単位として申請する。
- 受講者へのテキストの配布はどうなるのか。
- 実際の講座はどうしても飛ばすことが避けられないと思われるため、実証講座としてのテキストはフルセットで用意し配布する。
- 講座内容を1日に変更してはどうか。
- やはり、この講座を考えると2日間の内容で作成して欲しい。普及を考えると、社会人の方に対して、学び方が色々選択できることが可能になるようにしたい。
- ・2つの講座内容を見ると、たまたまではあるが関連性が高いので「住環境エネルギー講座」の講座を実施し、その後「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」を実施する方向ではどうか。
- 講師の予定によりこのような講座の開催時期の順番となっている（配布資料A参照）。
- ・「住環境エネルギー講座」は、本来、2日間として必要だが、社会人への対応としては1日講座が望ましい。分割して活用しても使えるものにしたい。
- 実際には、HPに掲載してどこの学校でも使えるようにしたい。2日間のフルセットが求められるものに、対応しなければならない。2日間必要なものが求められているものは作らなければならない。ただ、昨年も実証講座運用

については、無料にも関わらず2日間の内容ということで2日間行ったが、2日目の参加者が1日目の半数以下となった経緯がある。

→成果物は2日間のシラバス・コマシラバスをベースとして作成し、実証講座については1日講座として検討して進める方向でお願いしたい。

→1日コースで実施すると、1～4コマの部分を圧縮し、4～7を実施する。募集する段階での期待値もあるため、どのようなボリュームにするのが妥当なのか。

→ある程度のコマシラバスと試験の内容がまとまった時点で各地域の団体にヒアリングし、実施する。

→時期的には、10月1日からのCPD認定講座としてなるため、そこからボリュームの部分などについて始める。

1日講座としての組み合わせは、現時点では分からないため、各地域のWGでの会議結果によって決定する。

1日講座となる場合には、別に授業シートを作成することが必要と思われる。

→講座の時間延長は可能なのか。1～4コマの授業と5～7コマの授業の講師が代わると思われる。

→基本的には延長無しでお願いしたい。

・「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は同じ対象者のように思えるがどうなのか。

→被る可能性はあるが、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の方は設計技術者向けでレベルが高いので、対象者としては基本的には被ることはないと思われる。

→1コマの総論の部分は国の方向性・考え方を取り入れているので、この部分は欠かせないと思う。

→圧縮については実証実験九州WGで検討していただきたい。

→2日講座を1日講座にすれば30～40人の受講者が見込める可能性が高いということで、圧縮の方向性で進める。

・環境・エネルギー分野の建築系の専門書は整理されていない状況で見当たらない。建築分野の一部分の環境・エネルギー分野という内容はある。よって、このような取り組みは必要と思われる。

・このような取り組みは、60代を迎えている方々やその後の方々の次の活躍の場と考えている。

講座の内容に、木材を使用する場合には森林整備と空き家問題等、新しい動向と課題を少し取り入れてはどうか。オリンピックの競技場は各地の木材を使用するためその地域情報として取り入れて次の未来に繋げる内容として取り入れてはどうか。

→エネルギー情勢や間伐によるリサイクルの問題は、その中から出てくる可能性が高い。テキスト開発の参考としたい。

→岡山や高知などはこの内容は取り入れられると思われる。

・本日の会議結果として、実証講座の「住環境エネルギー講座」は2日のカリキュラムを開発するが、CPD認定講座としては社会人に配慮し1日で開催する。内容については、実証実験中国・四国WGと実証実験九州WGの会議

で方向性を決定する。「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は、計画の通り1日で開催することとする。

今後の各地域のWGの会議は、実際の主催者の専門学校で開催し、事務局も同席します。本日は、活発なご意見ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	地域版テキスト開発WG会議（第2回）
開催日時	平成28年9月6日（火） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今井秀雄、川瀬健介、小泉雅生、佐々木 章、佐々木進市、佐藤孝史、高瀬恵悟、藤本晴男、吉川隆治、依田浩敏（計10名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山口奈津（計1名） <p>（参加者合計11名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CPD申請状況をはじめ、テキストの内容と講座案内の進捗状況について確認することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年9月6日（火）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）CPD認定講座申請状況、テキスト開発スケジュールの説明 等 （2）住環境エネルギー講座進捗状況 – シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 （3）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座進捗状況 – シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 （4）講座案内の確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 資料A：CPD認定講座申請書（2講座） ・ 資料B：テキスト開発～実証講座までのスケジュール ・ 資料C：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等 ・ 資料D：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等

・資料 E：講座案内見本

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木の挨拶と開催の言葉で第二回の地域版テキスト開発WG委員会会議が開催された。

- ・これまでの進捗状況の確認とご意見をいただくことを中心として進めていきたいと思います。
- ・はじめての参加委員の小泉先生、依田先生、佐藤先生、からの挨拶が行われた。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) CPD認定講座申請状況、テキスト開発スケジュールの説明等（配布資料A、B参照）

- ・第一回の地域版テキスト開発WG意向で、CPDの申請を行った。
- ・配布のテキスト等は抜粋して配っている。
- ・先月に配布資料CとDを送って申請を行った。今回もレベル的に問題はないと思われ、認定の承認は得られると思われる。最終的には、今月の25日頃に内定が降りると思われる。その後、10月1日から正式に案内できる。もし、修正がある場合には、微調整程度である。現段階では、特に問題は見られないとの連絡を受けている。
- ・各地域の専門学校が主催者となって実施してもらう。本会議後に正式に決定して行う。岡山は中国デザイン専門学校、高知は高知情報ビジネス&フード専門学校、福岡は麻生建築&デザイン専門学校で実施する。
- ・受講者の募集は、建築士会をはじめ、経済同友会を含め、実証講座を実施していく。
- ・2講座とも日時と開催会場は決定している。この流れでテキスト開発を行い、10月末までに作成する。募集をかける段階になっている。
- 「住環境エネルギー講座」の高知の講師が変更になる。依田先生と佐藤先生になる。
- 講座内容が同じであれば、講師変更は問題なし。
- 岡山は藤本先生と佐藤先生、福岡は佐藤先生と依田先生となる。
- 事務局は確認をお願いします。
- 佐藤先生は事務局に確認をしてください。依田先生は次回の高知会議にご出席の際に確認願います。
- ・講師の先生方についてスケジュール的には大丈夫か。
- 特に問題はなし。

(2) 住環境エネルギー講座進捗状況 - シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等（配布資料C参照）

- ・当初では、2日間を想定していたが、なかなか参加できないだろうとして1日講座に短縮し、環境カウンセラー全国連合会のご協力により、シラバス・

コマシラバスを作成した。テキスト開発は、近畿大学の依田教授を中心に作成した。

- ・ 8コマ→6コマに圧縮した。総論とライフスタイルを統一、計画(1)、(2)と分かれていたものと統一して圧縮した。抑えてもらいたい内容は残す方向で圧縮を行う。太字とアンダーラインの箇所は、ポイントの部分になる。内容が多いため、重要なポイントを中心に割愛しながら講義を進めて行く。
 - ・ エネルギー白書や環境白書から重要な部分を抜き出しながらテキストの作成にあたる。
 - ・ 4～5の評価の最初の部分は、前回の議事録でも分かることから、内容が重なる部分もあるため、基礎的なものとしてなるべく簡単に説明をしていく。
 - ・ 本講座においては、受講者のアンケートを取る。事前にアンケート内容を企画推進委員会で確認する。
 - ・ どの程度深く掘り下げて実施するのが、「新省エネ基準」と「住環境エネルギー」の違いとなる。「新省エネ基準」は平成28年度改定で実施する。
 - ・ シラバス、テキスト類については、依田先生が中心となって作成してもらう。
 - ・ 過去に作成した成果物について、データが欲しいものがあるが大丈夫か。
- 各執筆者には確認を取ってテキスト作成と印刷しているため大丈夫である。

(3) 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座進捗状況

ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等(配布資料D参照)

以下、講師不在のため、事務局からの説明と意見交換が行われる。

- ・ 2020年の省エネ基準の義務化に向けた講座である。
 - ・ 昨年、CPD講座として「住宅省エネルギー施工技術講座」との関連で、本年度はニッチにはなるが、設計技術講座となる。施工と設計は関連しているため、必要と思われる内容である。
 - ・ 1コマ60分の4時間講座となる。
 - ・ 1～2コマ目で座学、3コマ目は手計算の演習が入り、4コマ目はワークショップとなっている。
 - ・ テキストレベルについては、昨年と同じようなものとなっている。「住環境エネルギー講座」の依田先生とは違い、PPTを中心として作成する方向である。
 - ・ 現在、材料集めを行い、来月に入り校正を含め進めている状況である。
 - ・ 電卓使用とあるが、中身についてはどうか。
- 現段階では確認が取れていない。
- 率の計算が入れば、関数計算ができる電卓が必要なため、講師に確認が必要。
- ・ ワークショップについてはどうか。
- 加藤先生がワークショップ用のシートを作成して行う。
- ワークショップについて講師と詰めるように。
- ・ 3コマ目の外皮計算等の計算はなかなか時間的に難しいと思われるがどうか。
- 講師の加藤先生の中では、30分程度を想定している。

- 一次エネルギー消費計算をじっくりするのが時間的に良いとは思いますが、加藤先生の考えがあつてのことだと思う。
- 消化不良の講座とならないように講師の加藤先生に伝える。
- ・シラバスに評価方法が入っていないので、明記するようにしてください。CPDの単位付与の条件として、講座案内に明記しておく。
- 履修判定試験の明記については、これから入れる。
- ・すべてを受講しないと単位付与はできない。との文言を入れる。
- ・講師の単位数についてはどうか。
- CPD講座の講師になるとその講座の単位数がもらえる。加藤先生については明確であったため入れている。「住環境エネルギー講座」については、講師のコマ数の振り分けが分からなかったため入っていない。修正は可能である。
- 単位が必要であれば会議後に打ち合わせをお願いする。

(4) 講座案内の確認等(配布資料E参照)

- 事務局からの説明と意見交換が行われる。
- ・CPD講座としては確定ではないため、講座案内では申請中ということで案内をはじめている。
 - ・配布資料は2講座とも、高知は実施するため、高知の講座をお配りしている。「住環境エネルギー講座」は履修判定試験がスコア制を取り入れている。講座時間については、アンケート回答の10分を考慮して開催時間に盛り込んでいる。同様に「新省エネ基準」も同様に作成している。
 - 「新省エネ基準」の履修判定試験の内容を明記して欲しい。
 - 「住環境エネルギー講座」の講師写真はどうか。
 - 写真を掲載する方向でお願いする。
 - 環境カウンセラー全国連合会の前にNPO法人を入れてください。
 - 了解しました。
 - CPDについては、建築士会を入れないで良いのか。
 - あえて入れる必要はないと思われるが、確認をする。
 - リンクのアドレスを明記することができるのか確認をして欲しい。
 - ・土佐経済同友会の後援をもらうため、このパンフレットが欲しいとの声がある。土佐経済同友会を中心に募集をかける。
 - 今週末までにプロフィール等を作成する。
 - 環境カウンセラー全国連合会ももらえるのか。
 - 企画推進委員会へ内容を確認してお送りする。依田先生と佐藤先生からプロフィール情報をいただいてからにする。
 - エコピープル支援機構への協力も事務局は確認する。
 - ・商工会議所をはじめ、地元の同友会のご協力があれば、それなりに受講者が集まると思われる。
 - ・2020年の義務化目標の表現を確認した方がよいと思う。住宅という文言を入れた方が良いかもしれない。
 - 講師の加藤先生に確認を取る。
 - ・講座の特徴の文章を考え直して欲しい。

- 特徴ではなく、背景といったものが良いと思われる。タイトルを変える方向で修正する。
- 「省エネ基準」と「住環境エネルギー」の文章を大きく変えて欲しい。
- 4～6行目の文章を変える。依田先生と佐藤先生との打ち合わせで文章を決定する。
- ・今後については、パンフレット修正を含め確認を行っていく。

これらの講座がCPD認定の承認が受けられれば、色々な地域で活用できることを目指す。本日は、長時間にわたりありがとうございました。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	地域版テキスト開発WG会議（第3回）
開催日時	平成28年10月11日（火） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今井秀雄、川瀬健介、佐々木 章、佐藤孝史、澤登信子、藤本晴男、 吉川隆治、依田浩敏（計8名） <p>③ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山口奈津（計1名） <p>（参加者合計9名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実証講座に向けたCPD申請状況をはじめ、テキストの内容と講座案内の進捗状況について確認することを目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年10月11日（火）15:30～17:30 会 場：専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）CPD認定講座の申請状況 （2）住環境エネルギー講座進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の最終確認、テキスト案の最終確認 等 （3）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の最終確認、テキスト案の最終確認 等 （4）実証講座募集要項の最終確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 資料A：テキスト開発～実証講座までのスケジュール ・ 資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス、テキスト抜粋 等 ・ 資料C：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス、テキスト抜粋 等 ・ 資料D：実証講座案内見本（各地域版）

・追加資料：評価・検証

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木の挨拶と開催の言葉で第三回の地域版テキスト開発WG委員会会議が開催された。

・今年度この会議は最終回となる。テキスト内容をはじめ、シラバス・コマシラバスの確認を行う。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) CPD認定講座の申請状況（配布資料A参照）

・かねてより課題となっていたCPDの承認が得られた。「住環境エネルギー講座」5単位、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」4単位となる。

→認定承認はいつ頃か。

→正式には10月1日だが9月25日頃事前に確認は取れていた。

・「新省エネ基準」は、高知10月25日、福岡11月5日の2回実施。半日講座。

・「住環境エネルギー講座」は、高知11月12日、岡山11月19日、福岡11月26日の3回実施。1日講座。

・受講者集めとしては、高知では地域の建築士会、建築事務所協会、中小建築業協会等に案内をしている状況である。

・福岡と岡山の実証実験WG会議は、明日と明後日で最後の会議を行い、高知と同様の案内活動を行ってもらうように話をする。

(2) 住環境エネルギー講座進捗状況 —シラバス・コマシラバス内容の最終確認、テキスト案の最終確認等（配布資料B参照）

・急遽シラバス・コマシラバスの修正が入ったものをお配りしているので、違いの変更をご確認願います。

依田先生より説明が行われた。

・8コマ→6コマに変更した。また、1コマ総論とライフスタイルを集約、2コマの計画(1)、(2)を集約した。3～5コマのコマ主題細目については、3コマの設備①～④、⑤～⑦、⑧～⑩を集約し①～③とした。4コマの施工は①～②、③～④、⑤～⑥を集約して①～③とした。5コマの評価は、①、②～④、⑤～⑧、⑨を削除、⑩として整理し①～④として集約し、煩雑さを解消した。

・3コマ目の設備に機器の内容としては、オリジナルテキストとサブテキストとして無料の最新版2016年夏の省エネ性能カタログ(資源エネルギー庁 発行)を配布する。テキスト内容とし作成すると枚数が多くなり煩雑となるため、このような手法をとる。

このカタログはHPからもダウンロードできるが、資源エネルギー庁に行けばもらえるはずであるので、取り寄せていただきたい。

履修判定試験については、テキストに無い基礎的なものを中心として問題も

含まれているが、常識的な問題である。講座以外の出題割合としては、3割程度と思われる。

- ・カタログについては、事務局は手配できるのか。
- 資源エネルギー庁に行けば良いのであれば大丈夫である。購入するのか。
- 無料で配布しているのでお金は発生しない。
- 各地の省エネセンターには置いてあると思われる。
- 資源エネルギー庁に明日行くので聞いてみる（藤本）。
- カタログの在庫の有無でシラバス・コマシラバスを完成させる。テキストの作成はいつ頃出来るのか。
- 最低でも1週間前には必要。10月31日でお願いする。事務局へ送ってください。
- ・履修判定試験はテキストに入れず、別途作成するのか。
- 履修判定テストは別に試験問題を作成する。講座範囲外からでも出題してもよいのか。
- 応用的な部分も可能である。ただし、必要最低限度必要な知識の部分を出題してください。この点は、受講者の方からクレームがないように講座前に説明する。

(3) 新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座進捗状況 シラバス・コマシラバス内容の最終確認、テキスト案の最終確認等（配布資料D参照）事務局から説明が行われた。

- ・2020年に義務化される省エネ基準に向けた設計講座である。
- ・平成28年改正された省エネ基準の内容を反映している。
- ・省エネ基準の解説、概要から入り、外皮計算、性能標準の基準の判定フロー、用語解説、最新の省エネ基準の計算、判定手法となっている。先日、小泉先生から時間のことを聞かれたが、2コマ目から行うので時間的には問題はない。と講師から連絡を受けている。
- ・3コマ目は、電卓を使って手計算の演習問題を行った後、企業事例としてCADソフトで外皮計算等ができるということを説明する。福井コンピュータがその説明を行う。
- ・4コマ目は、ワークショップを行い、グループワークでグループ毎に発表して講師が講評して終了となる。
- ・省エネ基準の義務化に向けた国土交通省から発表されている中から整理し、参考資料として1つにまとめ受講者に配布する。
- ・作業としては、まだ50%ほどできている状況で執筆活動中ではあるが18日を最終チェック日と設けており、その日に終了する。
- 出典等は、個々のページに必ず入れることに注意してください。テキストについては、事務局一任ということで進めますので委員の皆様にはご了承願います。

(4) 実証講座募集要項の最終確認等（配布資料D参照）

- ・「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」（高知・福岡）4時間、4単位CPD認定講座と「住環境エネルギー講座」（岡山・高知・福岡）1日、

5単位CPD認定講座の5枚確認願います。講座時間、主催、後援、講座案内、講師、会場、募集人数、申込み締め切り、受講料無料のご確認願います。また、担当・問い合わせ先は、それぞれ地域の学校の先生となっている。講座時間は10分程度を考えているので、その分も含めて明記している。この講座案内をそれぞれの地域の専門学校で受講者を集めてもらう。

以下、500問の問題作成について以下の意見交換が行われた。

500問問題作成については、総論、ライフスタイル、設備、施工、評価が終わっているが、計画の部分が未完成状態。

・建築士の過去問から持って来ているものもあるが大丈夫か。

→出題の年度を入れていないが。

・建設業法は完全にオリジナルで作成した。

・法律関係はオリジナルで、設備関係は家庭の省エネエキスパートをかなり参考とした。一問一問参考図書に入れる必要か。

→事務局と詰めてください。て、に、お、は等の統一が一番大変な部分と思われる。

→問題についても著作権等の問題もあることに注意してください。

→昨年度作成した検定問題を参考として、500問については時間があるため、事務局と詰め進めて欲しい。

【第三回実証実験中国・四国WG【高知】会議報告】

・本来であれば、CPD認定講座の承認が得られれば情報公開されるが、日本建築士連合会の事務手続き上、情報公開に時間が掛かるということであったため、その旨伝えた。高知県の建築士会会長へ龍馬学園の上岡先生から要望があり、直接連絡をとった。

・受講者募集手法としては、建築士事務所協会、中小建築業協会へ建築士会会長より、直接働きかけてもらっている。土佐経済同友会へ龍馬学園の佐竹理事長より働きかけてもらっている。

・申込者の管理については、上岡先生からある程度まとまった段階で連絡を受けることになっている。

・高知建築士会としてのCPD認定講座としての感想は、「新省エネ基準」については国土交通省の推進もあって、やらなければならない内容。「住環境エネルギー講座」については、建築としてはこのような講座を行っていきたいとの言葉をいただいた。

・地図についてはどうか。

→会議でも申込書の地図が分かり辛いとの意見が出たので、受講票には新しい地図を掲載することとした。

→福岡の麻生建築さんも同じように変更をお願いしたい。

次に評価・検証について説明された（追加資料：評価・検証）。

・企画推進委員会において、実証講座後に評価・検証を行う。委員は、企画推進委員会から4名程選定する。

・18日に企画推進委員会会議において各WG進捗の管理と検証の内容について行う。

検証においては、評価シートとしてこの事業が適正かどうか「プログラムの内容」、「会場」、「講座時間」等をはじめ、授業の適正として「人材像の明確化」、「属性」、「募集手法等」等、教育プログラムの内容として「テキスト」、「サブテキスト」、「シラバス・コマシラバス」、「講師」等といった項目で作成する。

また、受講者の受講前と受講後についてアンケートもとる。

このような内容で評価・検証等を行う。評価委員としては、教育界、業界団体、企業といった方々からの意見を聞き、最終的な成果報告書へ反映する。
・環境カウンセラー全国連合会、及びエコピープル支援機構で募集協力をお願いする。事務局より申込書等のデータを送る。

本日はお忙しい中ありがとうございました。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【岡山】会議（第1回）
開催日時	平成28年8月19日（水） 15:30～17:30（2h）
場所	中国デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・佐々木 章、田口一子、中山裕志、藤本晴男、吉川隆治（計5名） ② オブザーバー ・平田真一（計1名） （参加者合計6名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】 ・実証講座実施のWG委員として、日程と講座内容や進捗状況をはじめ、CPD申請状況やシラバス・コマシラバス内容、テキスト原案を周知することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】 日 時：平成28年8月19日（水）15:30～17:30 会 場：中国デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:30 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）実証実験中国・四国WGの取り組み内容等について （2）年間スケジュールの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認 （3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・（H28 文科省 中核）_実施体制 ・資料A：年間スケジュール ・資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス 等 ・資料C：実証講座案内（案）

【内 容】

1. 開会 . . .

事業責任者の小山学園理事佐々木より会議開催の言葉で第一回の実証実験中国・四国WG【岡山】会議が開催された。

- ・本事業は成長分野である中核的な専門人材を養成する文部科学省の委託事業の「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業で分野は「環境・エネルギー分野」で、平成23年度から委託事業を行っている。
- ・本年度は社会人を中心とした学び直しの実証講座を実施する。
- ・建築分野従事者を対象とした「住環境エネルギー講座」として、建築関連に携わる必要最低限の環境・エネルギーの知識を修得する講座を実施する。
- ・この講座は高知・岡山・福岡の3地域で実施する。また、日本建築士会連合会CPD認定講座として実施することを目指し、2年計画の取り組みに対しての初年度事業となる。
- ・次に委員の自己紹介が行われた。

2. 議事 . . .

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証実験中国・四国WG【岡山】の取り組み内容等について（配布資料「(H28 文科省 中核) _実施体制」参照）。

- ・本事業は、企画推進委員会を本部として、以下、地域版テキスト開発WG、実証実験中国・四国WG、実証実験九州WGの体制となっている。実証実験中国・四国WGには【岡山】と【高知】の2つがある。
- ・地域版テキスト開発WGで作成したテキスト等を使って、この岡山地域で実証講座を行ってもらおう。また、主催となっていただいた上で、受講者募集と講座会場をお願いする（配布資料C参照）。
- ・実証講座の人数はどの程度を目指しているのか。
→多くて40名を想定しているが、20~30名を目指して集めていただきたい。
- ・講座の正式な案内については、認定の承認が奇数月末のため9月末となり、10月1日から行える。
- ・岡山の建築士会は、今は知らないのか。
→今は知らない。
→事前案内に行っても大丈夫か。
→大丈夫である。
→CPD単位は案内に明記するのか。
→明記するが、認定の承認を得てからとなる。

(2) 年間スケジュールの説明（配布資料A参照）

- ・会議は、本日を含め3回行う。開催日時は明記の通り。
- ・9月の2回目の会議はCPD認定状況の確認等を行う。
- ・事前にある程度許可が得られれば、正式にパンフレットを作成に入る。CPD認定マークを入れた正式な案内は、10月1日からとなる。
- ・実証講座の実施日は、11月19日にお願いしたいがどうか。
→大丈夫である。

- 車の駐車場はどうか。
- 学生が使用している駐車場が1日350円だが、近くにあるのでそこを利用してもらおう。
- 駐車場のデータをいただければ案内に掲載する。
- 後日、データを送る。

(3) 住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認(配布資料B参照)

- ・1日講座として1コマ60分×5コマ+履修判定試験となる。当初2日間の予定であったが、1日に圧縮した内容となっている。総論とライフスタイルを2コマ→1コマ、計画(1)と計画(2)2コマ→1コマに圧縮した。この点については、本講座のテキスト作成者でもあり、他の2地域の講師でもある近畿大学依田教授に確認をした。
 - ・日本建築士連合会に既にシラバス・コマシラバスを投げかけている。何か修正等があれば連絡が来るようになっている。
 - ・履修判定試験は、スコア制を導入した理解度テストとして実施し、建築分野に必要な知識を習得してもらうこととする。
 - ・コマ毎に10分間の確認小テストを行う。
 - ・シラバス・コマシラバスの内容で不明な点があれば後日でも構わないので、連絡ください。
 - ・テキストは当初予定の2日分で作成して、実施は1日の内容となる。
 - ・テキストは事前に確認できるのか。
- 10月末までを作成期間として設けている。事前に確認は可能である。

以下、意見交換が行われた。

- ・講師は、ここにご出席の藤本先生にお願いする。
- このような講師を数多く経験されているのか。
- コンサルタントを本業としており、累計ではあるが700回ほど行っている。
- 岡山地域は多いのか。
- 内容的に他の地域の方が好まれるので、他地域で話をすることが多い。
- 岡山地域のCPD認定講座として、あまり耳にすることがない内容をお願いしたい。
- 講師としては、環境面と技術面を分けた2名を考えている。
- 岡山地域の建築士は、環境面を考えている方が多いのか。
- 環境を考えている方もいるし、考えていない方もいる。全員が考えているとはいえない。
- ・如何に省エネ、太陽光だけではなく如何に電気を創るのかを考えていくことが大事であると思う。地球レベルとして色々あると思われる。
- ・対象は建築士ということなのか。
- 対象者は建築士が中心にはなるが、その他建築関係従事者であり、2020年の省エネ基準の義務化の基礎になる講座である。技術者的には、もう一つの「新省エネ基準の講座」が魅力的ではあるが、この基礎部分を理解できていないと分からない内容となっている。年々環境を学びたいと考えている方が

	<p>増えてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講座はCPDの単位はいくつか。 →5単位となる。履修判定試験は含まれない。 ・日本建築士連合会のHPに反映される。 →目の付け所が良いと思われる。 →御校でもCPD認定講座として扱える講座である。 →定期的に卒業生にも新しい情報を提供できる。 →やはり、無料講座といっても人集めが問題となる。 →途中参加でも良いのか。 →途中参加や退場でも構わないが、CPDの単位付与はできない。履修判定試験まで受けて単位付与になる ・履修判定試験のスコア制は、500問の試験問題を用意して、そこからピックアップして実施する。その都度行うのではない。試験問題と解答と解説を常に用意しておく手法をとっている。 ・3地域の内容は同じなのか。 →ベースは同じであるが、地域の社会人学び直しということもあり、地域特性の部分は違う。 ・講座案内の申込先と問い合わせ先についてお願いしたい。 →ご担当者と連絡先を明記したいが大丈夫か。 →担当者は中山先生で、電話とEメールも明記OKである。 ・修了証書も校長名か理事長名でお願いしたい。講座終了後にこちらで受講者名を入れて作成し、御校印押印後、返送いただいた上で、こちらから発送する流れ。 ・講師陣をすでに入れて欲しい。近畿大学の依田先生も入れて欲しい。 →今回は、あくまでたたき台であるが、藤本先生と依田先生の2人で講師は決定でよいのか。 →これから検討となるが、今のところ入れて欲しい。 →写真入りで作成しても構わないか検討願います。 ・今年の実証講座について、第三者評価を取り入れる。企画推進委員会から選定して行うように計画をしている。 <p>【確定・確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座 <ul style="list-style-type: none"> 「住環境エネルギー講座」11月19日（9：30～）1日講座 講師：2人体制 ・講座案内 <ul style="list-style-type: none"> 配布資料Cを修正する。 担当者：中山先生 Eメールアドレス：中山先生 駐車場地図：後日データ受け取り ・修了証書 <ul style="list-style-type: none"> 理事長名、もしくは校長名で講座終了時まで確認を行う。
--	---

本日はありがとうございました。何かございましたら、事務局へ連絡ください。
との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【岡山】会議（第2回）
開催日時	平成28年9月15日（水） 15:30～17:30（2h）
場所	中国デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・田口一子、中山裕志、藤本晴男、吉川隆治（計4名） ③ 事務局 ・山口奈津（計1名） （参加者合計5名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】 ・実証講座実施の日程と講座内容やCPD申請状況、シラバス・コマシラバス内容、テキスト作成状況の確認することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】 日 時：平成28年9月15日（木）15:30～17:30 会 場：中国デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:30 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実証講座実施日時の確認 (2) CPD認定講座申請状況 等 (3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 (4) 講座案内の確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座実施日時 ・資料B：CPD認定講座申請書 ・資料C：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等 ・資料D：講座案内見本

【内 容】

1. 開会・・・

事務局より会議開催の言葉で第二回の実証実験中国・四国WG【岡山】会議が開催された。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証講座実施日時の確認 (配布資料A参照)

・岡山地域は「住環境エネルギー講座」を実施。8コマ各90分の2日間という当初の予定であったが、社会人は2日間の講座は難しいとの声がこちらの岡山地域をはじめ、他の地域からも出たため、1日講座6コマ各60分とした。講師は、藤本先生と一級建築士と技術士である佐藤先生の2人で行う。

(2) CPD認定講座申請状況等 (配布資料B参照)

・8月24日に申請した。
・この書類は龍馬学園様にはなっているが、これは龍馬学園様がはじめにきまっていたためそのようにした。しかし、同じ講座内容であれば他の地域でもCPD認定講座として実施できるので、問題は無い。

→講師名が違って問題はないのか。

→講師が違って問題はない。

(3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等 (配布資料C参照)

・総論とライフスタイルの2コマを1コマに圧縮、計画の(1)、(2)の2コマを1コマに圧縮、その他のコマは技術的な要因が高いため、時間を圧縮した内容となる。テキストは2日間のものを作成するが、講座としては1日で実施する。

藤本先生から担当する1コマ部分の講座の概要が説明された。

・テキスト等の作成は学術的なものを含め、依田先生が総括責任者としてまとめて作成する。
・なぜ今、バケツをひっくり返したような集中豪雨が各地で起こっているのかなど降るもとなる部分話を話していく。
・先進的な事業者は、水害等を想定していることも紹介する。
・COP21なども入れて話をする。
・パリ協定のものをそのまま実施しても、大幅に目標に届かない。という部分も話をしていきたい。
・国の規制方針と補助金等の紹介、木造の空き家対策等も取り入れる方向である。等の説明が行われた。

(4) 講座案内の確認等 (配布資料D参照)

・講座内容については企画推進委員会で決定する。また、CPD申請中という文言については、日本建築士連合会へ確認を取る。

次に、事務局より、受講者集客において講座案内説明の後、意見交換が行われた。

・集客はどうするのか講座案内について意見を聞きたい。前回の案内では、もう一つの講座「新省エネ基準」の基礎的な部分という位置付けの講座でもあることから、「省エネ基準」に偏ったものとなっていた。作り直した講座案

	<p>内は「省エネ基準」は使用しないで作成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座内容は、シラバスの内容を入れて作成している。最後の履修判定試験については、スコア制で選択問題が多いため、想定より早く終わる方があるので、早く終わり次第、帰って良い事として表示した。ただし、CPDの単位としては5コマまでが単位付与の内容となるため、このように試験を途中退出しても問題は無い。 ・ 日本建築士連合会からは、ほぼ認定が出来ると連絡を受けている。しかし、一般の企業が同じように申請しても、事前にこのような連絡は無い。 文部科学省の委託事業ということと、講座のシラバス・コマシラバスをはじめ、テキスト内容のレベルが認められているから事前に連絡が入る。 ・ CPD認定講座申請中とあるが、正式には10月1日からであるため、現段階では申請中というようにしている。 ・ 申請しているシラバス・コマシラバスに修正があれば、25日頃に連絡が来る。 ・ 11月19日(土) 9:30~、アンケートも含めた時間で表記。他に、受講者募集にご協力後援として入れることができると考えているがどうか。 →建築士事務所協会さんをはじめ、声を掛ける。県内でこのような講座を実施する場合は、入れることが多い。 →この申請中の案内はいつ頃できるのか。 →来週中にはできる。 →その後、正式なものをいただけるのか。 →申請中と並行して作成するので、 →まずは、岡山建築士会へ案内する。その後、関係各所から行くと思われる。 →岡山県建築士事務所協会へ毎月会報誌を発送しているが、それはできるのか。 →発行日はいつなのか、また、何部発送しているのか。締め切りのタイミングはどうか。ということは分かりますか。 →月末に業者に渡して出来次第発送する。印刷物は最終週の頭までにももらえれば、10月に発送できる。 →確定したものから、ということ考えると難しいと思われる。 →後援等の関係もある。 →来週の頭には団体から聞いてとなると、連休もあるため、難しいのではと思う。 →宿題として持ち帰って検討する。 ・ 6コマまで受講してはじめて5単位付与となる。途中出席や途中退場では、単位付与はできない。 →認定は修了証書を発行するのか。 →修了証書と日本建築士会 →履修判定試験を受けて、アンケート回答までで終了。 ・ 駐車場の地図がないが、入れるのか。 →今のレイアウトだと地図までは入らない。 →パッと見、引きつけ部分は弱いと思われる。 →文科省委託事業ということで、文字数が多く、賑やかになってしまっている。
--	---

- このような感じではできないのか（後援会パンフレット）。
- 本来であれば、そのようなものである。
- 学校の地図と駐車場の地図を入れて作成する。
 - ・担当は中山先生であるが、一覧表はどうするのか。
- 事務局で作成する。
- 申込みがあったけど来られない方や申込みはしていないが来る方もいると思われるがその対応はどうするのか。
- CPDの番号はあるのか。
- 一級建築士番号やCPD番号があるため、そのことを受講票に明記して申込者に連絡する。個人情報のため、当日聞いて控える。
 - ・当日は、全体のスケジュールの説明をするが、事前にスケジュールをお申込みの方々にお送りする。
 - ・休憩時間はあるのか。
- コマ毎に10分の休憩を取っている。
 - ・履修判定試験は、講座で話した以外の内容も含まれる。スコア制ということもあり、また、建築分野で環境・エネルギー分野の必要な知識を習得するという広範囲のため、このようになる。取得点数の合否によって単位付与ではないため、講座の前にはこの点も説明する。
 - ・締切日について、講座の1週間前と考えて11月11日頃に設定したいと思う。
 - ・定員に満たない場合はどうなのか。
- 定員に満たない場合でも開講する。

【確定・確認事項】

- ・実証講座
 - 「住環境エネルギー講座」
 - 実施日：11月19日
 - 締切日：11月11日
- ・募集人数について
 - 募集人数に満たない場合でも開講する。
- ・講座案内について
 - 全体的に文章を考え直す。
 - 駐車場の地図を入れて作成し直す。
 - 後援等の記載について中山先生に願います。
- ・岡山県建築士事務所協会会報誌について
 - 持ち帰り検討する。
- ・受講者数について
 - 募集定員に満たない場合でも開講する。

【会議風景】



第二回実証実験中国・四国WG【岡山】
会議を終了します。本日はありがとうございました。
とのお言葉で散会となった。

以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【岡山】会議（第3回）
開催日時	平成28年10月13日（木） 15:30～17:30（2h）
場所	専門学校東京テクニカルカレッジ 会議室 中国デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・高瀬恵悟、田口一子、中山裕志、藤本晴男、吉川隆治（計5名） （参加者合計5名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <p>・実証講座実施に向けた、日程と講座内容や進捗状況をはじめ、CPD申請状況やシラバス・コマシラバス内容、テキスト原案等の確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年10月13日（木）15:30～17:30 会 場：中国デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認 (2) 実証講座の募集方法と状況の確認 (3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座案内 ・資料B：実証講座案内の受講票 ・資料C：CPD認定講座申請書 ・資料D：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等

【内 容】

1. 開会・・・

専門学校東京テクニカルカレッジ校長の高瀬より会議開催の言葉で第三回の実証実験中国・四国WG【岡山】会議が開催された。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認（配布資料A、B、C参照）

・CPDの承認が得られたこともあり、デザインを若干修正かけて作成した。本事業の企画推進委員会委員へ1週間程度の時間をかけて確認を取り、その中で作成した。

・時間については、10分多めに表記している。それは、アンケートの回答時間にあてている。

・1～6コマの概要明記、履修判定試験は、スコア制で60分程度の内容を実施する。環境カウンセラー全国連合会に依頼している問題文の中から選定して行う。

試験内容は、講座で行った内容からだけでなく、それ以外からも知っておくべき基礎知識の確認として出題する。

合否による判定試験ではなく、あくまでも理解度チェックのための判定試験ということを受講者には説明する。

・問い合わせ先・担当は中山先生となっている。

・受講票については、駐車場までの地図が小さいとは思っている。スケジュールも明記している。

→団体名が違うところがあるので修正してください。

→再度、確認をする。

→CPD関係の受講者は分かっているとは思っているが、CPD単位取得の条件をもう少し強い表現にした方がよいと思う。

・駐車場の地図が小さいと思われるがどうか。

→やはり小さいと思う。

→基本はEメールを中心にご連絡するため、別添でお送りするようにする。

・会場はどこになるのか。

→受講者の人数により教室が変わるため、当日ではだめなのか。

→当日、受付の際に分ければ大丈夫である。

・主催が第一平田学園になっているが、学校名の方が知られているので中国デザイン専門学校が良いと思う。

→第一平田学園中国デザイン専門学校とする。

・受講票は郵送なのか。

→基本はEメールで行う。届いた、届いていない、などの事が過去にあったため、Eメールで対応したい。

・講座案内は印刷するのか。

→印刷経費を計上していないため、今回は印刷を見送る。

(2) 実証講座の募集方法と状況の確認

- ・前回の仮の案内をいくつか置いてきている。団体名などの修正が出来次第、案内を行う。
- 今、修正したのでデータをお送りします。お忙しい中大変恐縮ですが、ご案内をお願いします。
- どの程度集まるかが問題。
- 高知では、この建築士会会長が内容について関心を示していただいている。

(3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 — シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等（配布資料D参照）

- ・前回から大きな修正等はない。コマシラバス主題細目が煩雑になっていたということで、集約して整理した。
- ・講座内容をもう少し詳しく知りたいという方には、このシラバス・コマシラバスを見せても良いのか。
- それは構わない。もし、もっと内容について聞きたいとのことであれば、ご連絡ください。
- ・無料カタログの省エネ性能カタログ（資源エネルギー庁 発行）をサブテキストとして使用する。これは、本来であれば依田先生が必要な箇所を抜き出して作成するところであったが、テキストのボリュームがありすぎて、現実的にではないとのことこのように対応している。こちらは、藤本先生が東京にお越しの際に、資源エネルギー庁に行っていたら、50部は確保できている。
- 送り先は事務局でよいのか。
- 事務局で取りまとめるため事務局へ送ってください。
テキストの出来は、75%ほどの状況である。
- ・本来であれば、テキストと履修判定試験がある程度お示しできることが望ましいのであるが、現段階では、できているところからお示しをしていくしかないことをご理解いただきたい。

以下、その他意見交換が行われた。

- ・CPD認定講座は承認が得られて、日本建築士連合会のHP上にアップが先方の事務手続き上遅れている。今週中にはアップもしくは来週となるので、お問い合わせの際は、このような状況であるとお伝え願いたい。
- ・受講者の管理については、情報の共有としてEXCELで管理表を作成するので、それで管理していただく。他の2地域と同じようをお願いしたい。
また、申込者の管理だが、申込みがあった際にEXCEL管理表に入力してお送りいただくか、申込票を送って事務局で入力するか
どちらがよいか。
- こちらで入力して送る。
- よろしくをお願いします。お送りいただく場合は、お申込みの都度連絡をするにも、手間がかかるので、1週間に1回管理表を送るようお願いします。
- ・受講票はこちらで行うのか、事務局で行うのか。
- どちらでも構わない。

- 受講票は事務局でお願いしたい。
- 事務局で行う。発行のタイミングは、管理表が送られてきた際に受講票を発行する。
- ・講座の進め方について、PPTとWordテキストを現在考えている。PCについて、依田先生はご自分のものを持参するということであったが、藤本先生はどうか。
- 今はまだ決めていない。
- もし、PC持参が無理なようであればお借りすることは可能か。
- PCをお貸しすることは可能であるが、ご自分の慣れているものが良いと思う。プロジェクターやモニターを手配する。
- PCは持参するようにする。
- ・当日の受付はどこか。
- 玄関で行う。
- ・事務局は前日入で、講座開始前の1時間で大丈夫か。当日オープンキャンパスもあるとのことだったので確認したい。
- 8:30入りでお願いします。
- ・駐車場への誘導も含め、事務局で行う。基本的には、受付1名、駐車場誘導に1名で行う。ただし、オープンキャンパスとの導線が心配である。
- 当日の集まり状況で調整していく。
- ・施設の管理と機材のセッティングと会場の施錠等で御校の方のご協力があればと思うが、会場校さんの負担をなるべく減らしたい。基本的には、他の学校さんも同様。講座が始まる前、セッティングまでと講座終了しての片付けをお願いしている。後は事務局で行っている。
- ・オープンキャンパスの注意事項がございましたら、知らせていただければ、受講者の方へ話をします。自動販売機や喫煙場所等も含め。
- ・学校はお昼が食べる場所が不便であるが。
- 事前に受講者の方へお知らせする。弁当の持ち込みは可能か。
- 可能である。
- ・CPDの公開情報の遅れになっているが案内してもよいのか。
- ご案内はしても大丈夫である。日本建築士会連合会にも電話ではあるが確認を取っている。

来月に入り、メール等にはなりますが、確認をしていきたいと思います。本日はありがとうございました。との言葉で散会となった。

【確定・確認事項】

- ・実証講座
 - 「住環境エネルギー講座」のサブテキストとして、省エネカタログ（資源エネルギー庁 発行）を使用する。
- ・申込み管理
 - 申込者の情報共有とした管理表への記入は中山先生が行い、監理する。1週間1回程度に管理表を事務局へ送る。
 - 事務局は、その管理表に沿って受講票を発行する。基本的にEメールで行う。

- ・会場セッティング等
中国デザイン専門学校が行う。
- ・受付
事務局は8：30会場入り
事務局は、講座管理と受付と駐車場誘導等を行う。
- ・講座案内
中山先生が中心となって関係各所へ働きかける。
- ・PCの持ち込み
講師が持参する。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【高知】会議（第1回）
開催日時	平成28年8月3日（水） 15:00～17:00（2h）
場所	高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・石元 優、今井秀雄、上岡直司、佐々木 章、佐竹新市、西山正晃、 吉川隆治（計7名） （参加者合計7名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <p>・本年度事業の概要と実証実験中国・四国WG【高知】の役割を委員に周知すること、また実証講座の日程と講座内容についての確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年8月3日（水）15:00～17:00 会 場：高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:00 開 会 2. 15:00～17:00 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）実証実験中国・四国WGの取り組み内容等について （2）年間スケジュールの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認 （3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認 （4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の確認 3. 16:55 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:00 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・(H28 文科省 中核) _実施体制 ・資料A：年間スケジュール ・資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス 等 ・資料C：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等 ・資料D：実証講座案内（案）

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木の開催の言葉で第一回の実証実験中国・四国WG【高知】会議が開催された。

- ・本事業は成長分野である中核的な専門人材を養成する文部科学省の委託事業の「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業で分野は「環境・エネルギー分野」で、平成23年度から委託事業を行っている。
- ・本年度は社会人を中心とした学び直しの実証講座を実施する。
- ・建築分野従事者を対象として、新エネルギー基準に関する2020年に義務化される講座と住環境エネルギー講座として、建築関連に携わる必要最低限の環境・エネルギーの知識を修得する講座の2講座を実施する。
- ・高知・岡山・福岡の3地域で実施する。また、日本建築士会連合会CPD認定講座として実施することを目指し、2年計画の取り組みに対しての初年度事業となる。
- ・昨年度、建築・土木・設備職域プロジェクトで実施したCPD認定講座は、受講者より好評が得られたので本年度も同様に実施していく。
- ・次に委員の自己紹介が行われた。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証実験中国・四国WGの取り組み内容等について説明が行われた(配布資料「(H28 文科省 中核) _実施体制」参照)。

- ・本事業体制は、配布資料「(H28 文科省 中核) _実施体制」の体制となっている。企画推進委員会、地域版テキスト開発WG、実証実験中国・四国WG、実証実験九州WGとなっている。この度は、実証実験中国・四国WGの第一回目の会議となる。
- ・実証実験の実施のための会場と受講者集めを主にお願いする。

(2) 年間スケジュールの会議・実証講座等のタスクスケジュールの説明が行われた(配布資料A参照)。

- ・会議回数と日程は、決定している。
第一回は、事業概要の説明の実証講座の内容で進める。A3の内容が本事業のスケジュールの全体の流れとなっている。
色分けでそれぞれの会議開催の日時を示している。高知は紫色で作成している。
- ・建築従事者を対象としているため、繁忙期に入る前の11月までに実証講座を終了したいと考えている。その後、企画推進委員会の委員から選定した評価委員による第三者評価として実証講座の評価の期間と最終的にまとめる期間としている。

(3) 住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の説明が行われた(配布資料B参照)。

- ・履修判定試験は、理解度の確認ということでスコア制を盛り込んだものと

- なっていて、初級・中級・上級といったものではなく、6段階程度の理解レベルを設けて、取得した点数により理解度がチェックできるものである。
- ・テキスト等は2日分の内容を開発するが、時間的に難しいとの声が多いため、講座の実施は1日講座として実施する。
- ・このシラバス・コマシラバスは2日間（90分×7コマ）で作成しているが、1日講座として実施する方向となるため、その検討を重ねて行く。
また、学び直しという観点から再認識を含め、現在の状況を取り入れた内容としていく。
- ・評価という中でCASBEEを取り入れ考え方・求め方・第三者の評価等がどういったものなのを含め、再認識していただく内容の講座として作り上げていく。
- ・カリキュラム開発としては、先日の地域版テキスト開発WG会議で承認を得られたので、この方向で開発をしていく。
- ・履修判定試験は、簡単なものから難しいものまで6段階の難易度を考慮し、作成していく。
- ・CPD5単位認定講座として申請する。

（4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の説明が行われた（配布資料C参照）。

- ・設計技術向けのものであり、主に一級建築士が対象となる。
- ・平成28年度改定の計算手法に地域特性を取り入れて行う。
- ・履修判定試験は、ワークショップによるグループ毎に発表をし、講師から講評を貰い判定をする。
- ・3コマ目は、実際に手を動かして計算をする。その後、企業事例としてCADソフトを使った計算を行う。
- ・CPD4単位認定講座として申請する。
- ・2講座ともCPD認定講座として案内を作成していく。日本建築士連合会には、シラバス・コマシラバスを送り、確認をとる。事前に話をして確認をしているが、実際には、改めて意見を聞きながら調整等を行っていく。
- ・奇数月の月末で正式な決定となる。

以下、講座の実施日程をはじめとする意見が行われた。

- ・「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」は、去年は建築・土木・設備職域プロジェクトの施工技術講座の講師をお願いしていた加藤先生にお願いする。
- ・講師のスケジュールを聞くと、10月29日～11月12日の期間が大丈夫とのこと。
- ・「住環境エネルギー講座」は、黄色の矢印の期間で講座開催を検討していきたい（配布資料A参照）。
- ・福岡（麻生建築&デザイン専門学校）：5日と26日の希望が出てきている。
岡山（中国デザイン専門学校）：12日 or 19日のどちらかで希望が出ている。
→講座は、「新省エネ基準」と「住環境エネルギー講座」の2つで2日行うということか。

→2講座各1日で実施する。

- ・受講者募集についてはどうか。

→平日は、仕事に差し支えるので土日で実施するか。企業によってはCPDの単位が取得できるから平日でも受講させるなどがある。

→大きなイベントがある場合には、その日を外すことを進める。

→入試とオープンキャンパスが入っているため、検討が必要。

→平日と土日はどちらが望ましいのか。

→一昨年とターゲットが違うため、検討する余地がある。

→普通、認定講座はお金が掛かるため、無料講座で受講できることは受講者にとっても喜ばしいことだと思う。

→経営者であれば、平日でも構わないと思われるが、企業勤めの場合は、その企業によって捉え方が違うため難しいと思う。

→例えば、昨年の「施工技術講座」は、4時間を夕方18:00~20:00の2日間に分けて1日2時間で実施した。

→「新省エネ基準」を2日に分けて実施してはどうか。講師の都合もあるが予定が合えば大丈夫と思われる。「住環境エネルギー講座」の講師はどうか。

→誰かが日程調整をすると思うので大丈夫と思われる。

→11月12日を「住環境エネルギー講座」(9:30~)として実施する。

→丸1日になることになるが1日で大丈夫か。

→講座には、小テストなどがあるため、飽きることは無いと思う。

→高知県地域特性としては、こういったものがあるのか。

→日照時間が長い、降水量が多い、海水温が高いなどがある。

→これらのものを講座の中で反映していきたい。

- ・11月4日を「新省エネ基準」(13:30~)を実施確定とする。

→祭日と土日の間のため難しいと思われるので、11月2日はどうか。

→講師に確認し、再度、連絡をする。

- ・CPD認定として正式に告知するのは、10月1日になるが、事前に日本建築士連合会に確認を取る。
- ・講座案内としては、エコピープル支援協議会を通してe c o検定合格者に対して案内をする。日本建築士会連合会HPに掲載する。高知県内の受講者集めをお願いしたい。

→CPD単位だけではなく、講座を聞きたいという方もいる。

- ・企業事例において、PC等はどうなるのか。

→企業事例のところでは、CADのソフト会社にPCを持ち込んで実際に計算させることを講師が投げ掛けている。

- ・会場は、この教場を使用する。

→今回の講座は主催としてその地域の専門学校と問い合わせ先もお願いしたい。

→問い合わせ先として学校名と電話、ご担当者が必要であるがいかがでしょうか。

→学校名は高知情報ビジネス&フード専門学校。ご担当者は上岡先生。電話番号は本部の番号。Eメールアドレスは上岡先生。

- ・講座案内のたたき台については、シラバス・コマシラバスを建築士連合会へ

確認をとり、何も修正等が無ければすぐできる。早ければ今月下旬になると思われる。

→9月12日の土佐経済同友会の集まりで案内したいため、それまでに間に合うようお願いしたい。

→間に合うように作成する。

【確定・確認事項】

・実証座日程

「新省エネ基準」11月2日（講師に確認する）

「住環境エネルギー講座」11月12日（9：30）

・講座案内

配布資料Dの内容を修正する。

学校名：高知情報ビジネス&フード専門学校

問い合わせ先：電話番号等変更なし

ご担当者：上岡先生

Eメールアドレス：上岡先生

・修了証書

見本を作成し、確認を取って発行する。

ご不明な点がございましたら、事務局まで連絡をください。という言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【高知】会議（第2回）
開催日時	平成28年9月9日（金） 15:00～17:00（2h）
場所	高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石元 優、上岡直司、佐々木 章、依田浩敏（計4名） <p>② 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口奈津（計1名） <p>（参加者合計5名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証講座の日程と講座内容、講座案内、スケジュール等についての確認を目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年9月9日（金）15:00～17:00 会 場：高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:00 開 会 2. 15:00～16:55 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）実証講座実施日時の確認 （2）CPD認定講座申請状況 等 （3）「住環境エネルギー講座」進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 （4）「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 （5）講座案内の確認 等 3. 16:55 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:00 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座実施日時 ・資料B：CPD認定講座申請書（2講座） ・資料C：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等

- ・資料D：「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス（修正中）、テキスト骨子 等
- ・資料E：講座案内見本

【内 容】

1. 開会・・・

事業責任者の小山学園理事佐々木の開催の言葉で第二回の実証実験中国・四国WG【高知】会議が開催された。

2. 議事・・・

（1）実証講座実施日時の確認（配布資料A参照）

- ・「新省エネ基準」10月25日13：30～、「住環境エネルギー講座」11月12日9：30～で実施。時間は、アンケートの時間を10分として入れている。

（2）CPD認定講座申請状況 等

- ・CPDに申請は2講座ともに完了している。
- ・認定は、ほぼ受けられるとの事前連絡はいただいている。実際の任手は、9月末になる。
- ・講座内容に修正等があれば、連絡が来るようになっている。

（3）「住環境エネルギー講座」進捗状況 —シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等（配布資料C参照）

- ・今回は、シラバス・コマシラバス、テキストは抜粋で配布している。以下、講師の依田先生より説明が行われた。
建築の環境工学が中心で、エネルギーの熱工学等になる。
- ・実際にテキストを作成するのは、8コマであるが、今回は1日で実施するため、6コマで進めている。
- ・1コマ目の総論とライフスタイル、2～3コマ目の計画（1）と（2）を集約して全体を8コマ→6コマにしている。
- ・熱環境、光環境を重点的にし、家庭用の設備、省エネルギー型に向けた設備等の話で進めていく。
施工については、省エネルギー住宅の基本、施工の基本、リフォームの基本を説明する。
評価は省エネ基準、省エネ法、表示制度ラベリング制度等といった住環境エネルギーを普及する上で、人材についてなどを進める。最終的には、理解度についてテストを実施する。
- ・コマ毎に学習のポイント等を示している。
- ・大事な部分については太字やアンダーラインで示している。
- ・環境工学の分野では数式が多く入っているが、受講者にはこのような考え方がないと認識いただければと思われる。
- ・5コマ目の評価については、もう一つの「省エネ基準」と多少被る部分があるが、基礎的な部分として捉えて欲しい。

→シラバス・コマシラバスは完成版であり、テキストについては、10月17日までに完成する予定である。

(4)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認　－シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等（配布資料D参照）

事務局より説明が行われる。

- ・シラバス・コマシラバスは、2020年の省エネ基準の義務化に向けた内容である。
 - ・CPD4単位講座である。
 - ・テキスト開発中である。
 - ・社会背景、省エネ基準から、一次エネルギー消費計算や外皮計算の基礎等からはじまり、3コマ目は熱還流や外皮性能の基準等。4コマ目は省エネプランを考慮したワークショップとなる。最終的にはグループワークをし、グループ毎で発表したものを講師が講評して終える流れである。
- 3コマ目は電卓を使用するものがあるが、関数が必要な電卓かどうか講師に確認している。
- 企業事例として、福井コンピュータを一つの事例としてCADソフトを使った紹介を行う。

(5) 講座案内の確認 等

- ・現在は、CPD認定講座申請中ということで、正式な承認が得られるまでは、このままでお願いしたい。
 - ・主催については、第一回会議の通り、高知情報ビジネス&フード専門学校となっている。
 - ・講師は、2人体制で実施する。
 - ・最後まで受講しないと単位付与が出来ないという文言を入れている。
 - ・ご担当者として上岡先生のお名前を入れている。
 - ・講師紹介欄において講師の佐藤先生の写真が未掲載のため、このお配りしている案内は暫定的なものである。
 - ・8月の企画推進委員会で9月の土佐経済同友会の会議で必要ということでしたので、この案内をご提出願います。
- 了解しました。

以下、意見交換が行われた。

- ・申し込みの受領証発行についてはどうか。
- 発送するが、内容については事務局と進めてください。
- ・車で来る方々に対して駐車場の件を明記して欲しい。原則、近隣の駐車場をご利用いただくこととなっているため、お願いしたい。
- 自転車やバイクはどうか。
- 自転車やバイクは問題ないが、車について明記いただきたい。
- おそらく、車で来る方がほとんどと思われる。
- ・高知県建築士会でも案内ができるのか。
- そこはこれからとなる。
- こちらから働きかけることはできるので、そこは行方。高知県建築士会の会長をはじめ、建築事務所協会へも案内をする。
- ・講座内容等で問い合わせに対して回答が難しい場合は、こちらで対応する。

- ・教室はどこになるのか。
- この1号館の143号室を考えている(36名規模)。
- ・プロジェクターとスクリーンをお願いしたい。
- 了解しました。
- ・マイク等は不要。
- ・トイレや昼食(持ち込みの有無など)状況など確認したいと思います。受講者への受領した際に連絡事項として入れたい。
- 「新省エネ基準」は、午後からなので、「住環境エネルギー講座」の受領からで。
- ・入口は、この校舎の入口から入っていただくようにする。
- ・人員については、事務局がほぼ作業するため、特に問題はないと思われる。
- ・雨の場合の傘は大丈夫か。
- 大丈夫である。

【確定・確認事項】

- ・実証講座
 - 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」
 - 実施日：10月25日(13:30~)
 - 「住環境エネルギー講座」
 - 実施日：11月12日(9:30~)
- ・教場
 - 143号室使用
 - 入口は1号館とする。
- ・講座案内
 - お車で来られる方々に対するの注意事項として、近隣の駐車場を利用していただくことを明記する。

本日はありがとうございました。何かございましたら、事務局へ連絡ください。今後とも、よろしくお願いいたします。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験中国・四国WG【高知】会議（第3回）
開催日時	平成28年10月6日（木） 15:00～17:00（2h）
場所	高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・石元 優、上岡直司、佐竹新市、西山正晃、吉川隆治（計5名） ② 事務局 ・山口奈津（計1名） （参加者合計6名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <p>・実証講座「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」、「住環境エネルギー講座」の2講座の開講に向け、講座内容や募集状況の確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年10月6日（木）15:00～17:00 会 場：高知情報ビジネス&フード専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:00 開 会 2. 15:00～16:55 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認 (2) 実証講座の募集方法と状況の確認 (3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 - シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 (4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認 - シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 3. 16:55 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:00 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座案内 ・資料B：実証講座案内の受講票 ・資料C：CPD認定講座申請書（2講座） ・資料D：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等

- ・資料E：「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス、テキスト目次等

【内 容】

1. 開会・・・

事務局の開催の言葉で第一回の実証実験中国・四国WG【高知】会議が開催された。

- ・この会議で実証実験中国・四国WG【高知】会議が終了となる。

2. 議事・・・

(1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認（配布資料A、BC参照）

- ・講師の顔写真、プロフィールがある。
- ・CPD認定講座として、「住環境エネルギー講座」、「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」ともに、主催、後援、背景、問い合わせ先を確認してください。
- ・高知県建築士会の会長に直接連絡をして、Eメールでデータを送っている。
- ・受講票は受付表として皆様にお持ちいただく。お忘れの方もいると思われるため、臨機応変にご対応いただければと思う。
- ・日本建築士連合会へ電話で問い合わせをした解答ではあるが、事務手続上、HPへの情報公開は遅れているが、正式に承認を得ているとの連絡を受け取った。
- ・受講票の地図が見え辛いので、変更した方がよろしいと思われる。
→確認して地図データを送る。
- ・申込みがあった方に受講票を流すことはどうすれば。
→毎回は大変なため、ある程度の期間分を纏めて連絡をいただければ、受講票を申込者に送る。受付にも使用できる受付表を送るので、そこにに入れて管理いただければと思う。リストは事務局で管理してもよいがどうか。
→飛び込みもあるので、こちらで受講票とリストは作成する。
- ・アンケート時間を10分と想定しているので、講座時間と合わせて表記している。
- ・2講座ともに締切日が同日になっているので、それぞれ変更する必要があるため、この配布物は使用しないで欲しい。改めて正式な講座案内を送る。

(2) 実証講座の募集方法と状況の確認

- ・土佐経済同友会の幹事会の中で承認をもらって、建築関係をはじめ、メンバーに案内を渡している。
- 建築士会と建築士事務所協会にデータと中小建築業協会へ建築士会会長から声を掛けていただくこととなっている。
- ・建築士会の会長からはこのような環境について勉強をしなければならない。という褒め言葉をいただいている。

(3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 —シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等（配布資料D参照）

- ・ 講座実施日：11月12日（9：30～）、1日講座、CPD5単位、履修判定試験はスコア制という流れである。
- ・ 履修判定試験はスコア制となっているため、60分の時間を設けているが、終了した方から退出していただいても構わない。
- ・ 今のところテキスト作成が前回よりも進んでいない状況である。
- ・ 来週11日の地域版テキスト開発WG会議でテキストの作成がどの程度進んでいるのか講師の依田先生に発表してもらおう。

（４）「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認　－シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認等（配布資料E参照）

- ・ 講座実施日：10月25日（13：30～）4時間、CPD4単位の講座になる。
- ・ 国土交通省の動向や背景を含め纏めている新省エネ基準の概要と新省エネ基準の用語解説といったものの中を抜き出して講師なりの解釈をして作成している。
- ・ 3コマ目は一般的に使用されている電卓を使用して計算を行い、その後の外皮計算がCADソフトを使ってできるという企業事例として、CADソフト会社の福井コンピュータから来ていただき説明する。
- ・ 4コマ目はワークショップによるグループワーク後に、講師による講評をして終了となる。
- ・ CPDの単位付与については、すべてのものを受講することにより付与される。途中参加や途中退出については、単位付与されない。

以下意見交換が行われた。

- ・ CPDの認定番号か一級建築士等の資格番号を伺って、こちらで手続きを行う。
- CPD番号とはどういうものなのか。
- カードで個人個人の番号がある。
- もともとは講座受講後に受講者本人が行うが、今回は事務局が代わりに行う。
- ・ 当日準備するものとしては何があるのか。
- プロジェクターをお願いする。PCは講師もしくは事務局が持参するので、大丈夫である。テキストの印刷をお願いする。
- ・ 今後は、テキストの作成や受講者の募集状況について連絡を取り合うこととなる。
- ・ 25日の日があまりないので、集まるかどうか不安であるがやれることは協力していく。
- ・ 開講する最低人数などはあるのか。
- 特には定めていないが、ある程度の人数は欲しい。
- 一昨年実施した人数11名ほどは集まると思われる。

【確定・確認事項】

- ・ 実証講座

「住環境エネルギー講座」

講座実施日：11月12日

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」

講座実施日：10月25日

・講座案内

地図のデータがあれば事務局へ送る。

2講座とも修正してデータを佐竹先生、上岡先生に送る。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験九州WG会議（第1回）
開催日時	平成28年8月5日（金） 15:30～17:30（2h）
場所	麻生建築&デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・今泉清太、佐々木 章、吉川隆治、依田浩敏（計4名） （参加者合計4名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業の概要と実証実験九州WGの役割を委員に周知すること、また実証講座の日程と講座内容についての確認を目的とした会議を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年8月5日（金）15:30～17:30 会 場：麻生建築&デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:30 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）実証実験九州WGの取り組み内容等について （2）年間スケジュールの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・実証講座等のタスクスケジュールの確認 （3）住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の確認 （4）新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の確認 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・（H28 文科省 中核）_実施体制 ・資料A：年間スケジュール ・資料B：住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス 等 ・資料C：新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス 等 ・資料D：実証講座案内（案）

【内 容】

1. 開会・・・

本事業責任者の小山学園理事佐々木から開催の言葉で第一回の実証実験九州WG会議が開催された。

- ・本事業は成長分野である中核的な専門人材を養成する文部科学省の委託事業の「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業で分野は「環境・エネルギー分野」で、平成23年度から委託事業を行っている。
- ・社会人を中心とした学び直しの実証講座として、建築分野従事者を対象とした新エネルギー基準に関係した2020年に義務化される講座と住環境エネルギー講座として必要最低限の環境・エネルギーの知識を修得する講座の2講座を実施する。
- ・CPD認定講座として外部から評価を得られた認定講座として実施する。
- ・次に委員の自己紹介が行われた。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証実験九州WGの取り組み内容等について説明が行われた(配布資料(H28 文科省 中核) _実施体制参照)。

- ・企画推進委員会があり、本部的な委員会として設けている。その下に地域版テキスト開発WGがある。地域版テキスト開発WGが開発したテキストと講座内容を実証実験中国・四国WGと実証実験九州WGがある。今回は、実証実験九州WGの会議となる。
- ・実証講座の会場と受講生集め、実証実験を行うWGとなる。
- ・CPD認定講座として実証講座を開催する。

(2) 年間スケジュールの会議・実証講座等のタスクスケジュールの説明が行われた(配布資料A参照)。

- ・会議開催は、8月、9月、10月の3回の会議を行う。会議内容は、配布資料Aの通りである。
- ・各地域の進捗状況を報告しつつ、参考としていただき、実証講座に向けて進める。
- ・その他の企画推進委員会をはじめとする会議日程は、確定したものである。

(3) 住環境エネルギー講座シラバス・コマシラバス等の説明が行われた(配布資料B参照)。

- ・「住環境エネルギー講座」については、2日間でカリキュラムをお願いしているが、他の地域からのヒアリングから1日をお願いしたい。
 - ・CPD認定講座として統一した内容で進めて行きたい。
- 実際のシラバス・コマシラバスはこの内容で構わないのか。
- 本来は2日で内容的には問題は無いと思われるが、各地域の声を反映すると実際の実施は1日にしたい。
- どうすれば良いのか。
- 現在、90分を1コマのところ、60分にして5コマにして欲しい。最後の6コマに理解度判定の履修判定試験にする。

→2日から1日に圧縮したため、実際の想定と実施した者の履修判定試験の中

	<p>身が変わる可能性がある。</p> <p>→来週に日本建築士連合会にCPD認定講座としての相談をするが、その中で、総論とライフスタイルを一緒にする、計画の(1)と(2)を一緒にした圧縮したもので進めて行く方向ではどうか。</p> <p>→大丈夫だと思われる。</p> <p>→案として事務局から提示をするので、加筆・修正を含め、確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月26日(9:30~)の実施で、講師としての日時はどうか。 <p>→講師・会場とも大丈夫である。</p> <p>→福岡は11月26日実施で決定とする。</p> <p>(4)新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座シラバス・コマシラバス等の説明が行われた(配布資料C・D参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の建築・土木・設備職域プロジェクトの「施工技術講座」に続き、今回は「設計技術講座」である。 ・新しい試みとして、3コマ目にCADソフトを使った計算支援プログラムを取り入れ、実際にPCを持ち込む形になると思われるが、それは大丈夫か。 <p>→大丈夫である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月5日(13:30~)の実施は大丈夫か。 <p>→大丈夫である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了証書は昨年同様に御校校長のお名前で作成するが大丈夫か。 <p>→大丈夫である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料Dの講座案内(案)についてプロフィールの確認をお願いします。 ・主催は麻生建築&デザイン専門学校でお願いしますが大丈夫でしょうか。 <p>→大丈夫である。</p> <p>→その他、電話番号、Eメールアドレスは今泉先生で大丈夫か。</p> <p>→大丈夫である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座案内は8月下旬までに日本建築士連合会へ相談をし、作成にあたりたい。実際には奇数月の月末に確定する。これからだとも10月1日から案内を正式にお願いしたい。 <p>→大丈夫である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト作成のレベルはどの程度なのか。 <p>→過去のテキストを送るので、参考としてもらいたい。</p> <p>→基本的には、社会人という事もあるためPPTが多いが、成果物として広く周知するためには、文字数がある程度必要と考える。出典等は必ず表記が必要である。</p> <p>→フォーマットはあるのか。</p> <p>→教材のガイドラインを環境カウンセラー全国連合会へ送ったが、再度送るのでそれを見て作成願う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の告知は、eco検定合格者のエコピープル支援協会をはじめとし、日本建築士連合会HPに掲載される。 <p>→福岡県建築士会等の働きかけをお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の講座は施工技術から設計技術へバージョンアップしたため、より専門性が高まった内容となっている。 ・従来通り、講座後のアンケートを取る。
--	--

- ・企画推進委員会から評価委員を選定して、実証講座の評価をしていくこととしている。
 - ・昨年受講した卒業生が受講したいと申し出ているため、案内が出来たら連絡をする。
- 2年連続で受講している方で、今回で3年連続。

【確定・確認事項】

- ・実証講座
実施日時は、11月5日（13：30～）。
- ・これまでの取り組みで作成した成果物を講師に送る。
- ・シラバス・コマシラバス
圧縮案を事務局が作成したものを、確認とともに加筆・修正を行う。
- ・受講生募集
麻生建築&デザイン専門学校として、福岡県建築士会をはじめとする関係各所へ案内を行い、受講生を集める。

本日は、ありがとうございました。ご不明な点がございましたら、事務局へご連絡願います。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験九州WG会議（第2回）
開催日時	平成28年9月13日（火） 15:30～17:30（2h）
場所	麻生建築&デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・今泉清太、吉川隆治、依田浩敏（計3名） ② 事務局 ・山口奈津（計1名） （参加者合計4名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <p>・実証講座実施のWG委員として、日程と講座内容や進捗状況をはじめ、CPD申請状況やシラバス・コマシラバス内容、テキスト原案を周知することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成28年9月13日（火）15:30～17:30 会 場：麻生建築&デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:30 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実証講座実施日時の確認 (2) CPD認定講座申請状況 等 (3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 (4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認 ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 (5) 講座案内の確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座実施日時 ・資料B：CPD認定講座申請書（2講座）

- ・資料 C：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案（抜粋）等
- ・資料 D：「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス（修正中）、テキスト骨子等
- ・資料 E：講座案内見本

【内 容】

1. 開会・・・

事務局より会議開催の言葉で第二回の実証実験九州WG会議が開催された。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

（1）実証講座実施日時の確認の説明が行われた（配布資料 A 参照）

- ・ 8 月になり、企画推進委員会をはじめ、すべての第一回の会議が行われ、その会議内容においての決定部分を反映させたものである。
- ・「新省エネ基準」高知が 10 月 25 日に変更した。講座時間と CPD 単位数は 4 単位で変更なし。
- ・「住環境エネルギー講座」の 2 日間を想定していたが、1 日となった。CPD 単位は 7 単位を想定していたが、5 単位となる。講師は、長丁場になるため、2 人体制で行う。
岡山は 11 月 19 日実施で藤本先生と佐藤先生、高知は 11 月 12 日実施で依田先生と佐藤先生、福岡は 11 月 26 日実施で依田先生と藤本先生が講師となる。

（2）CPD 認定講座申請状況の説明が行われた（配布資料 B 参照）

- ・日本建築士連合会に電話で問い合わせたところ、ほぼ認定されるとの確認が取れた。しかし、本来であればこのような連絡はなく、文科省事業ということと、作成するテキスト等のレベルの信用があるため、このような連絡が取れたと思われる。
今月下旬に再度確認を取る。

（3）「住環境エネルギー講座」進捗状況 —シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の説明が行われた（配布資料 C 参照）

以下、テキスト作成者の依田先生より説明が行われた。

- ・ 1 コマ 90 分を 1 コマ 60 分に圧縮した。
- ・総論とライフスタイルを集約、計画（1）と（2）を計画一つに集約した。
- ・テキストは 2 日間を想定して作成したが、実際には 1 日で実施する。
- ・環境工学の内容においては固い感じがあり、全てを憶えるということではなく、このようなものがあると認識してもらえればよいと思われる。
- ・コマ主題細目が多いので、整理する必要がある。
- ・履修判定試験の採点は、その場で採点を行うのか。

→持ち帰り採点をした後、採点結果をお知らせする。属性によって取得する点数が違うと思う。

→履修判定試験は、その日に教えた中からのみ出すのか。

→基本的には、別件で500問の作成をお願いしている中で、その中から抜粋した内容となる。

→受講者から今日の講座で習っていないのが出題されているというクレームになりかねない。

→知識として知っておくべきものが問題に入っている。また、履修判定試験の取得点数によって可否の単位取得講座ではないことを講座開始前に説明して実施する。自分の付加価値を上げるものとして認識いただければと思う。

(4)「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認
—シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の説明が行われた(配布資料D参照)

事務局より説明が行われた

・まだ作成中で見せるまで至っていないが、テキスト骨子(案)を基に作成している。

・講座は、シラバス・コマシラバスに沿って進める。総論から入り、計算手法を学んでいく。

・3コマ目は実際に手を動かして計算をして、4コマ目にワークショップと入っていく。

また、3コマ目は電卓を使用して行うが、関数が必要な電卓かどうかは講師に確認中である。

・3コマ目は企業事例として。福井コンピュータが来られて一般的な内容として10分程度行う。企業広告とならないようにチェックをして実際の講座で行う(画像データの確認)。

→企業事例専用のPCの用意はするのか。

→ソフトを新たに入れて行うことは問題があると思うため、実際には福井コンピュータが持ってくるようになると思う。

→外皮計算がCADソフトでできるということか。

→その通りである。ただ、数字の入れるとこのような結果になるといったもので、一企業に偏った内容にならない。

→戸建ての話になるのか。

→戸建てがメインとなると思う。

(5) 講座案内の説明が行われた(配布資料E参照)

・講座時間はアンケートの時間を10分と想定しているので、その分も含めて表示している。

「住環境エネルギー講座」

・文章が「新省エネ基準」に偏っているところを変更した。

・講座の背景の文部科学省の事業という事は必ず明記する必要があるなので、そこはそのまま。

・履修判定試験は、スコア制ということもあり、その文言を入れている。

・11月21日(月)の締め切りで案内をする。

・駐車場はどうするのか。

→公共の交通機関を使用ということと、駐車場代は実費負担で明記する。

→確か、高知でもそうであった。
→この辺りは違法駐車を取り締まりが厳しい。
→駐車できないことをきちんと明記する。

「新省エネ基準・住宅省エネルギー講座」
・締め切りは10月31日（月）で案内する。

この先講座案内については、企画推進委員会で最終確認を行うとともに、日本建築士会連合会にも確認を取る。

【確定・確認事項】

・実証講座

「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」

申込み締め切り：10月31日（月）

「住環境エネルギー講座」

申込み締め切り：11月21日

・講座案内

駐車場については、なるべく公共の交通機関をご利用いただくことと、車で来る場合には駐車代は実費を明記する。

本日はお忙しい中ありがとうございました。何かございましたら連絡ください。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等 学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	実証実験九州WG会議（第3回）
開催日時	平成28年10月12日（水） 15:30～17:30（2h）
場所	麻生建築&デザイン専門学校 会議室
出席者	① 委員 ・今泉清太、吉川隆治、依田浩敏（計3名） ③ 事務局 ・山口奈津（計1名） （参加者合計4名）
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】 ・実証講座までの準備の確認や若干のテキスト等の修正を踏まえた内容の確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【次 第】 日 時：平成28年10月12日（水）15:30～17:00 会 場：学校法人麻生塾 麻生建築&デザイン専門学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15:30 開 会 2. 15:30～17:25 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実証講座募集要項、受講票の最終確認 (2) 実証講座の募集方法と状況の確認 (3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況 - シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 (4) 「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認 - シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の確認 等 3. 17:25 その他（事務局より連絡事項等） 4. 17:30 閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A：実証講座案内 ・資料B：実証講座案内の受講票 ・資料C：「住環境エネルギー講座」シラバス・コマシラバス、テキスト原案 等 ・資料D：「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス、テキスト目次 等

【内 容】

1. 開会・・・

事務局より会議開催の言葉で第三回の実証実験九州WG会議が開催された。

- ・本日でこの実証実験九州WG会議は最後になる。

2. 議事・・・

以下、配布資料の確認を取り、次第に沿って説明と意見交換が行われた。

(1) 実証講座募集要項、受講票の説明が行われた(配布資料A、B参照)。

- ・企画推進委員会への確認をした上で、配布している。
- ・2講座ともCPD認定講座の承認が得られたため、正式にCPD認定講座として講座案内を作成した。
- ・2講座とも10分程度のアンケート時間を入れて作成している。
- ・背景や問い合わせ先等の確認をお願いします。

受講票の説明が行われた。

- ・右側に受講者のお名前が入る。
- ・受講票は、基本的にはEメールでお送りする。
- ・当日は、受付表としても兼ねているので持って来てもらうが、お忘れになる方については、臨機応変に対応する。
- ・CPD番号もしくは、一級建築士等の資格番号のご用意をしていただくことを明記している。当日ご参加の方へ伺う。

(2) 実証講座の募集方法と状況の説明が行われた。

- ・日本建築士連合会から事務手続き上、昨日、承認の連絡が来た。確認は事前にとれてはいたが、HPへの公開は遅れる。これからアップされる。
- ・福岡での活動はどうか。
 - 協力企業と卒業生に呼びかけ、学生でも可か。
 - 今年は社会人対象のため、学生は遠慮ください。また、企業事例として福井コンピュータが説明に来るので、そこでも募集協力は行っていただく。
 - 職業実践の提携企業さんへ案内をする。
 - 社会人をいかに集めるのかということが肝になる。
 - 福岡の建築士会さんや事務所協会さんへの案内は大丈夫か。
 - 可能である。特に事務所協会さんは協力的である。
 - 高知では好感触という声もあったので、よろしくをお願いします。
- ・環境は仕事に直接結びつくことが難しいが、建築を学ぶ方にとっては、省エネ基準も環境もどちらも学ばなければならない。

(3) 「住環境エネルギー講座」進捗状況　ーシラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の説明が行われた(配布資料C参照)。

- ・講座実施日：11月26日(9:30～)1日講座 CPD5単位講座。
 - ・履修判定試験は、スコア制ということもあるため、早目に終わられた方は、アンケート回答後帰る事ができるようになっている。
- 以降、講師である依田先生より説明される。

- ・ 1日6コマに変更した。また、①からはじまるコマ主題細目の内容について、3コマの設備、4コマの施工、5コマの評価について10項目ほど並んで、煩雑に見えたので集約した。
- ・ 3コマ目の設備にオリジナルテキストとサブテキストとして無料の最新版2016年夏の省エネ性能カタログ（資源エネルギー庁 発行）を配布する。
- ・ テキストは全体の75%程度できている状況である。

（4）「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」シラバス・コマシラバス等の確認 —シラバス・コマシラバス内容の確認、テキスト原案の説明が行われた（配布資料D参照）。

事務局より説明が行われた。

- ・ 11月5日（13：30～）、4時間CPD4単位講座。
- ・ コマシラバスに沿って作成している。昨年の施工技術と同様な形式で作成していく。
- ・ 3コマ目は、演習問題を手計算で行った後で、企業事例としてCADソフトを使った計算方法の事例紹介（福井コンピュータ）を行う。
- ・ 講師が考えているものと、実際の講座時間との調整を行いながら作成をしている。全体の50%程度の出来である。来週の18日までに仕上げる。

その他、以下の意見交換が行われた。

- ・ FAXやEメール等でお申込みされた方の管理はどうするのか。
- こちらの方で作成する
- 事務局で様式を作成するので、それを活用してください。
- ・ 実証講座の時のPCはどうするのか。
- 「住環境エネルギー講座」はPCを持ち込む。
- 「新省エネ基準・技術者講座」はお借りするかもしれない。
- ・ 受付場所についてはどうか。
- 1階の入り口でも可能である。
- ・ 学校が密集しているため、他の地図はあるのか。HPでは行き方は載っているが。
- 他にあるのでデータを送る。
- ・ 明日、福岡県建築士会と事務所協会へ案内をしてくる。
- よろしくお願いします。
- ・ 講座当日は、開始の1時間前ぐらいに伺う。

【確定・確認事項】

- ・ 実証講座
 - 「住環境エネルギー講座」
 - 実施日：11月26日（9：30～）
 - 「新省エネ基準・住宅省エネルギー講座」
 - 実施日：11月5日（13：30～）
- ・ 講座案内
 - 地図の新しいデータを送ってもらい、差し替えする。

・ 申込者の管理

麻生建築&デザイン専門学校で行い、定期的に事務局へ連絡を入れる。

事務局は、管理表の様式を作成して送る。

受講票の発送は事務局で行う。

本日はありがとうございました。実証講座まで連絡を取りながら進めて行きましょう。との言葉で散会となった。

【会議風景】



以上

会議議事録

事業名	「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業
代表校	専門学校東京テクニカルカレッジ

会議名	平成 28 年度文部科学省委託事業「社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業」成果報告会
開催日時	平成 29 年 2 月 3 日（金） 16:00～18:00（2h）
場所	中野サンプラザ 15 階 リーフルーム
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲永由紀、井上利一、川瀬健介、佐々木 章、佐竹新市、佐藤孝史、霜野 隆、高瀬恵悟、中村健二、藤本晴男、依田浩敏、吉川隆治（計 12 名） <p>② 文部科学省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧野浩司（計 1 名） <p>③ オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菊田 薫、篠塚祐子、菅野国弘、杉本三千雄、田中良明、松田正之、三上孝明、山本 匡、山本 眞（計 9 名） <p>④ 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山口奈津（計 1 名） <p>（参加者合計 23 名）</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足）</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度事業の成果報告の発表を目的とした報告会を開催した。 <p>【次 第】</p> <p>日 時：平成 29 年 2 月 3 日（金）16:00～18:00</p> <p>会 場：中野サンプラザ 15 階 リーフルーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 16:00 開 会 2. 16:03～16:10 ご挨拶 事業代表法人 学校法人小山学園 理事長 山本 匡 3. 16:10～16:30 文部科学省生涯学習政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室 専門官 牧野 浩司 4. 16:30～17:20 基調講演会「教育・研究・社会的活動を通じた『環境に配慮したまちづくり』実践」 依田 浩敏（近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科 教授） 5. 17:20～17:55 平成 28 年度文部科学省委託事業 成果報告「社会人等学び直しのための環

境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業」

6. 17:55 閉 会

事業責任者 学校法人小山学園 理事／統括本部長 佐々木 章

<配布資料>

- ・議事次第
- ・資料 A：平成 29 年度 専修学校関係予算（案）
- ・資料 B：「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業について
- ・資料 C：基調講演資料「環境と人にやさしい たてものづくり・まちづくりを目指して」
- ・資料 D：基調講演資料：「教育・研究・社会的活動を通じた『環境に配慮したまつづくり』実践」
- ・資料 E：平成 28 年度文部科学省委託事業成果報告

【内 容】

1. 開会・・・

事務局より、冒頭の挨拶が行われ成果報告会が開催された。

2. 議事・・・

以下、配布資料確認後に、次第に沿って進められた。

（1）事業代表校からの挨拶

小山学園の山本理事長より挨拶が行われた。

本日は、お忙しい中成果報告会へご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本事業は平成 23 年度から始まり、当時は 7 件であったが、本年度は 76 件と大幅に拡大しました。この中核人材養成に対する要望が高まってきている証である。

2020 年には東京オリンピックが開催される。オリンピック会場及び施設は、全て建築物の環境性能を評価し、格付けする日本の主張であるエネルギー効率の認証基準の CASBEE に適合するように建築や改築を進める予定である。

また、政府は水素社会の国際見本市とする選手村や交通システムに取入れる方針である。

本事業も 6 年目を迎え集大成となる。我が国の成長を支える環境・エネルギー分野はあらゆる産業に関係するとともに、求められる人材の需要がさらに高まると思われる。

学校教育の段階から環境・エネルギーの知識、及び技術を習得する教育プログラムの開発や社会人にとっても学び直しができる教育プログラム開発が求められている。

新しい産業としての環境・エネルギー分野を産官学で連携し、確立できる方向



性を見出していく。

今後も皆様のご支援とご協力をお願いいたします。本日はありがとうございます。

(2) 文部科学省生涯学習政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室より説明

牧野専門官より行政説明が行われた。

中核的専門人材養成事業は、平成 23 年度から取組みを開始し、産官学が連携して多様な分野において専門人材を養成する教育プログラムを開発する大変重要な事業である。

平成 29 年度専修学校関係予算（案）の説明が以下のように行われた（配布資料 A 参照）。

専修学校関係の予算は微増となった。

- ・ 地域産業中核的専門人材養成事業の説明が行われた（2 ページ参照）。

- ・ メニュー 1：教育プログラム等の開発の説明が行われた（3 ページ参照）。

eラーニングの積極活用等による学び直し講座の開発等が新規事業となる。地域

版学び直し教育プログラムの開発・実証等においては、例えば、企業研修・教育を専修学校が行う等が考えられる。等

- ・ メニュー 2：産学連携手法の開発の説明が行われた（4 ページ参照）。

本年度開始したデュアル教育にあたる。ガイドライン（企業内実習等を取組むマニュアル的なもの）を作成し、より使い易いものにし、広く横に広めることを目的としている。等

- ・ メニュー 3：機動的な産学連携体制の整備の説明が行われた（5 ページ参照）。新しくメニュー化されたものである。コンソーシアムのような体制で専修学校が中心となり、行政機関や企業・業界団体等を巻き込み、その分野における人材ニーズの把握をし、必要な教育プログラムを開発して、実際にインターンシップや企業内実習を行う。

課題を見つけ、またプログラムに反映するといった循環を図るような協議会を設けることを目的としている。全国版 2 箇所（分野例として服飾や自動車等）と地域版（県単位）12 箇所予定している。等

専修学校グローバル化対応推進支援事業について説明が行われた（6 ページ参照）。

- ・ 新規事業である。留学生の在校生数が増加している。平成 27 年度状況では、ネパール（1.8 倍）やベトナム（2.3 倍）の留学生が急増している。専修学校の留学に係る質と量を満たす入口から出口までの取組みを予算計上している。

国内企業とのマッチング・定着支援等を行う。等

- ・ 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進について説明が行われた（7 ページ参照）。等

点線部分を新規のメニューとしている。専修学校の魅力を伝える広報ツール



の開発や教員の指導力等の向上に資する研修プログラム開発と実施等を行う。等

- ・経済的支援の在り方について説明が行われた（8～9ページ参照）。授業料減免による教育的効果や就学的効果を図る3年間限定の取組みである。等

「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業について説明が行われた（配布資料B参照）。

25歳以上の入学者の割合の国際比較（2012年度）OECDのグラフの説明。日本は25歳以上のOECDの加盟国の中で低い（2～3ページ参照）。政府の方針としても社会人の学び直しを重視している。「日本再興戦略」や、「まち、ひと、しごと創生総合戦略」、「ニッポン1億総活躍」等についても明記されている。

中核的専門人材養成等の戦略推進事業は、平成28年度～29年度の2年を持って終了とする。平成30年度以降は普及の促進となる。

専修学校における社会人受講者数は平成26年度69,995名、平成27年度72,198名と微増である。平成30年度までには、専修学校における社会人受講者数を12万人まで伸ばしたい。

小山学園の建築士CPD制度を活用しながら評価もされることに対して期待している。

平成29年度では平成23年度からの取組みの集大成としての期待を寄せている。ありがとうございました。との言葉で説明が終了した。

（3）近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科教授の依田浩敏氏からの基調講演が行われた（配布資料C、D参照）。

- ・環境工学が専門分野で建築の計画原論である。足りない部分は建築設備工学を補い、建築分野における環境工学ができています。

環境工学は、設備工学と建築環境工学、都市環境工学の3つから成り立っている。学生は設計をキーワードとして入ってくる。建物はデザインのみならず、住む人の快適さや安全が重要である。一つの分野だけではなく、建築以外でも社会学や経済学、衛生工学等を含め、建物が成り立っている。

- ・近畿大学がある飯塚市の環境について説明が行われた。

環境を調査、都市エネルギー・インフラ研究、環境共生型建築の調査・設計、環境自治体研究、環境教育の実践・環境ボランティア活動への参加等を大学の教育・研究として地域の環境に対する一助となる取組みを行っている。地球環境問題としては、地域で抱えている水、ゴミ、大気の問題が大きくなり地球規模となっている。

一人ひとりが持つ生活や企業の事業活動が問題となっている。今の若者は、環境教育を何らかの形で受けている。しかし、知識はあるが行動に活かさないため、我々がそれを教えるようにする。

市民に対する行動を促すために、中学生でも分かるように絵を中心に文字を少なくしたものを作った（大学生も作成に協力）。

飯塚市は一級河川の遠賀川が中心となっている地域である。その遠賀川を

キーワードとして目標を立て、18の市民運動を掲げた（目標は時代とともに変化する）。市民、学校、民間団体、行政等が関わって取組んだ（主体は市民）。

いづか環境市民会議団体を立ち上げ、その中で自然環境部会、生活環境部会（ごみを減らす一環としてレジ袋を減らす活動を10年ほど前から取組んでいる等）、社会環境部会（エコドライブ等）、環境教育部会（環境カルタづくり等）の4つの部会を設立し、活動を行っている。



市民を中心に取組みを行っている中で、市の方から環境に関する看板を街に立てたいとの声から、子供たちが考えた環境カルタの標語を活かしてゴミの収集車に付けることを提案して行った。

研究室が中心となり、廃天ぷら油を回収し、自治体のごみの収集車のバイオディーゼル燃料として活用することで遠賀川の水をきれいにする取組みを広めた。飯塚市でも回収するようになった。

打ち水をしてクールダウンをする取組みを2009年から飯塚市が中心となり行っている。

竹林の浸食が問題となるための改善の取組みとして、学生が中心となり堆肥小屋や一夜城的なユニットハウスを作ったりする活動を行った。

大学のキャンパス内に太陽光をはじめ、再生可能エネルギーの活用をしている。太陽光パネルに付けた反射板の活用や、太陽の動きに合わせて太陽光パネルが動くなど、高効率となる研究も兼ねて行っている。

・環境カウンセラーとしての活動の説明が行われた。主に環境行政の協力と地域づくりのための活動を行っている。

自然環境に関するドングリを使ったおもちゃ作りなど、子供を中心としたイベント等を考えるとともに、サポーター同士の横のつながりを深める活動を行っている。

福岡市宇美町（人口約38,000人）の宇美八幡宮での環境学習会として、クスノキを知ってもらえるよう、子供たち向けに幹の中に入れるように樹洞内の整備をはじめ、おもちゃ作りができるなどのイベントを行った。

結果的には、付き添いに来た親をはじめ、大人も楽しめる内容となった（144名の参加）。地域の環境の良さの気づきとなった。

また、地域の方々が地域資源の良さ（宝）を伝える役割となってほしいと考え、伝えていく人々を育てる講座を実施した（17名の参加）。

持続可能な社会がキーワードとなる。将来の世代のニーズを充たしつつ、現在の世代のニーズを満たすような開発が必要であり、このキーワードは必ずしも環境分野から出たものではなく、様々な分野から出てきている。

・持続可能な開発のための教育＝ESDについての説明が行われた。

防災をはじめとする様々な分野との連携が必要である。環境教育というくりであっても、その先にはこの考え方（＝ESD）に繋がる。

今までの縦割りの考え方が変化してきている。地域の課題解決、地域の宝

(資産)の活用方法や学習方法への活用を考えていくように意識を変えていくことが必要であるが、知識を植え付けるだけの一つの方向だけではダメであり、その知識を伝え、行動できる活躍の場を作ることが必要である。

「環境にやさしい=人に厳しい」と思われがちであるが、近年は「環境にやさしい=人にもやさしい」という地域となると思われる。

(4) 平成 28 年度文部科学省委託事業成果報告

事業責任者の小山学園の佐々木理事より以下の説明が行われた(配布資料E参照)。

本年度事業は、社会人の学び直しと地域創生が大きなテーマとなっており、その成果が求められている。

- ・事業概要の説明が行われた(1~6ページ)。

高知(高知情報ビジネス&フード専門学校)、岡山(中国デザイン専門学校)、福岡(麻生建築&デザイン専門学校)の3地域で実証講座を実施した。

本年度は、各地域の専門学校が主催となり実施した。各地域の資産として活用してもらうように実施した。

「住環境エネルギー講座」と「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の2つに絞った。

社会人の学び直しの環境との関わりを考え、社会構造上特に結びつきが深い建築関係に分野を絞り実施した。

実施体制の説明が行われた(企業、関係団体、教育機関で構成されている)。

2020年の「省エネ基準の完全義務化」に向けた講座を開発した。時代に時代に合った知識が必要となり、常にキャリアアップすることが求められる。等

- ・エネルギー政策の変遷(一部抜粋)について説明が行われた(6ページ)。
- ・プログラム骨子の説明が行われた(7~9ページ)。



日本建築士会連合会の承認を受けた建築士会CPD認定講座として開発した。

建築士法の中で知識を習得するための講座を受講し、必要な単位取得を行わなければならない。

カリキュラム、シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ・解答解説の事業開始年度から実施している。受講する前に講座内容が分かる、授業のポイントが分かるものを示すシステムを作り、実施した。

企画推進委員会から選定した委員で、本事業の評価を第三者評価として行った。等

- ・実施した「住環境エネルギー講座」の説明が行われた(10~19ページ)。

建築士会CPD認定講座単位:5単位の講座である。

シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説の説明が行われた。

資産として残すために、本年度は356問開発した。履修判定試験の問題をこ

の中から活用できるようにした。講座開催毎に試験の内容を変えることができるようにした。

講座案内、実証講座の様子の説明が行われた。

建築分野の受講者（岡山では大学生も受講）であったが、受講者数が伸び悩んだ。受講者数を多く集めることが課題として残る。大都市圏での開催が求められた。 等

- ・実施した「新省エネ基準・住宅省エネルギー技術者講座」の説明が行われた（20～27 ページ）。

建築士会CPD認定講座単位：4単位の講座である。

シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説の説明が行われた。

ワークショップとしてクライアントの要求を基に、リノベーションするといった内容で実施した。

講座案内、実証講座の様子の説明が行われた（受講者のほとんどが建築士有資格者であった等）。

社会人の平日の開講と長時間は難しいため、受講者を多く集めるポイントとなる。 等

- ・第三者評価について説明が行われた（28～31 ページ）。

企画推進委員会の中から直接カリキュラム等に携わっていない委員からの評価をもらう。

評価判断の資料の説明、評価様式の説明が行われた。

評価結果として、点数とコメントについての説明が行われた。

別の団体から評価されることがポイントである。受講者集めがポイントとなる。

来年度に向けてであるが、現在のところ未決定な状況ではあるが、本年度開発した教育プログラムを別の地域、大都市圏で実施する予定であり、内容もカスタマイズする。

また、本年度開発した講座はCPD認定講座としてどの学校でも使用できる講座となっているため、それぞれの学校で実施してもらう下地作りはできており、多くの学校で活用いただき一人でも多くの社会人受講者を増やすことを目的とする。 等

本年度事業の詳細は、成果報告書をお送りしますので、ご確認いただければと存じます。

本日は、お忙しい中ありがとうございました。との言葉で成果報告会が終了し、散会となった。

以上

平成28年度文部科学省委託事業
「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業

社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成事業委員

(順不同 敬称略)

佐々木 章	学校法人小山学園 理事／統括本部長
中村 健二	清水建設株式会社 技術研究所・センター所長
井上 利一	株式会社ジオリズム・代表取締役
加藤 陽介	株式会社楓設計室・代表取締役・一級建築士
吉川 隆治	株式会社マスターリンク・営業部長
西山 正晃	土佐経済同友会・幹事／高知トヨペット株式会社・代表取締役
霜野 隆	一般社団法人日本インテリアプランナー協会・会長
佐藤 幸太郎	東京商工会議所 検定センター・所長
菊池 圭二	東京商工会議所 中野支部・事務局長
川瀬 健介	特定非営利活動法人生活・福祉環境づくり21・参与
澤登 信子	エコピブル支援協議会
佐々木 進市	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会・理事長
今井 秀雄	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会・副理事長
佐藤 孝史	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会・副理事長
藤本 晴男	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会・副理事長
鬼頭 正克	特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会・副理事長
稲永 由紀	筑波大学 大学研究センター・講師
小沢 喜仁	福島大学 地域創造支援センター長
依田 浩敏	近畿大学 産業理工学部 建築・デザイン学科・教授
小泉 雅生	首都大学東京大学院 都市環境学部 建築都市コース都市環境学科研究科 建築学域・教授
伊藤 泰彦	武蔵野大学 工学部建築デザイン学科・教授
今泉 清太	学校法人麻生塾 麻生建築&デザイン専門学校・教務部長
佐竹 新市	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス&フード専門学校・理事長
田口 一子	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校・校長
福岡 壯治	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校・校長
上岡 直司	学校法人龍馬学園 本部・課長
石元 優	学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ 教務部・課長
中山 裕志	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校・教員
高瀬 恵悟	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ・校長
山口 奈津	学校法人小山学園 学園本部 専門学校東京テクニカルカレッジ 事務局

社会人等学び直しのための環境・エネルギー分野における中核的人材養成事業 事務局
連絡先 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 学校法人小山学園 学園本部内
TEL 03-3360-8153 FAX 03-3360-8830



本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。